

令和6年度 宮崎県結婚・子育て意識調査 調査結果報告書

令和6年10月

宮 崎 県

I はじめに

1. 調査の目的	1
2. 調査の対象、方法	1
3. 調査の期間	1
4. 回収率	1

II 調査の結果

<回答者の属性>

1. 結婚や子どもを持つことについて	
問1結婚について、どのように感じるか	8
問2子どもを持つことについて、どのように感じるか	12
問3結婚に関する不安や負担	15
問4結婚することで得られるもの	17
問5結婚することによる不安や負担	19
問6結婚相手との出会いの場として期待するもの	21
2. 出産や子育てに関することについて	
問7子育てに関する不安や負担	25
問8子育てに関する悩みや不安の内容	27
問9希望する子ども数及び現実に持てると思う子ども数	31
問10問9で「1人」又は「いない」を選んだ理由	35
問11「予定している子どもの数」が「希望する子ども数」よりも少ない理由	37
問12子どもが欲しい年齢	41
3. 子育て環境や地域に関することについて	
問13子育て環境に対する意識	43
問14育て環境の整備について県や市町村に求める政策	45
問15暮らしている地域やあなたと地域との関わりについて	49
問16暮らしている地域の暮らしやすさや居心地のよさについて	50
問17子どもの頃の経験について	51
問18ご自身についての考え	52
4. 子どもの貧困対策に関することについて	
問19子どもの貧困対策について県や市町村に求める政策	53
5. 仕事と子育ての両立に関することについて	
問20仕事と子育てを両立させるための取組	57
問21男性が子育てに積極的に参加するために必要なこと	61
問22育児休業制度の利用意向	64
問23育児休業制度の利用が難しい理由	66
6. 子どもがいる人の回答	
問24第1子が生まれたときの年齢	69

問25第1子が生まれたときのあなたの年齢について	70
問26結婚してから第1子が生まれるまでの期間について	71
問27子育てに関する悩みや不安の相談相手	73
問28子どもと外出する際に困ること	77
問29急用時に子どもを預ける場所	80

7. 未婚の人の回答

問30結婚についての考え	82
問31問30について、結婚の理想の年齢	84
問32結婚の見通しについて	88
問33結婚が遅くなる・できそうにない理由	89
問34現在、交際している異性について	92
問35周囲で交際や結婚につながる異性との出会いについて	93
問36出会いがないと思う理由	94
問37独身でいる理由	96
問38独身でいることに対する意識	100

I はじめに

1. 調査の目的

本調査は、結婚や子育てに関する県民の意見やニーズを把握し、今後の子ども・子育て支援の各種施策の推進に活用するとともに、宮崎県が策定する「宮崎県こども計画(仮称)」策定の基礎資料とすることを目的として実施しました。

2. 調査の対象、方法

住民基本台帳から無作為抽出した宮崎県内在住の20代から40代の男女3,000人(男性:1,500人、女性:1,500人)を対象。

調査票の発送は郵送。回答は郵送またはWEB。

3. 調査の期間

令和6年8月

4. 回収率

	回収率	配布数	回収数
男性	20.5%	1,500件	307件
女性	39.2%	1,500件	588件
性別無回答	-	-	1件
全体	29.9%	3,000件	896件

5. 留意事項

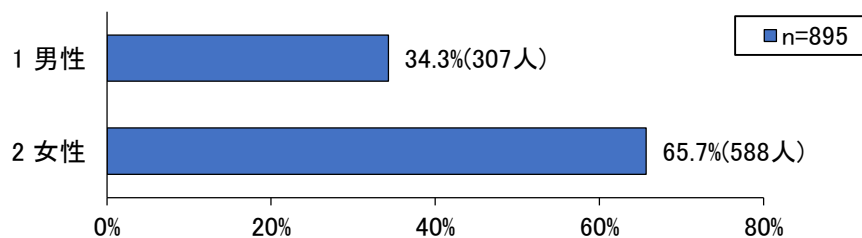
- ・各設問の集計母数(n=)は無回答を除いているため、全体の母数(=896)と一致しません。
- ・百分率は小数点第2位で四捨五入し、小数点第1位まで示しているため、単一回答の回答比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答の設問は、回答比率の合計が100.0%を上回ります。
- ・複数回答の設問で、過去調査との比較においては、令和6年度は無回答を除いて集計し、令和元年度と平成26年度は無回答を含めて集計しています。

Ⅱ 調査の結果

<回答者の属性>

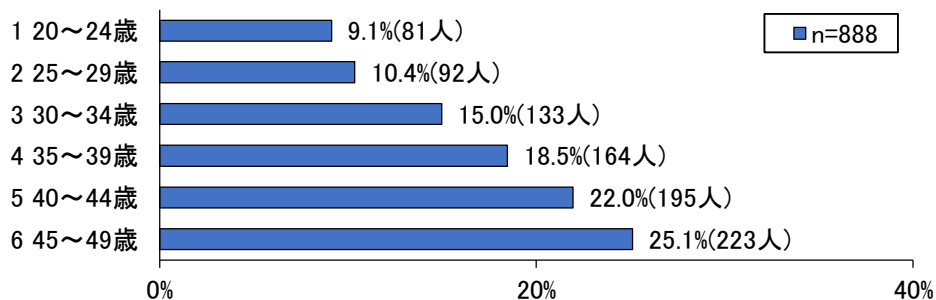
(1) 性別

<全体>

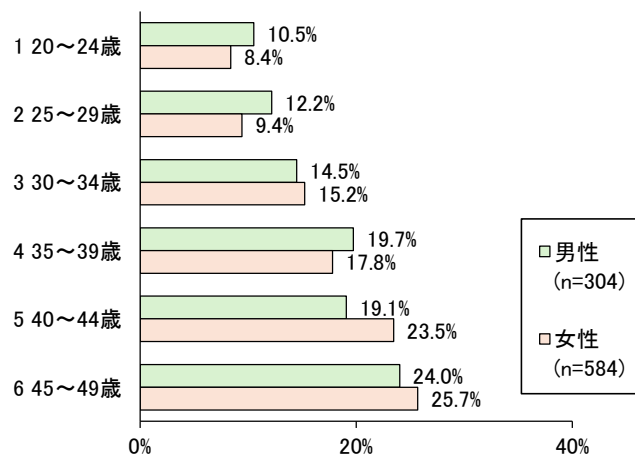


(2) 年代

<全体>

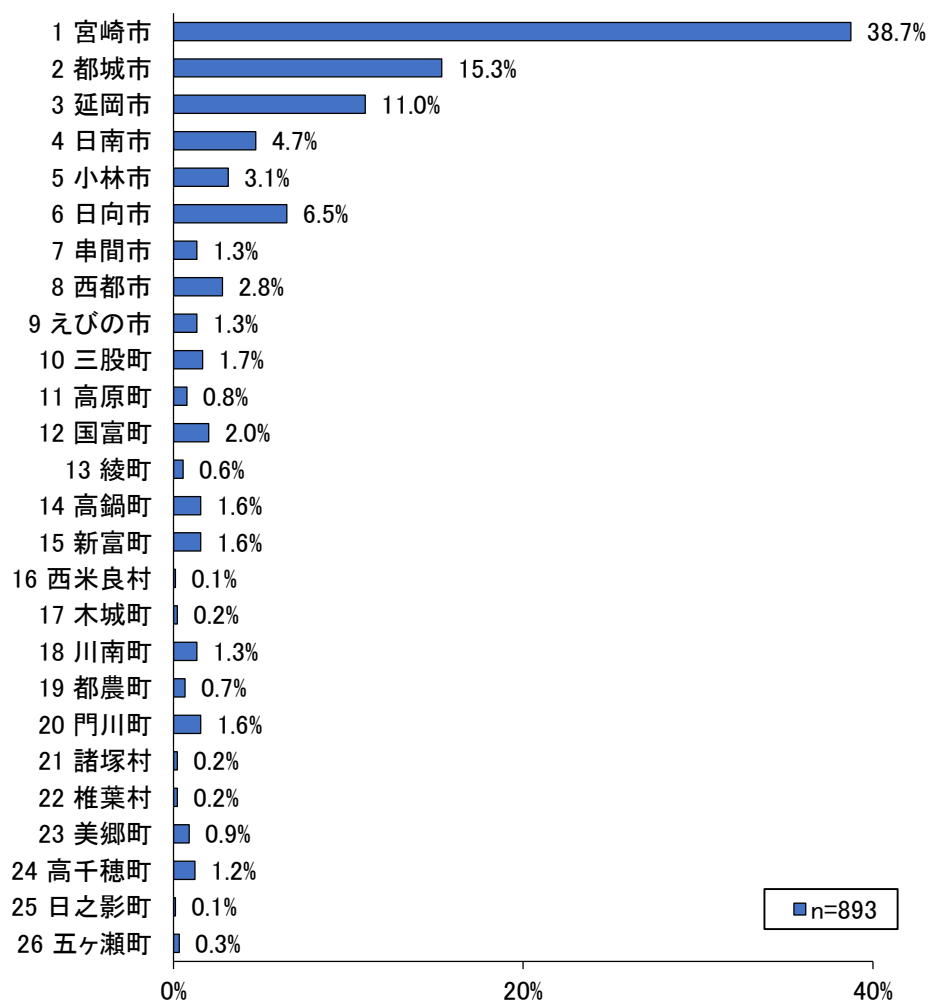


<性別>



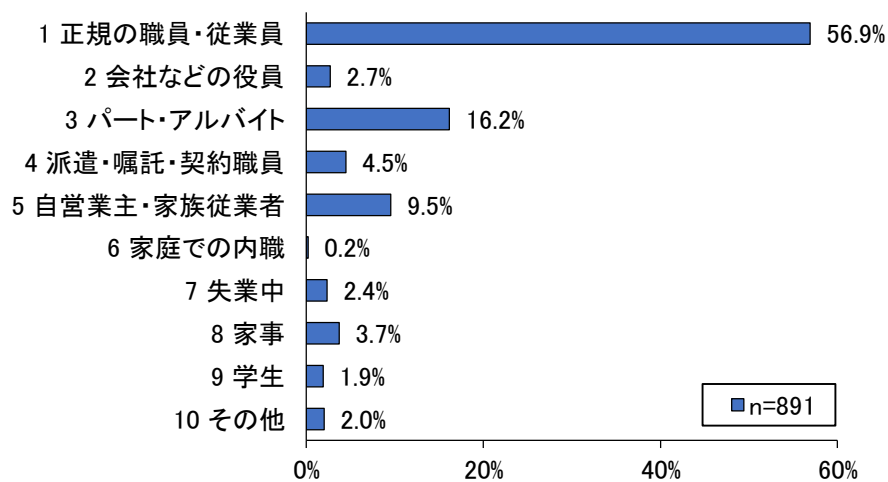
(3)居住地

<全体>



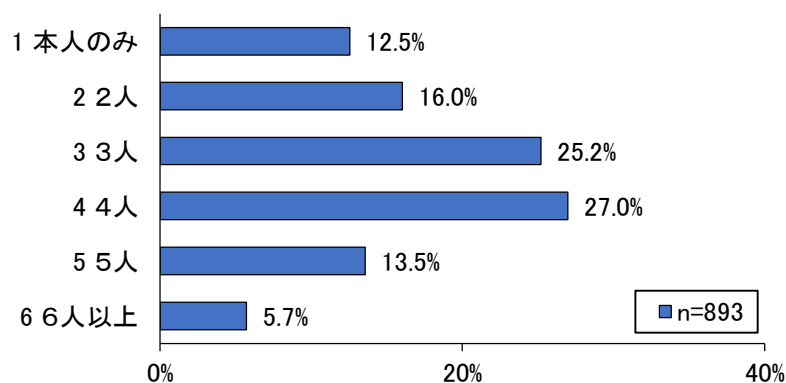
(4)雇用形態等

<全体>



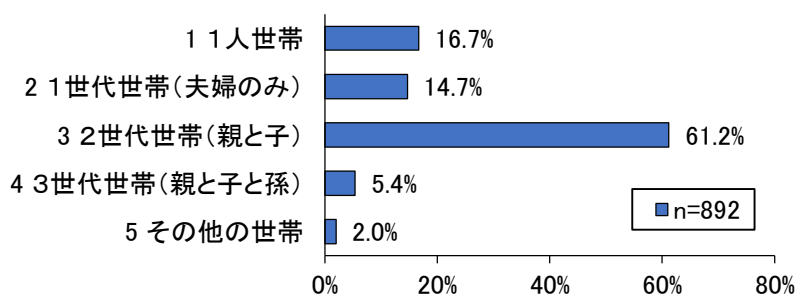
(5) 世帯人数

<全体>



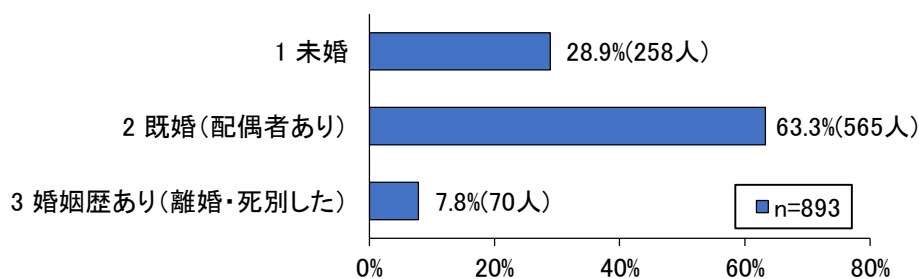
(6) 世帯構成

<全体>

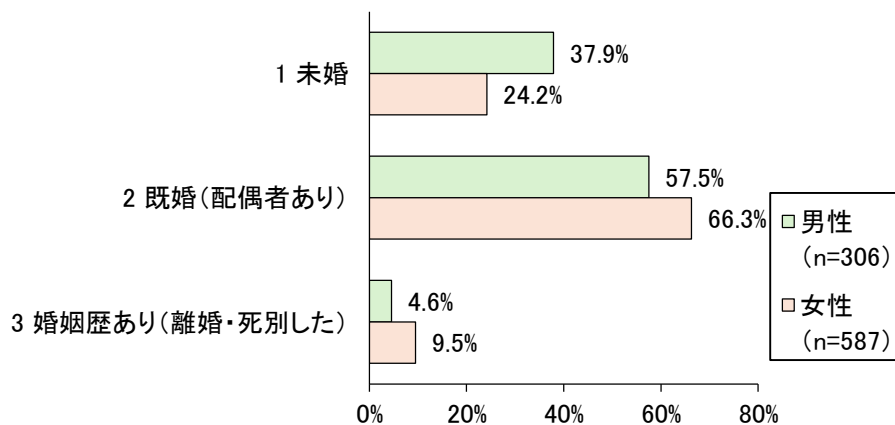


(7) 婚姻の状況

<全体>

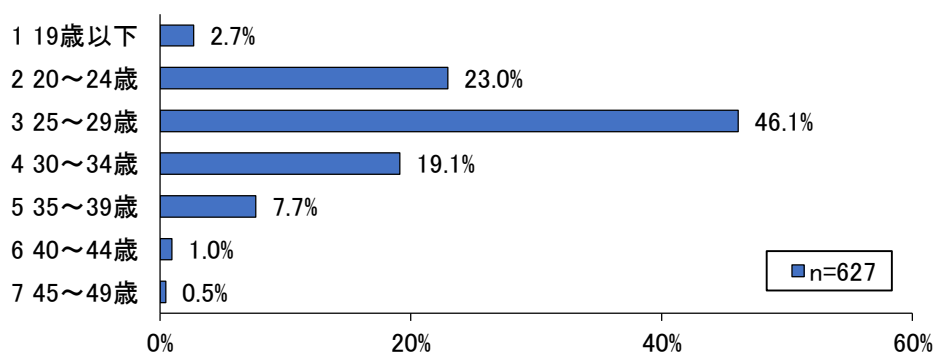


<性別>

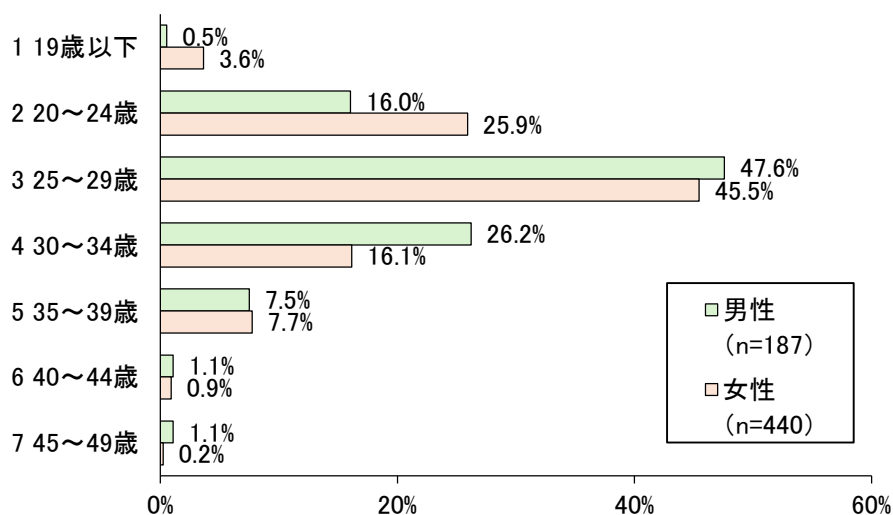


(8) 初婚年齢

<全体>

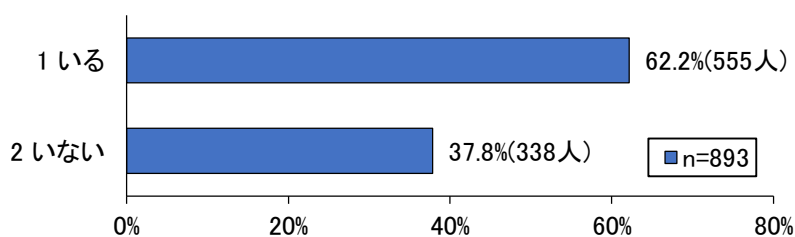


<性別>



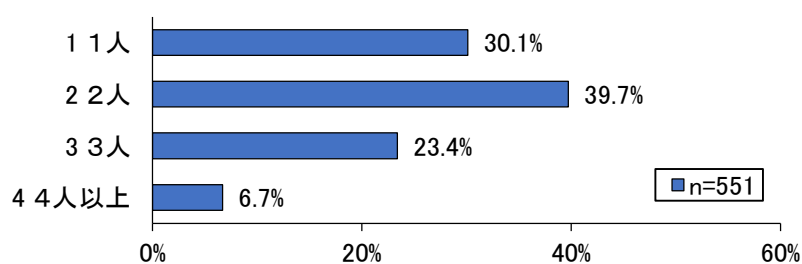
(9) 子どもの有無

<全体>



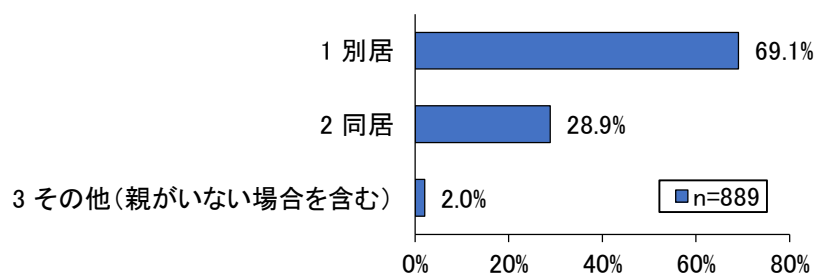
(10) 子どもの人数(子どもがいる人)

<全体>



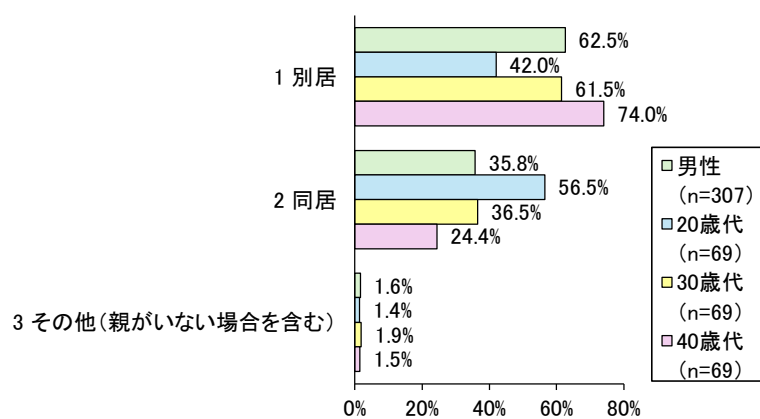
(11)親との同居・別居の状況

<全体>

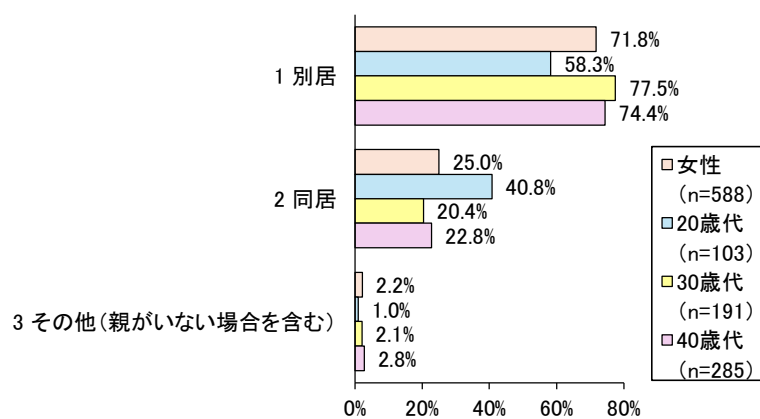


<年代別>

・男性



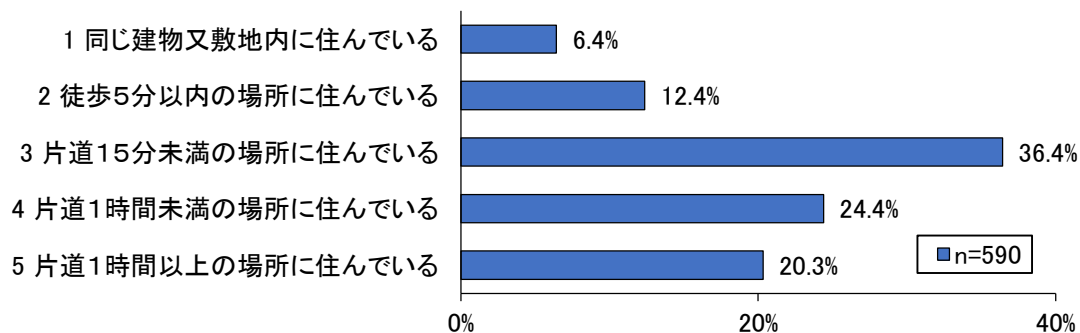
・女性



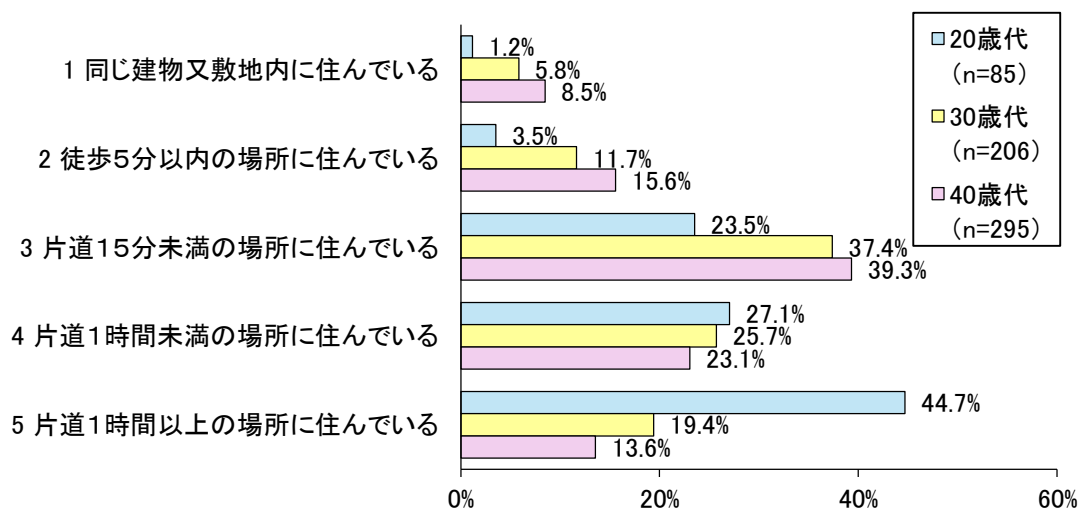
(12) 親の居住地の所要時間(親と別居している人)

※「片道15分」及び「片道1時間」とは、普段行き来に利用している交通手段による所要時間

<全体>



<年代別>



1. 結婚や子どもを持つことについて

問1 結婚について、どのように感じますか。以下の各項目(①～⑤)について、1つずつ選んで○をつけてください。

①結婚することは自然なことである

全体では、『思う』(「とてもそう思う」と「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の計:以下同じ)割合が75.4%、『思わない』(「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」と「まったくそう思わない」の計:以下同じ)割合が24.5%となっています。

性別では、男女とも全体とほぼ同じとなっています。

年代別では、各年代とも全体とほぼ同じ結果となっています。

②結婚することは重要である

全体では、『思う』割合が56.7%、『思わない』が43.3%となっています。

性別では、『思う』割合は男性が63.8%、女性が52.9%で、男性が女性を10.9ポイント上回っています。

年代別では、各年代とも全体とほぼ同じ結果となっています。

③結婚して配偶者がいたら生活が楽しく豊かになる

全体では、『思う』割合が77.9%、『思わない』が22.2%となっています。

性別では、『思う』割合は男性が81.3%、女性が75.8%で、男性が女性を5.5ポイント上回っています。

年代別では、年代が下がる、『思う』割合が高まっています。

④仲の良い夫婦を見ると幸せそうと思う

全体では、『思う』割合が92.1%、『思わない』が7.9%となっています。

性別では、男女とも全体とほぼ同じとなっています。

年代別では、各年代とも全体とほぼ同じ結果となっています。

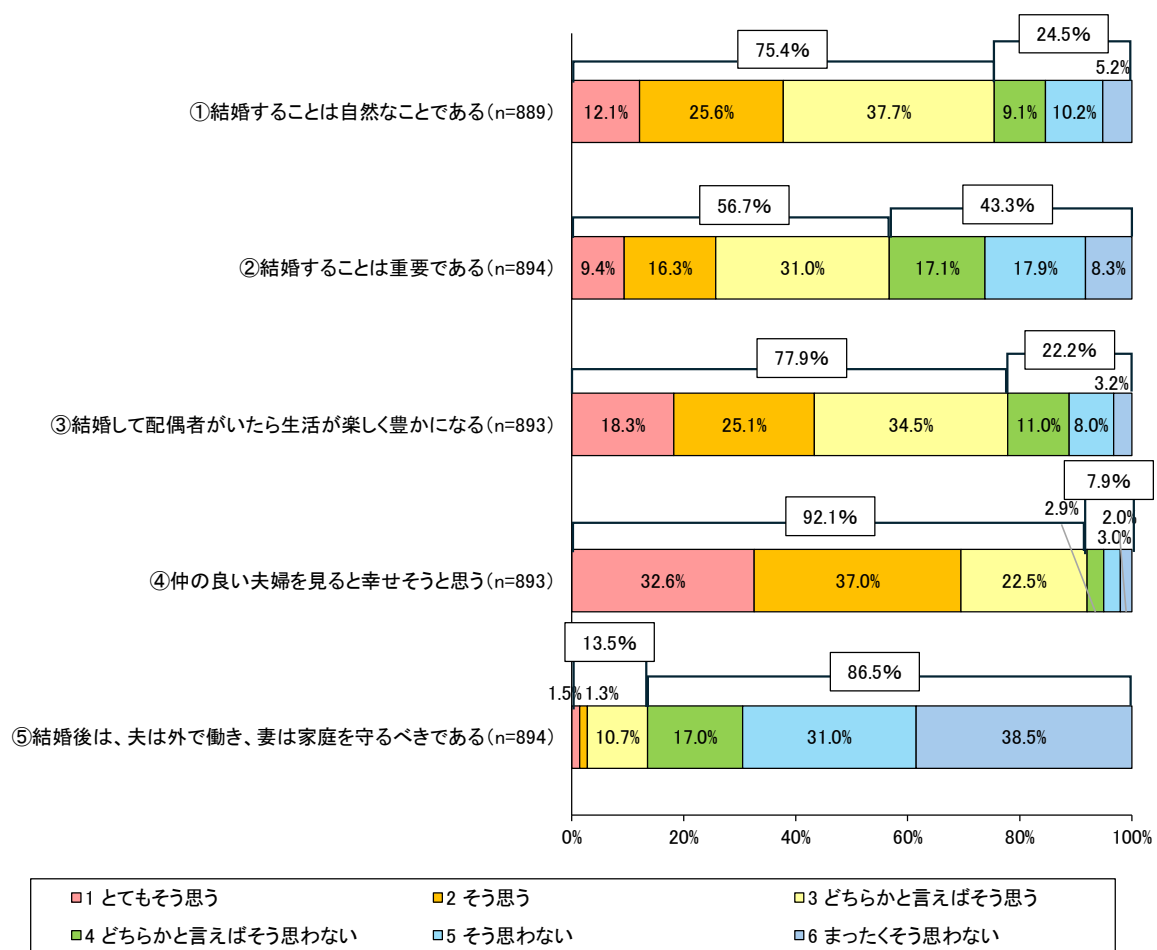
⑤結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

全体では、『思う』割合が13.5%、『思わない』が86.5%となっています。

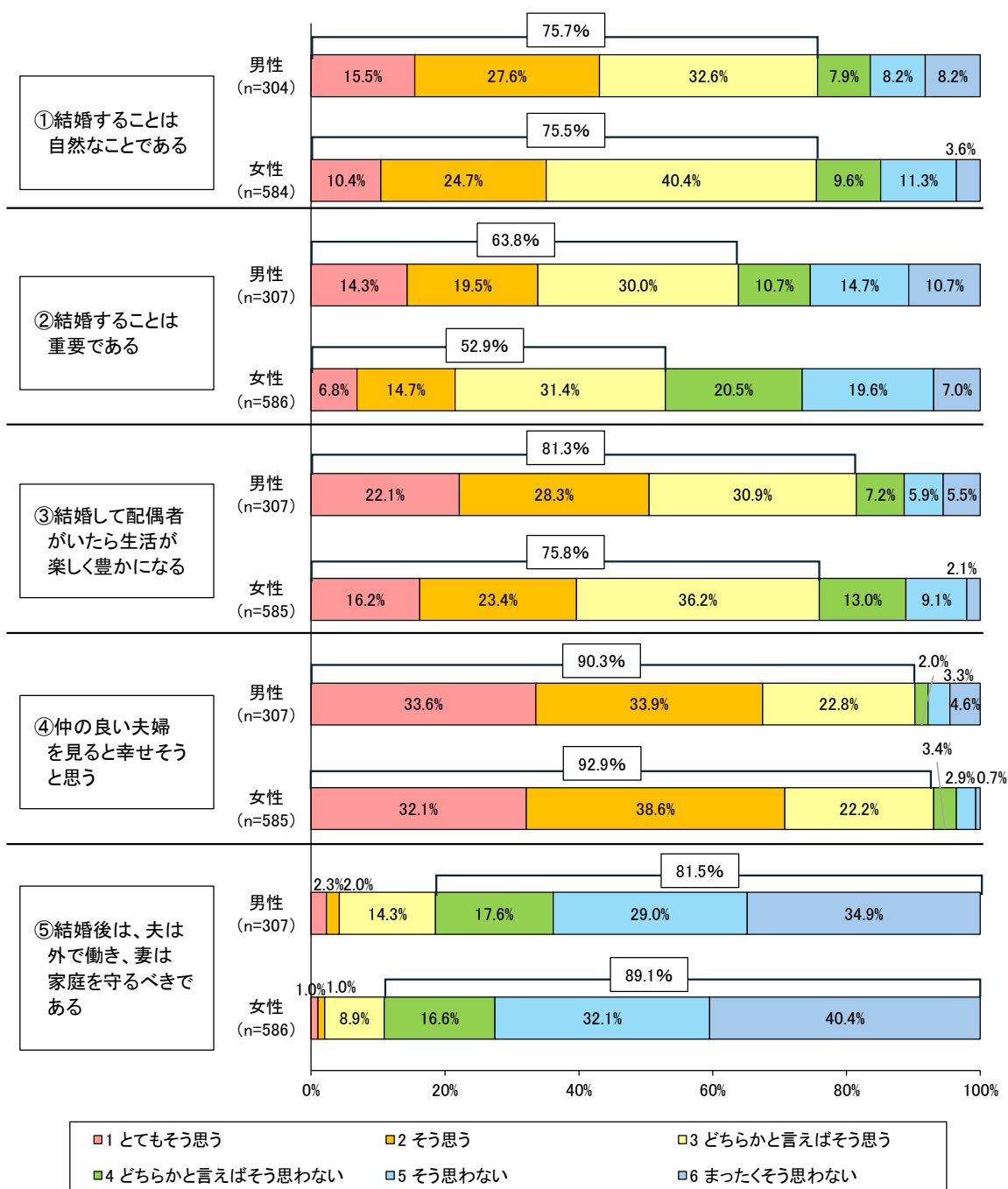
性別では、『思わない』割合が男性は81.5%、女性は89.1%で、女性が男性を7.6ポイント上回っています。

年代別では、年代が下がる、『思わない』割合が高まっています。

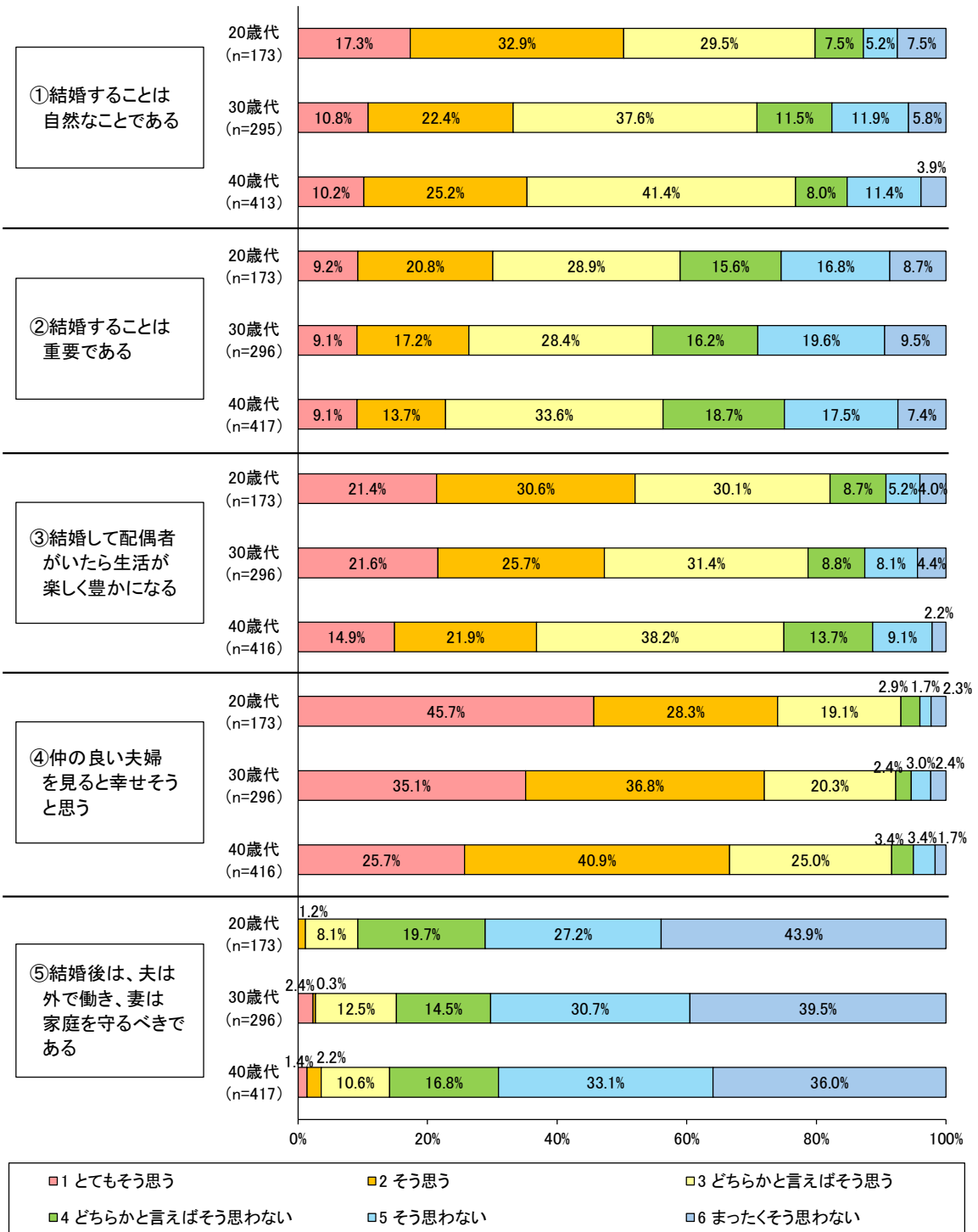
<全体>



<性別>



<年代別>



問2 子どもを持つことについて、どのように感じますか。以下の各項目(①～④)について、1つずつ選んで○をつけてください。

①子どもを持つことは自然なことである

全体では、『思う』割合が70.6%、『思わない』が29.3%となっています。

性別では、男女とも全体とほぼ同じ結果となっています。

年代別では、各年代とも全体とほぼ同じ結果となっています。

②子どもを持つことは重要である

全体では、『思う』割合が60.4%、『思わない』が39.7%となっています。

性別では、『思う』割合は男性が65.4%、女性が57.9%で、男性が女性を7.5ポイント上回っています。

年代別では、各年代とも全体とほぼ同じ結果となっています。

③子どもがいたら生活が楽しく豊かになる

全体では、『思う』割合が85.9%、『思わない』が14.1%となっています。

性別では、男女とも全体とほぼ同じ結果となっています。

年代別では、各年代とも全体とほぼ同じ結果となっています。

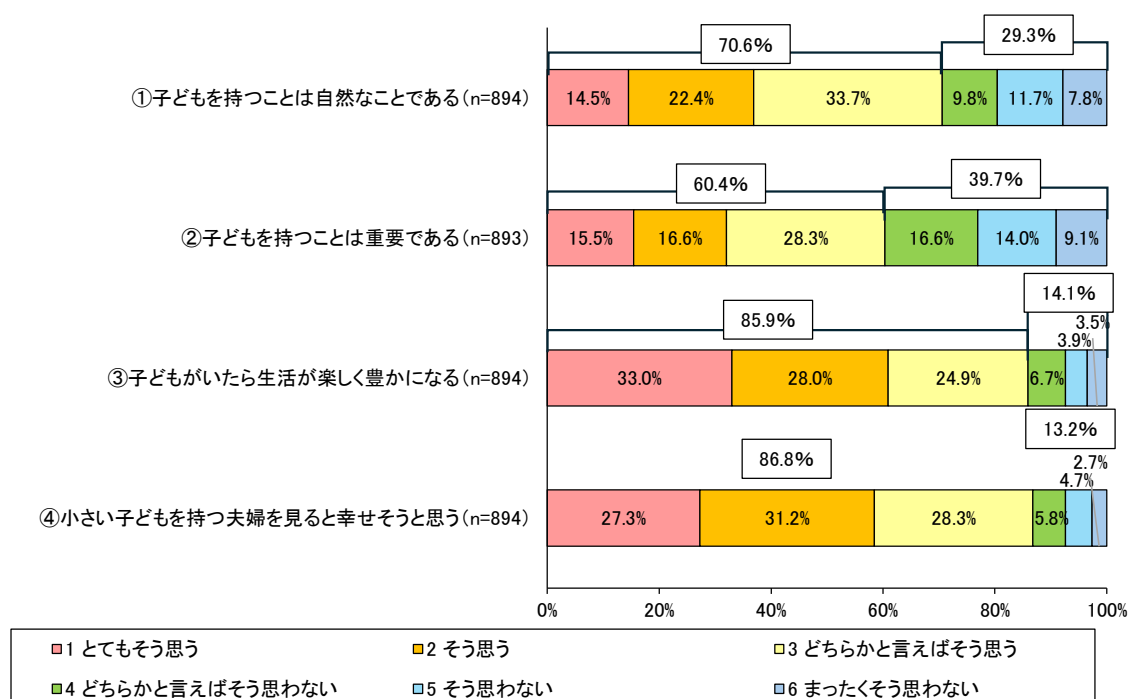
④小さい子どもを持つ夫婦を見ると幸せそうと思う

全体では、『思う』割合が86.8%、『思わない』が13.2%となっています。

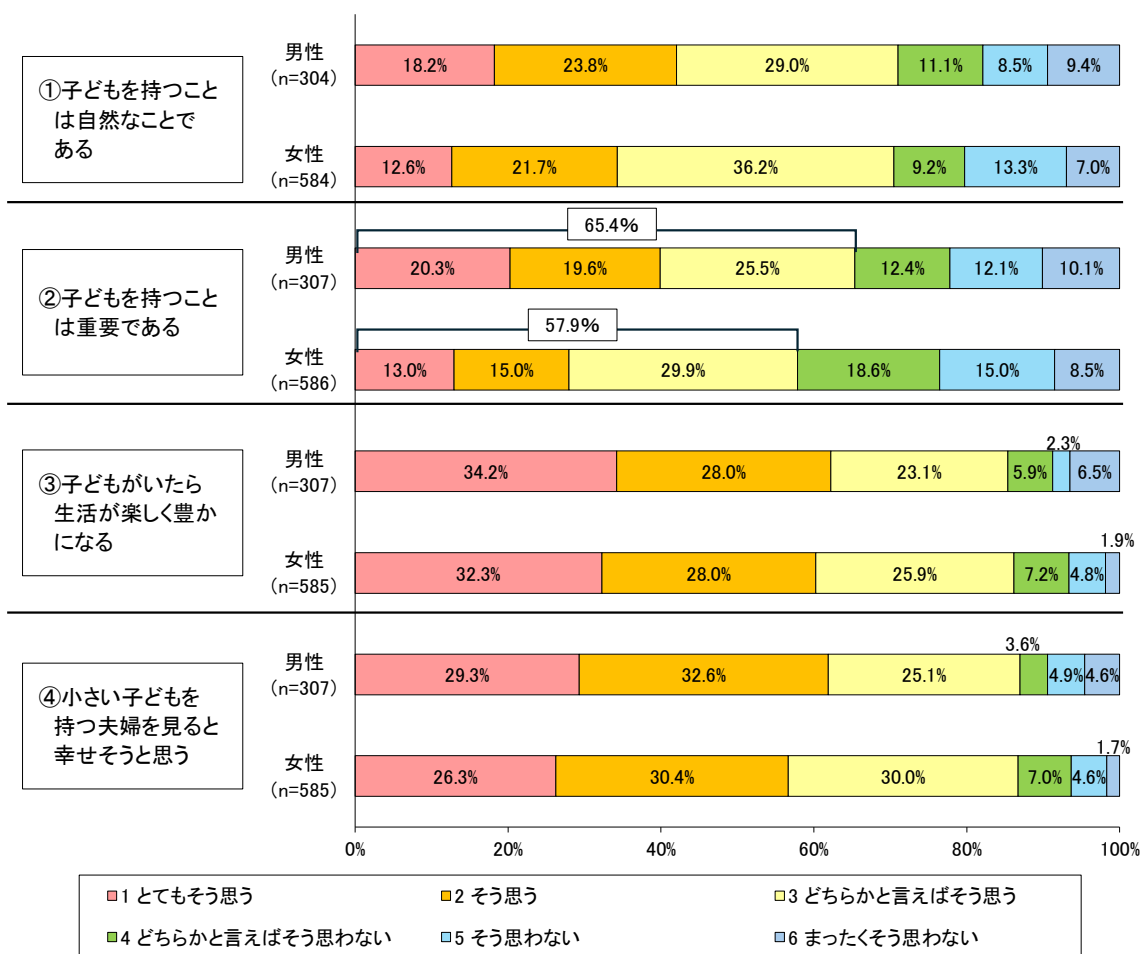
性別では、男女とも全体とほぼ同じ結果となっています。

年代別では、各年代とも全体とほぼ同じ結果となっています。

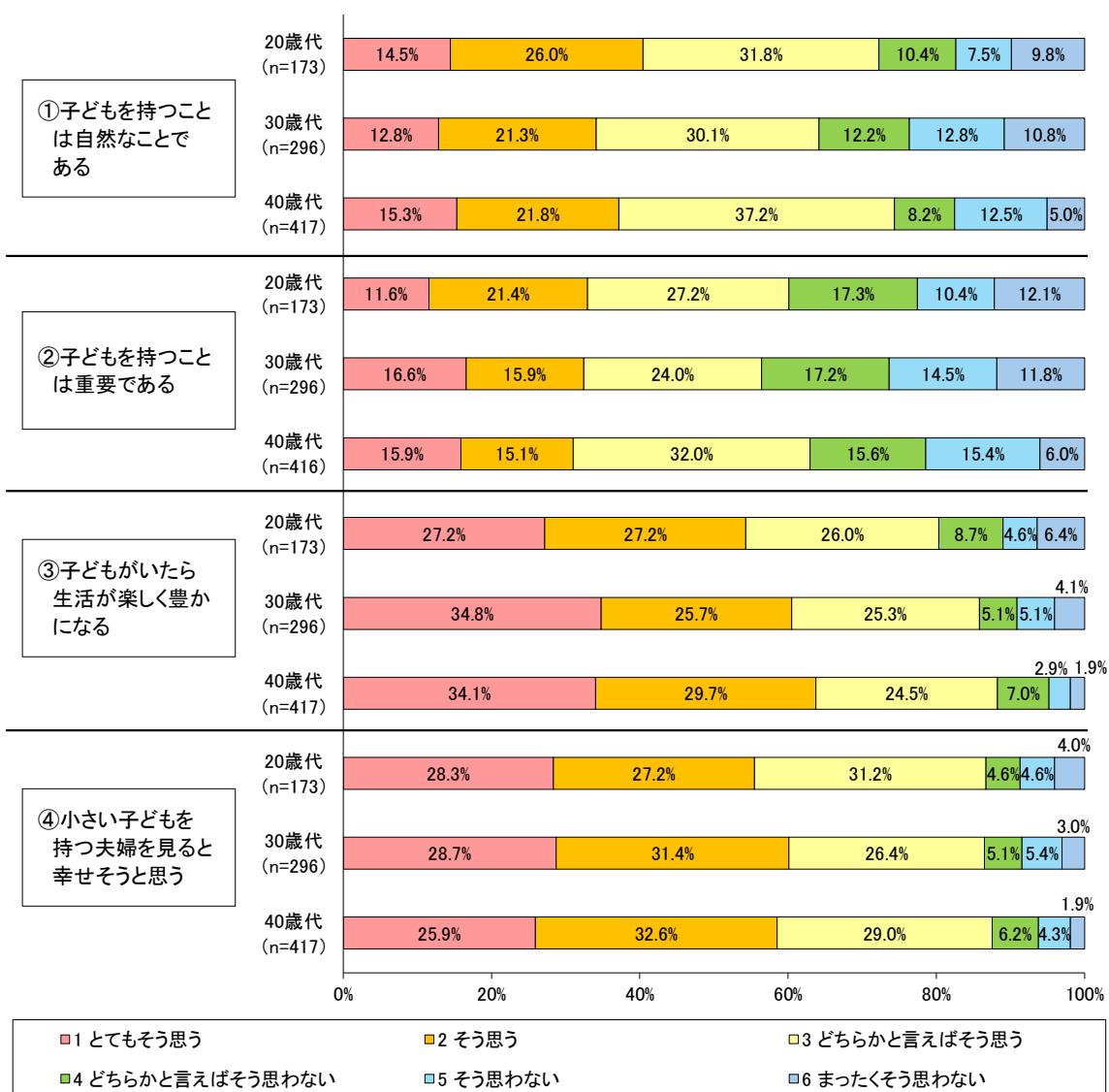
<全体>



<性別>



<年代別>



問3 あなたは結婚されているのであれば、結婚に対して、不安や負担を感じていますか。次の項目の中から1つだけ選んで番号に○をつけてください。

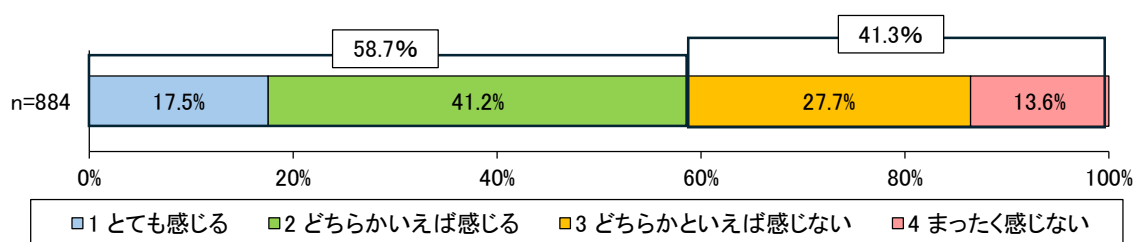
全体では、『感じる』（「とても感じる」と「どちらかといえば感じる」の計：以下同じ）割合（58.7%）が、『感じない』（「どちらかといえば感じない」と「まったく感じない」の計：以下同じ）（41.3%）を17.4%上回っています。

性別では、男女とも全体とほぼ同じ結果となっています。

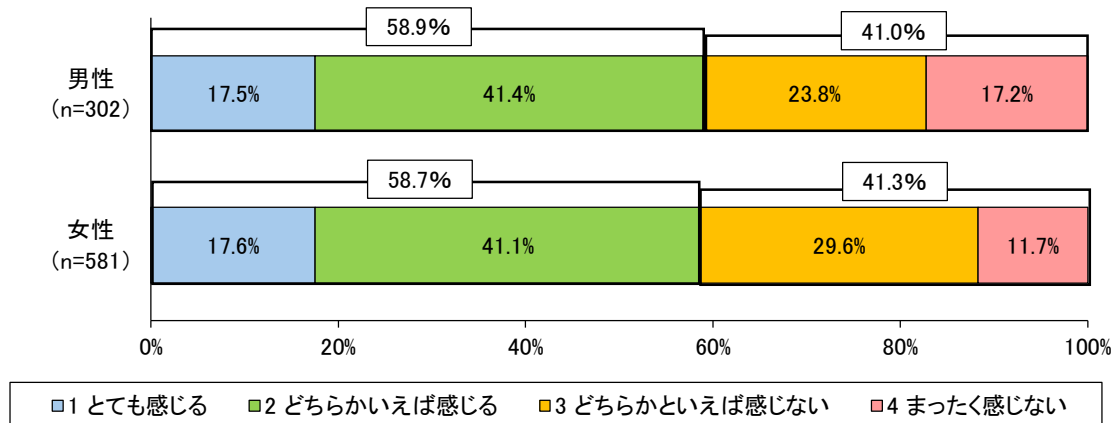
年代別では、20歳代で『感じる』割合が67.5%で、全体（58.7%）を8.8ポイント上回っています。

過去調査との比較では、『感じる』割合は高まる傾向で推移しています。（平成26年度：45.6%→令和元年度：54.7%→令和6年度：58.7%）

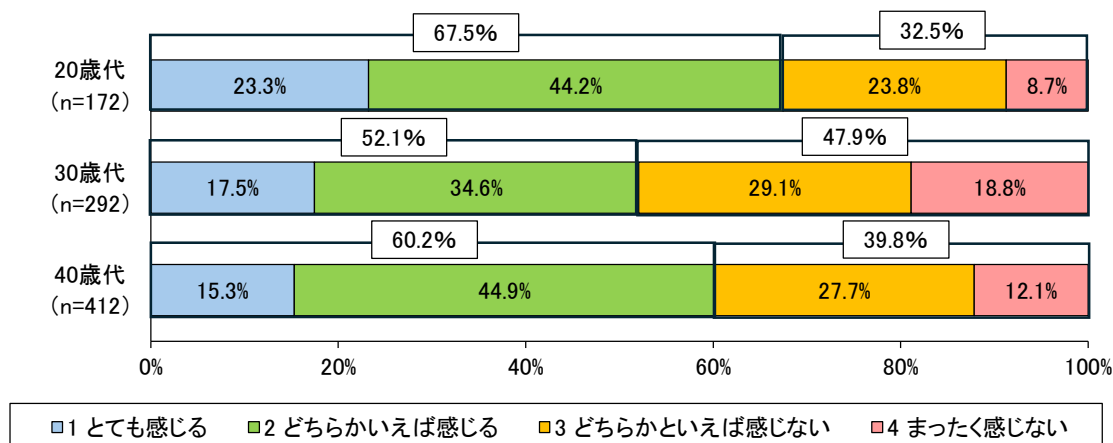
<全体>



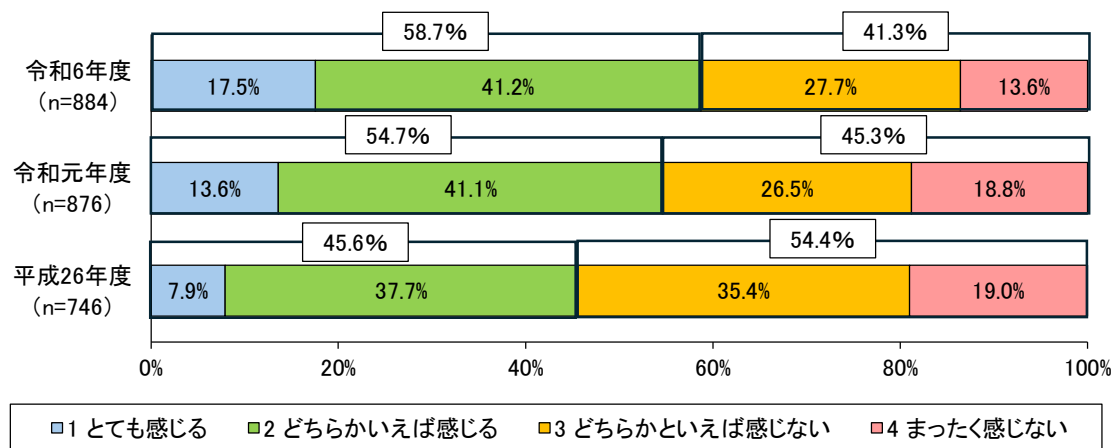
<性別>



<年代別>



<過去調査との比較>



問4 結婚することで得られることは何だと思いますか。次の項目から2つまで選んで番号に○をつけてください。

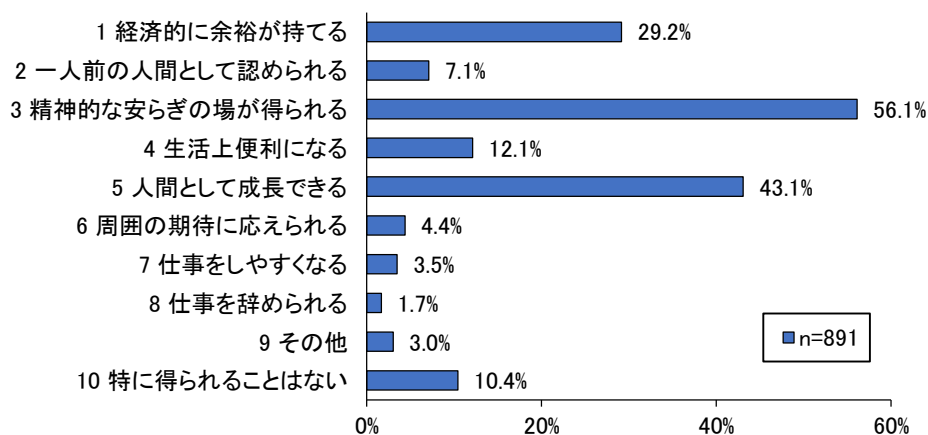
全体では、上位3項目は「精神的な安らぎの場が得られる」の割合(56.1%)が最も高く、次いで「人間として成長できる」(43.1%)、「経済的に余裕が持てる」(29.2%)となっています。

性別では、男女とも「精神的な安らぎの場が得られる」の割合(男性:55.4%、女性:56.4%)が最も高くなっています。次に割合が高い項目は、男性が「人間として成長できる」(男性:52.8%、女性:37.9%)で男性が女性を14.9ポイント上回っており、女性が「経済的に余裕が持てる」(男性:14.4%、女性:36.9%)で女性が男性を22.5ポイント上回っています。

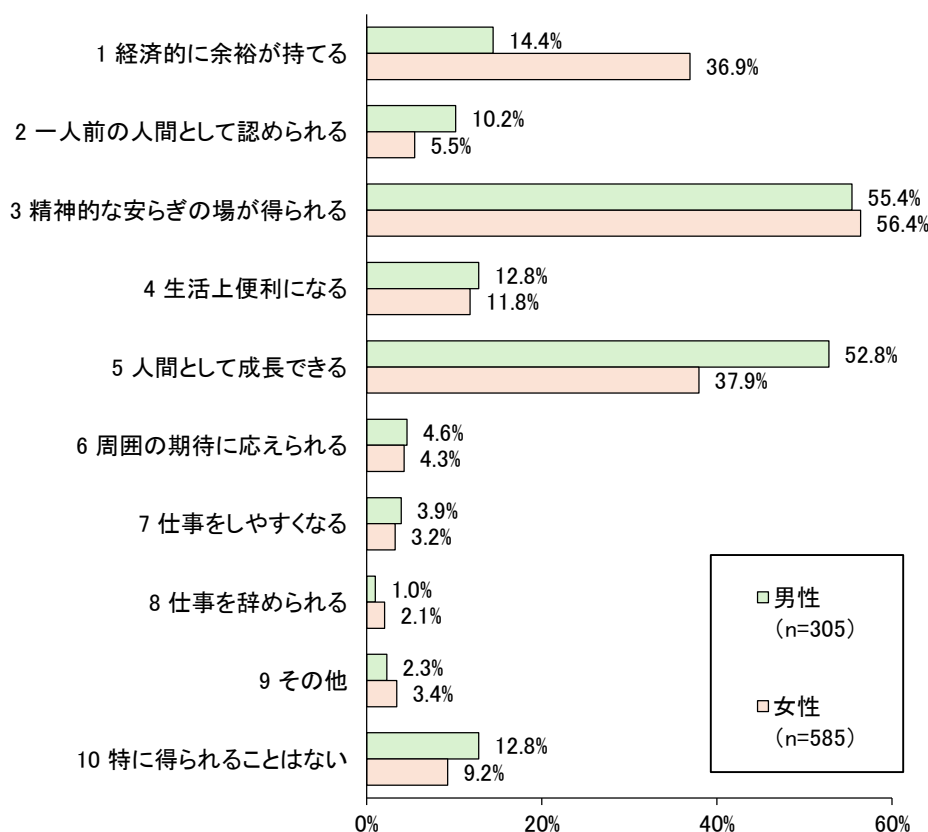
年代別では、各年代とも上位の項目の順位と割合は全体とほぼ同じ結果となっています。

過去調査との比較では、上位の項目の順位と割合はほぼ同じ結果となっています。

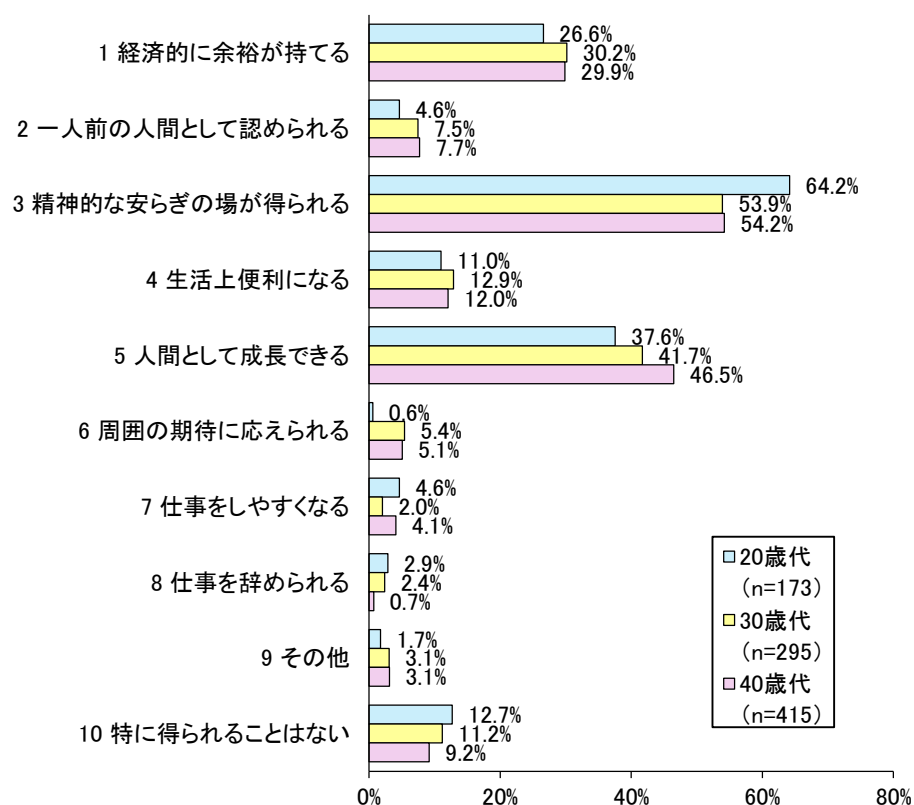
<全体>



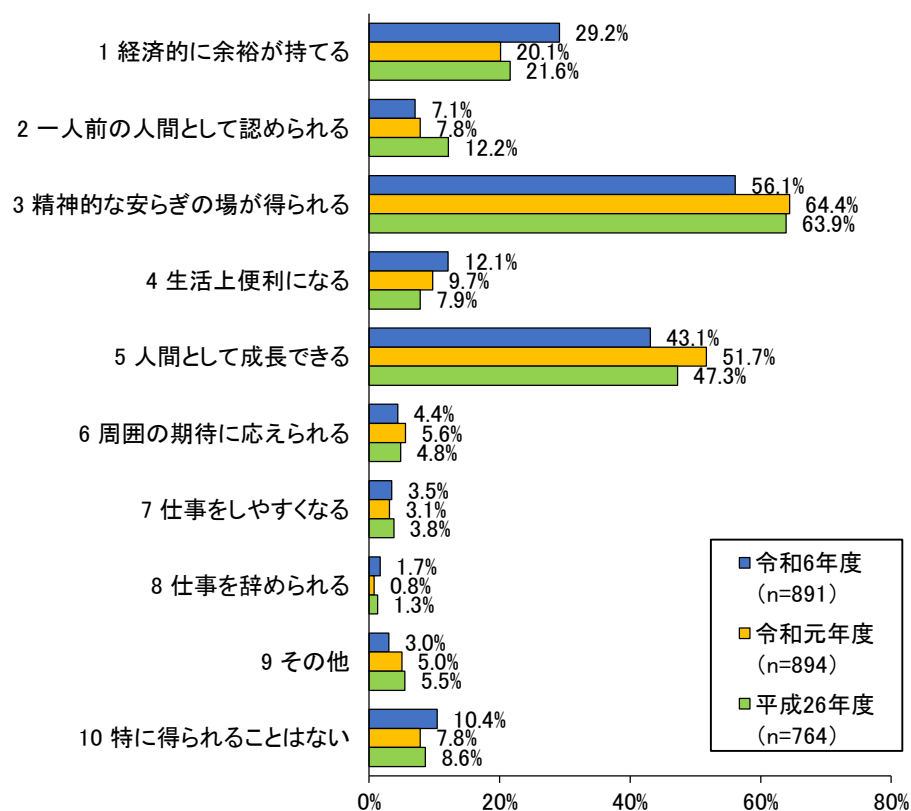
<性別>



<年代別>



<過去調査との比較>



問5 結婚することによって生じる不安や負担は何だと思いますか。次の項目の中から2つまで選んで番号に○をつけてください。

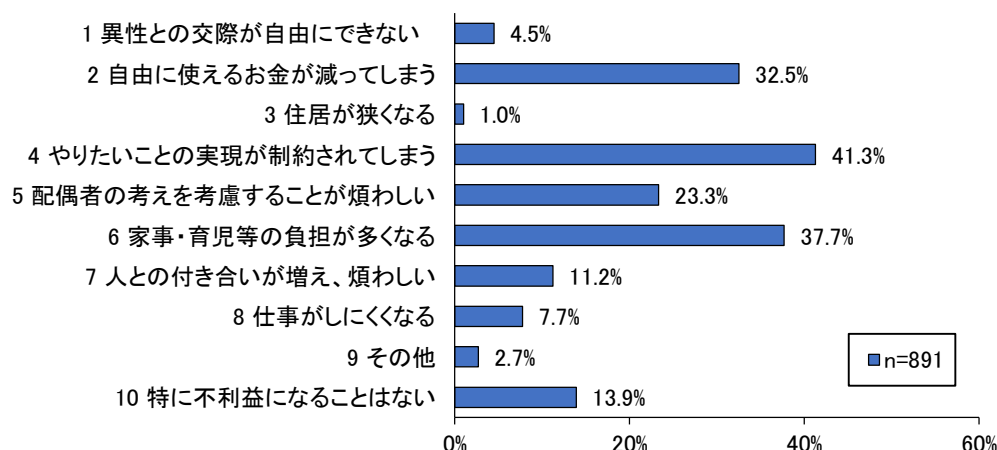
全体では、上位3項目は「やりたいことの実現が制約されてしまう」の割合(41.3%)が最も高く、次いで「家事・育児等の負担が多くなる」(37.7%)、「自由に使えるお金が減ってしまう」(32.5%)となっています。

性別では、男女とも上位の項目の順位は全体とほぼ同じとなっています。その中で、「家事・育児等の負担が多くなる」(男性:32.1%、女性:40.7%)で女性が男性を8.6ポイント上回っており、「自由に使えるお金が減ってしまう」(男性:36.7%、女性:30.3%)で男性が女性を6.4ポイント上回っています。

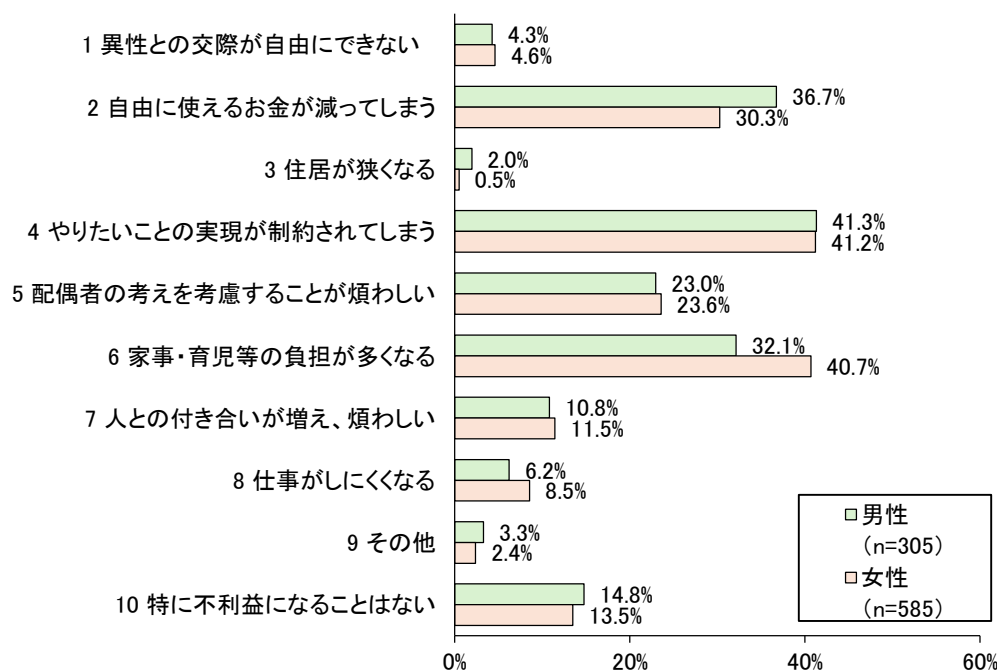
年代別では、各年代とも上位の項目の順位は全体とほぼ同じとなっています。その中で、「自由に使えるお金が減ってしまう」の割合は年代が下がるが高まっています(20歳代:37.0%、30歳代:33.3%、40歳代:29.8%)。

過去調査との比較では、上位の項目の順位と割合はほぼ同じ結果となっています。

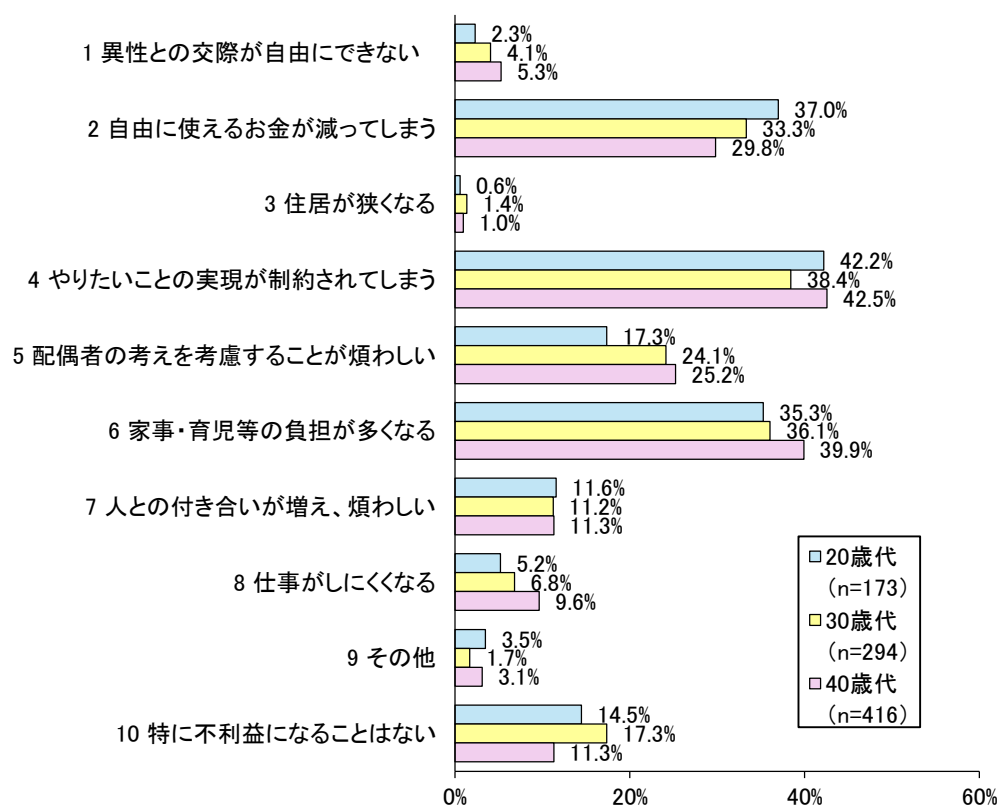
<全体>



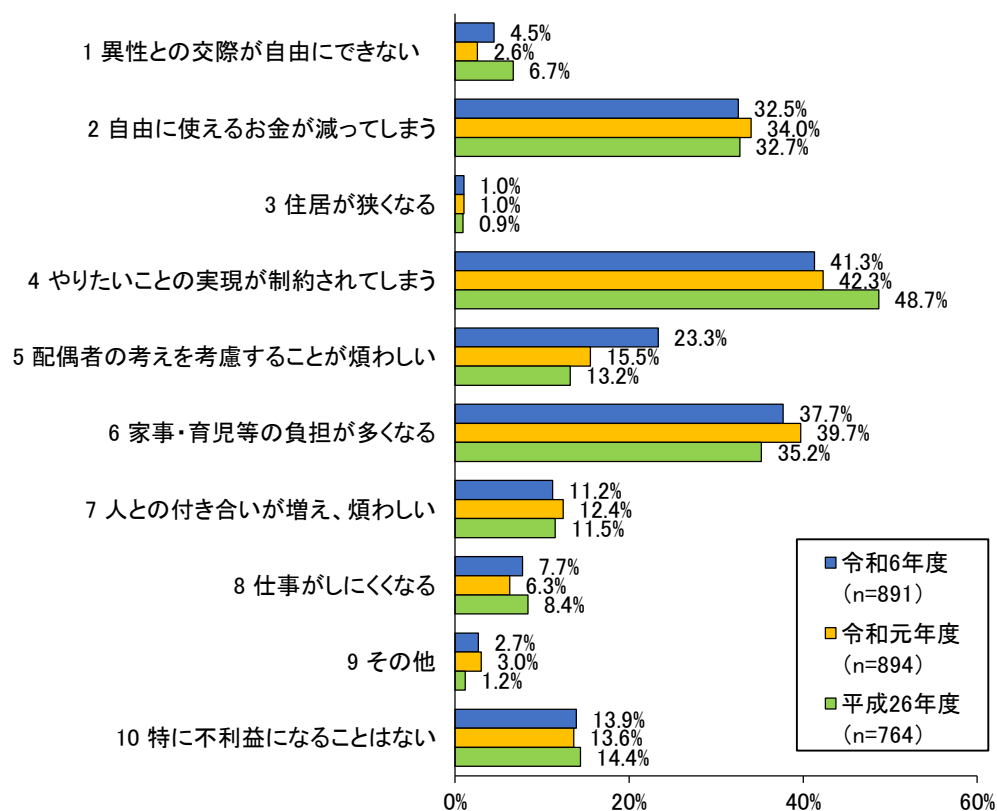
<性別>



<年代別>



<過去調査との比較>



問6 あなたは、結婚相手との出会いの場・きっかけとして何に期待しますか。

独身で、現在交際している方がいない方は、次の項目の中から3つまで選んで○をつけてください。

現在交際している方、または、既婚の方は、現在のお相手(配偶者)との出会いについて1つだけ選んで番号に○をつけてください。

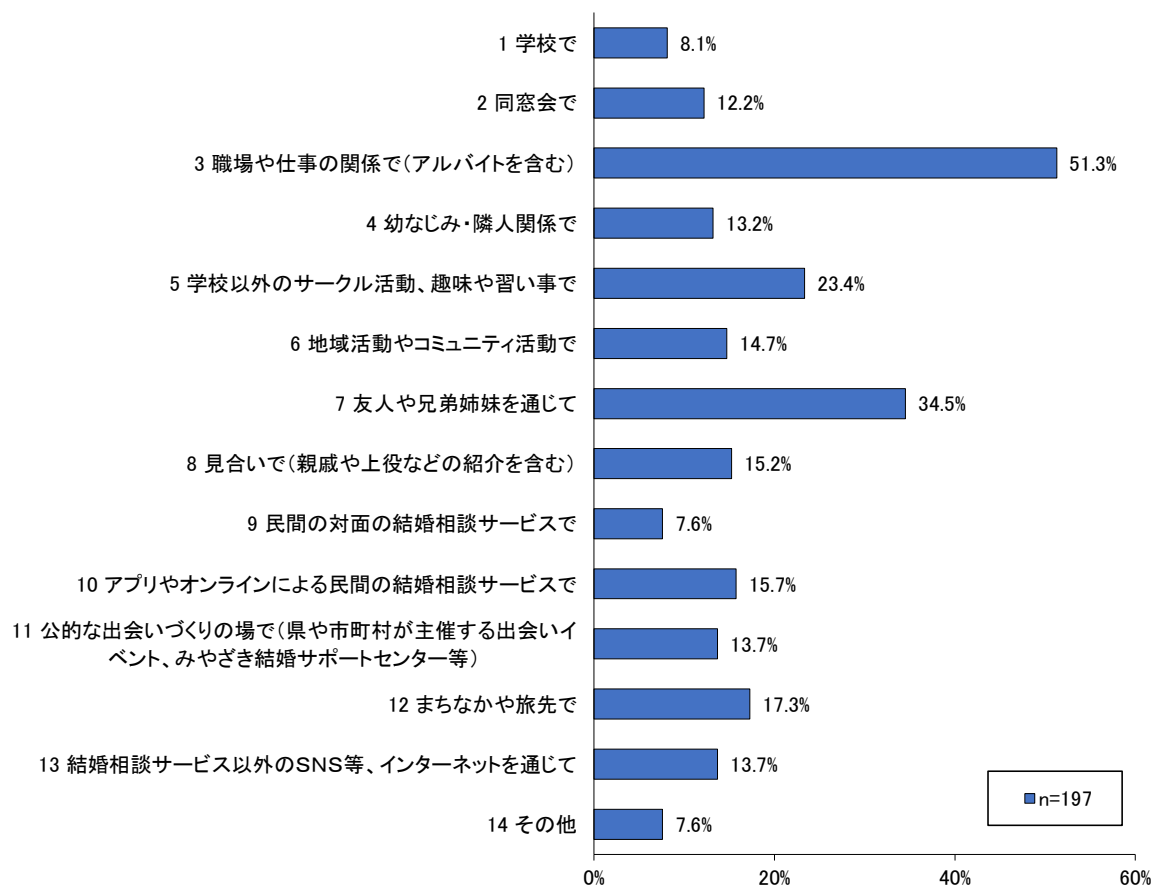
・現在交際相手がいない人

全体では、「職場や仕事の関係で(アルバイトを含む)」の割合(51.3%)が最も高く、次が「友人や兄弟姉妹を通じて」(34.5%)となっています。

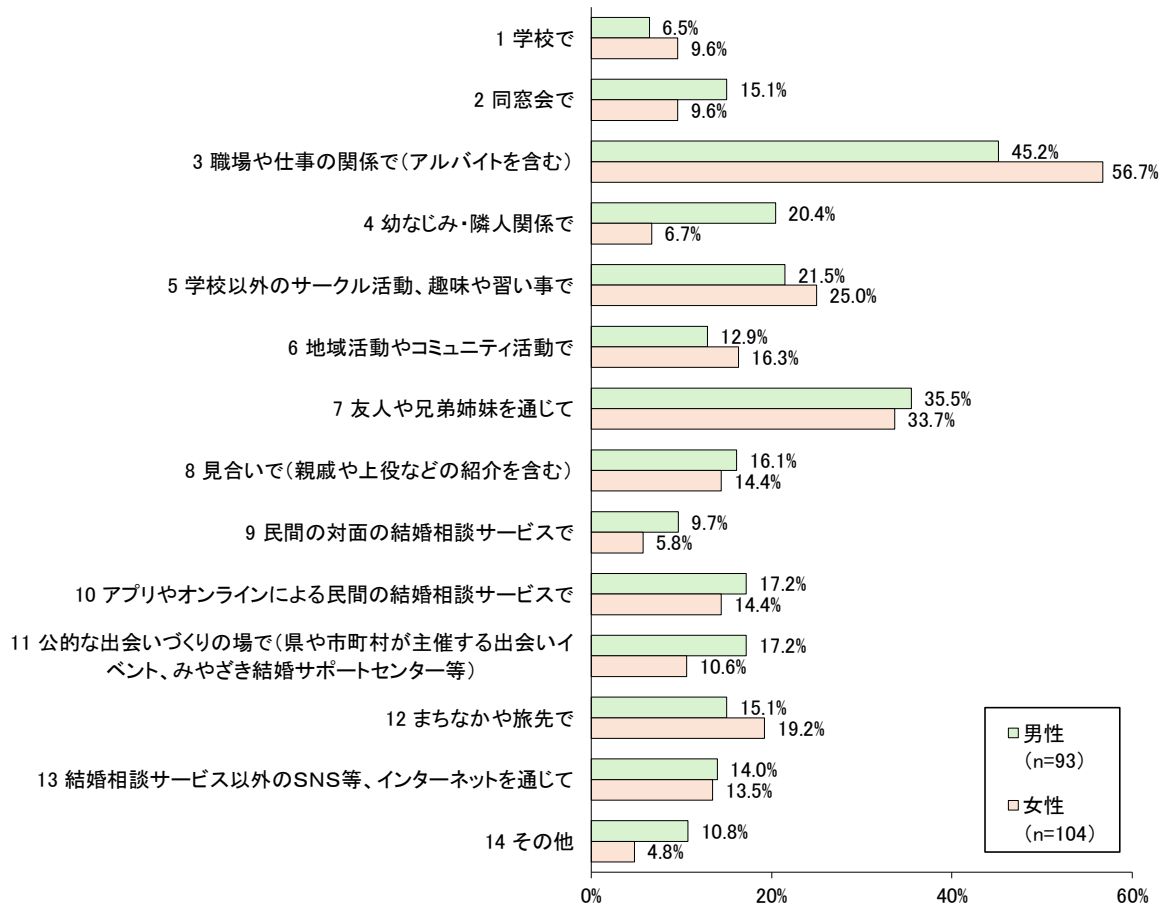
性別では、男女とも「職場や仕事の関係で(アルバイトを含む)」の割合(男性:45.2%、女性:56.7%)が最も高く、次が「友人や兄弟姉妹を通じて」(男性:35.5%、女性:33.7%)となっています。その中で、「職場や仕事の関係で(アルバイトを含む)」は女性が男性を11.5ポイント上回っています。

年代別では、各年代とも上位の項目の順位と割合は全体とほぼ同じとなっています。

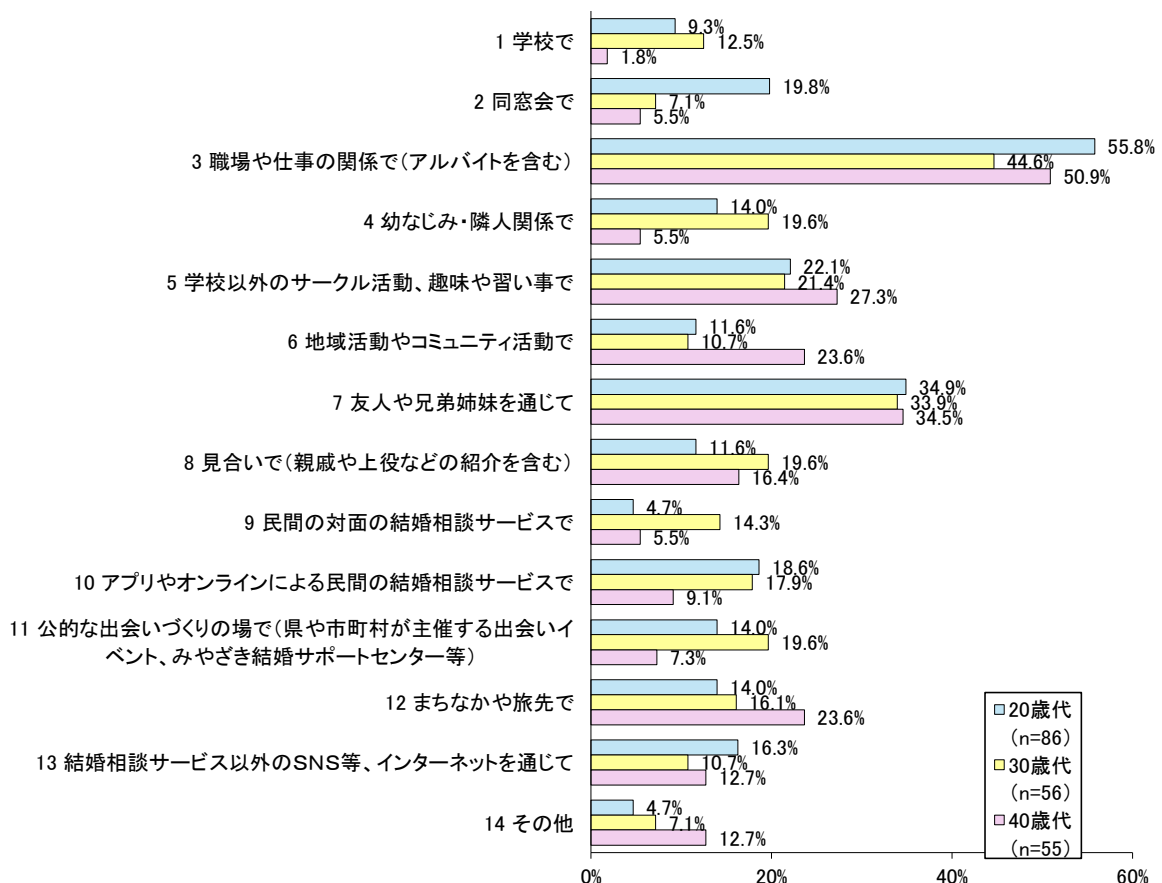
<全体>



<性別>



<年代別>



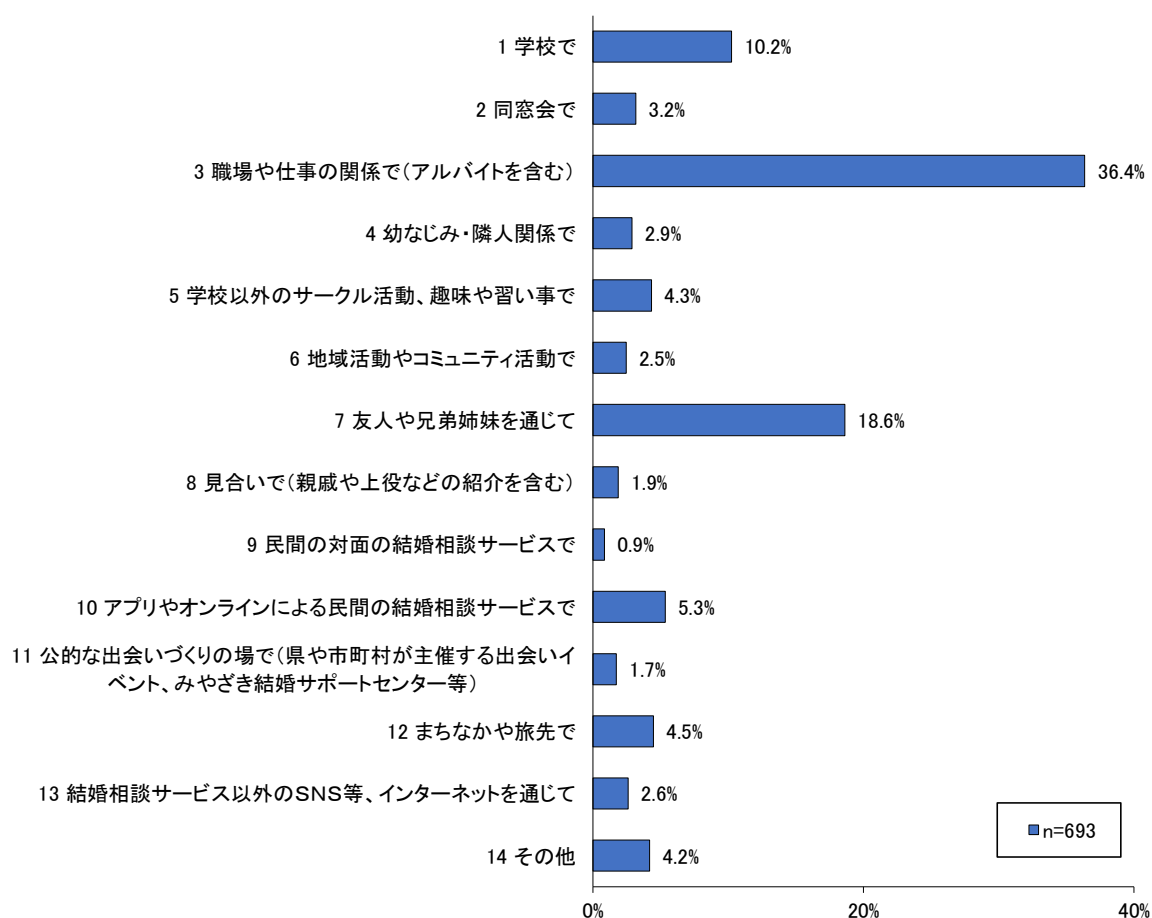
・現在交際相手がいる人、または婚姻歴がある人

全体では、「職場や仕事の関係で(アルバイトを含む)」の割合(36.4%)が最も高く、次が「友人や兄弟姉妹を通じて」(18.6%)となっています。

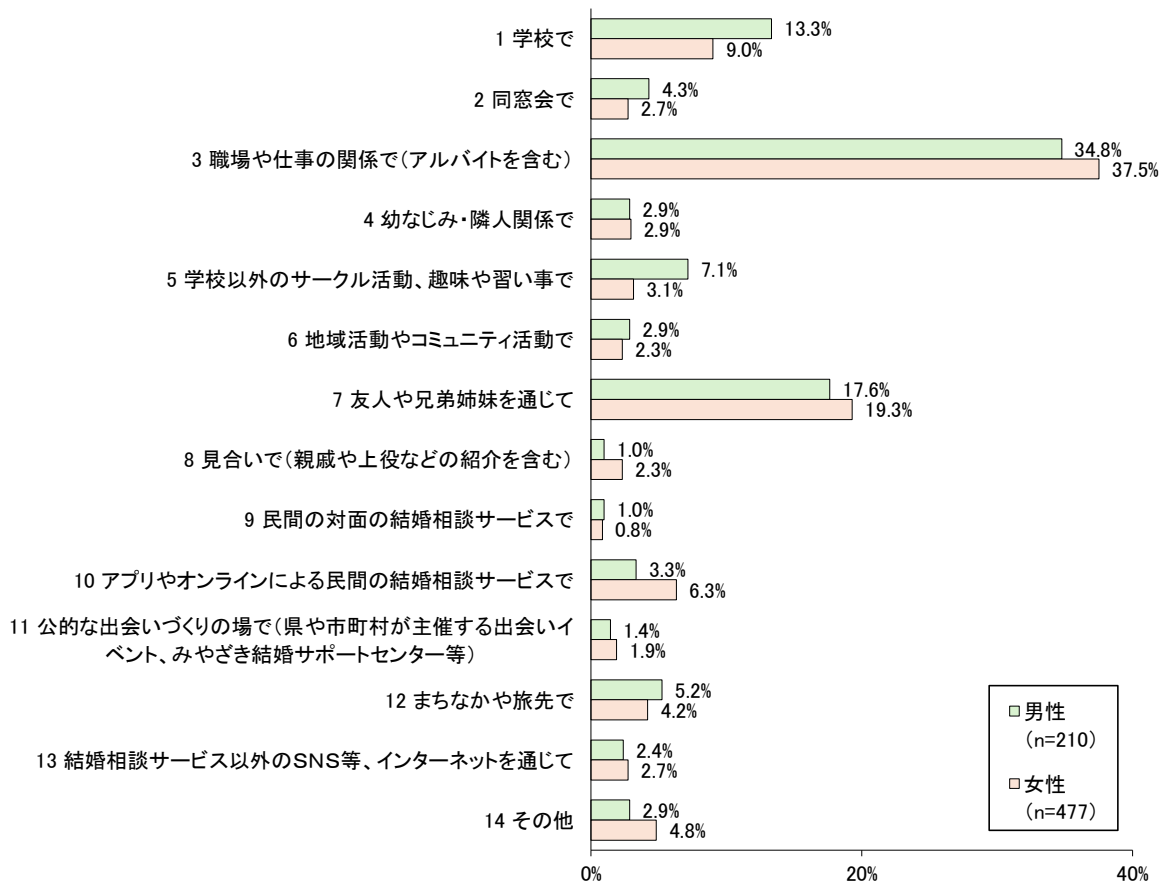
性別では、男女とも上位の項目の順位と割合は全体とほぼ同じとなっています。

年代別では、各年代とも上位の項目の順位は全体とほぼ同じとなっています。その中で、「学校で」の割合は20歳代(21.8%)が他の年代を10ポイント以上上回っています(30歳代:10.9%、40歳代:7.2%)。また、「友人や兄弟姉妹を通じて」は20歳代(8.0%)が他の年代を10ポイント以上下回っています(30歳代:21.0%、40歳代:20.0%)。

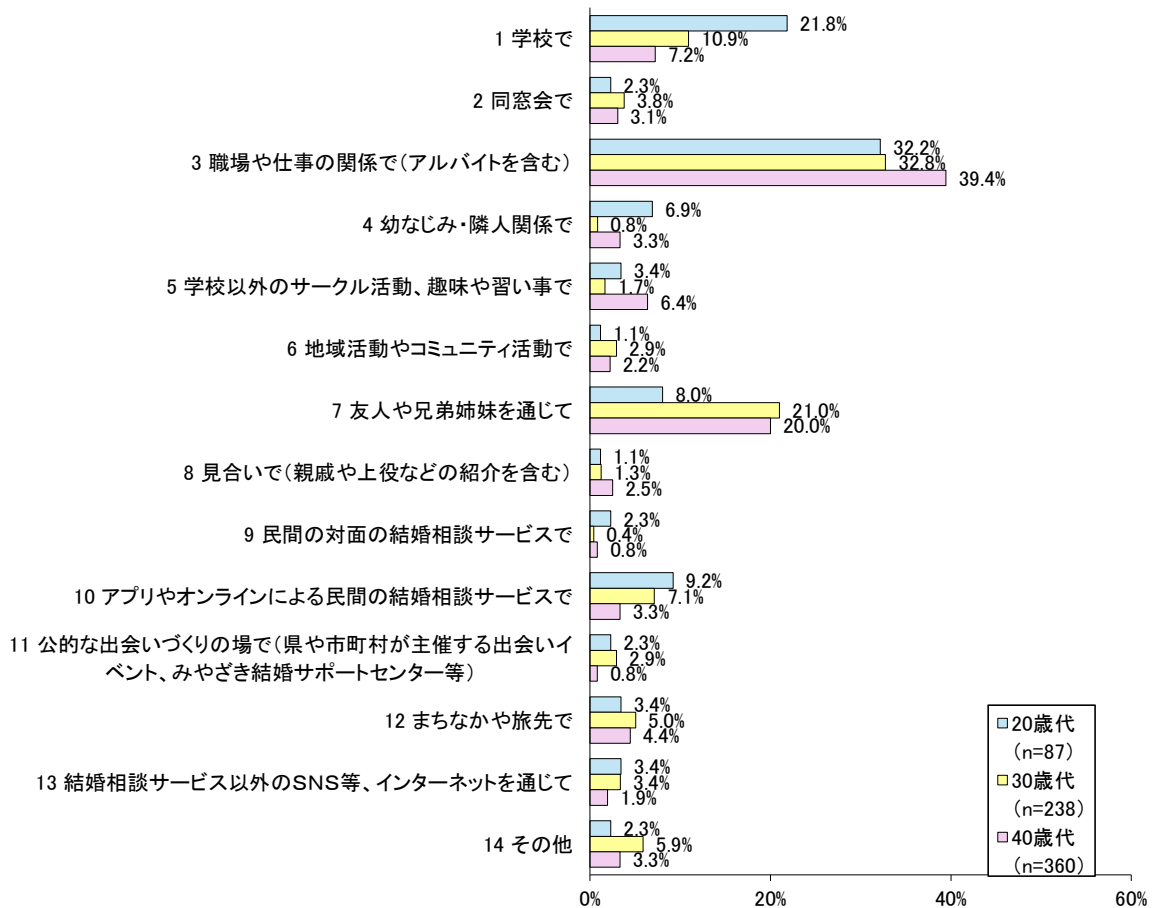
<全体>



<性別>



<年代別>



2. 出産や子育てに関することについて

問7 あなたは、子育てに関して不安や負担などを感じていますか(感じましたか)。

未婚の方は、子どもを持つと仮定してお答えください。

次の項目の中から1つだけ選んで○をつけてください。

全体では、『感じる』(「非常に不安や負担を感じる」と「なんとなく不安や負担を感じる」の計:以下同じ)割合が69.9%、『感じない』(「あまり不安や負担などは感じない」と「全く感じない」の計:以下同じ)が23.8%となっています。

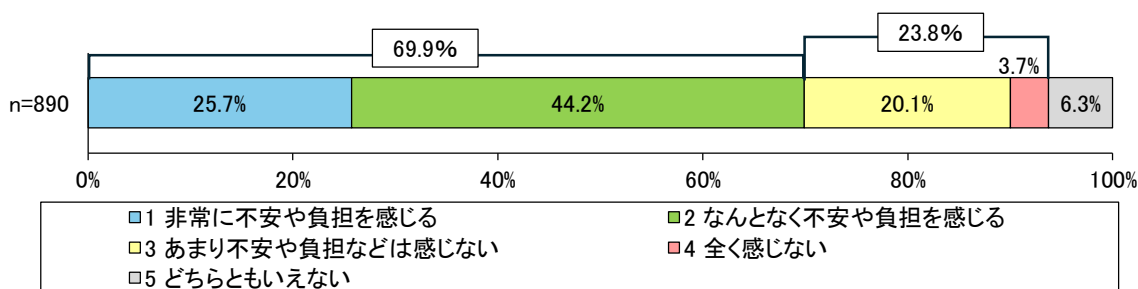
性別では、『感じる』割合は、男女とも全体とほぼ同じとなっています。

年代別では、『感じる』割合は、年代が下がると高まっています。

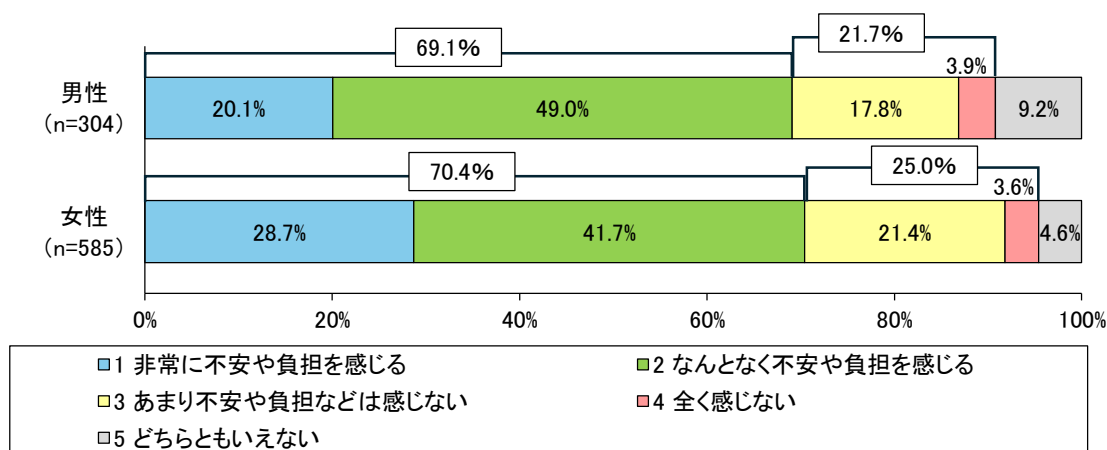
子どもの有無別では、『感じる』割合は「子どもがいない人」(80.6%)が「子どもがいる人」(63.5%)を17.1ポイント上回っています。

過去調査との比較では、『感じる』割合はわずかに高まる傾向で推移しています。(平成26年度:65.0%→令和元年度:67.5%→令和6年度:69.9%)

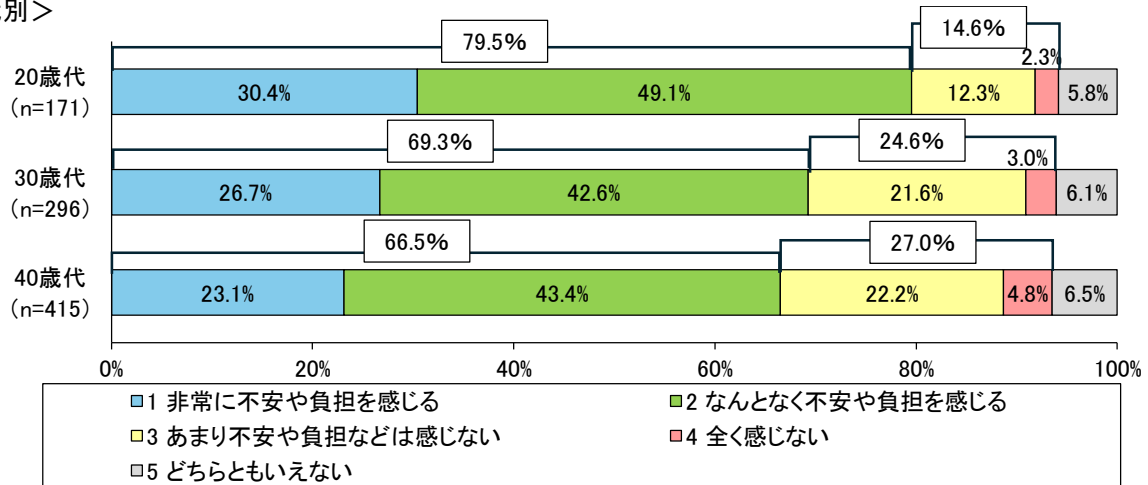
<全体>



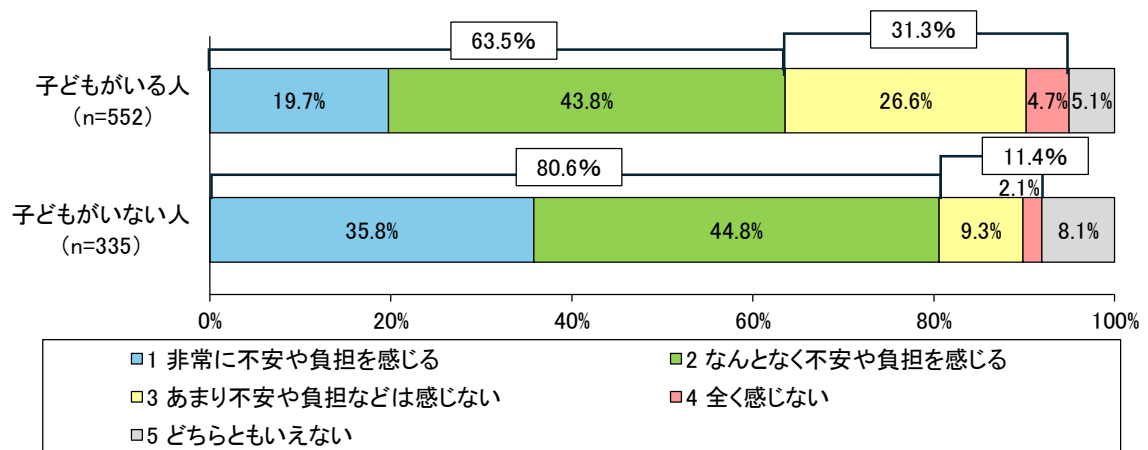
<性別>



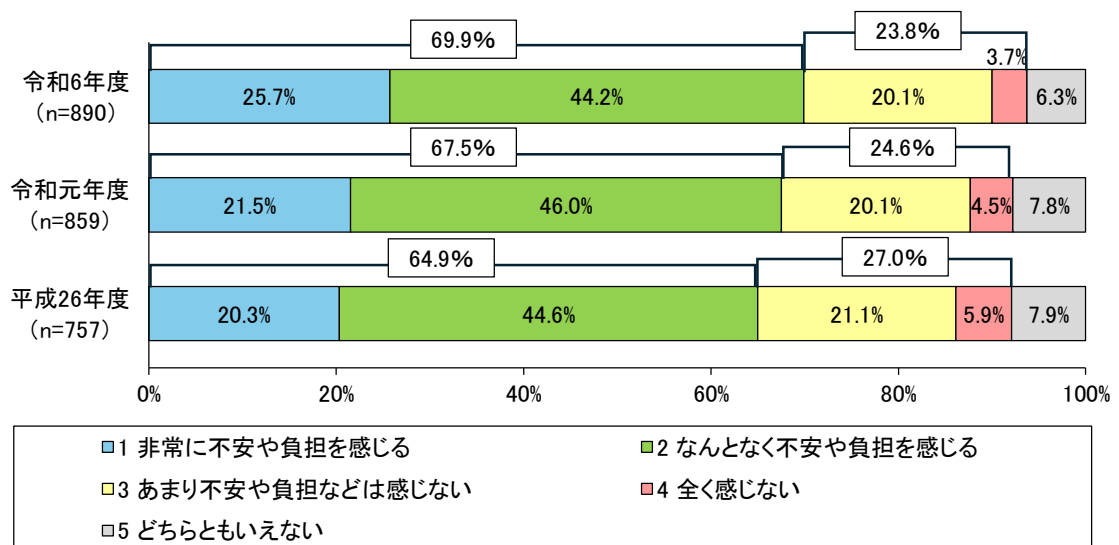
<年代別>



<子どもの有無別>



<過去調査との比較>



問8 あなたは、子育てに関してどのような悩みや不安を感じますか(感じましたか)。

次の項目の中から3つまで選んで○をつけてください。

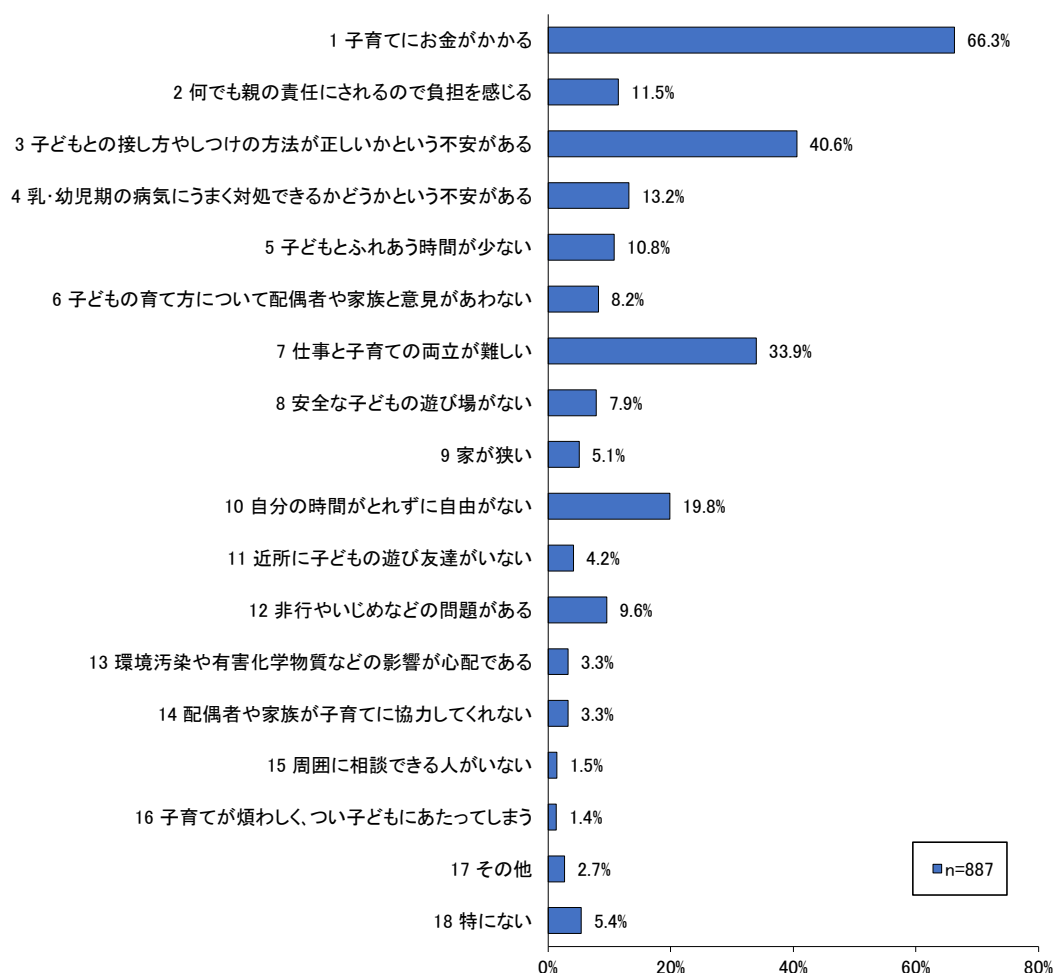
全体では、上位3項目は「子育てにお金がかかる」の割合(66.3%)が最も高く、次いで「子どもとの接し方やしつけの方法が正しいかという不安がある」(40.6%)、「仕事と子育ての両立が難しい」(33.9%)となっています。

性別では、男女とも上位の項目の順位と割合は全体とほぼ同じ結果となっています。

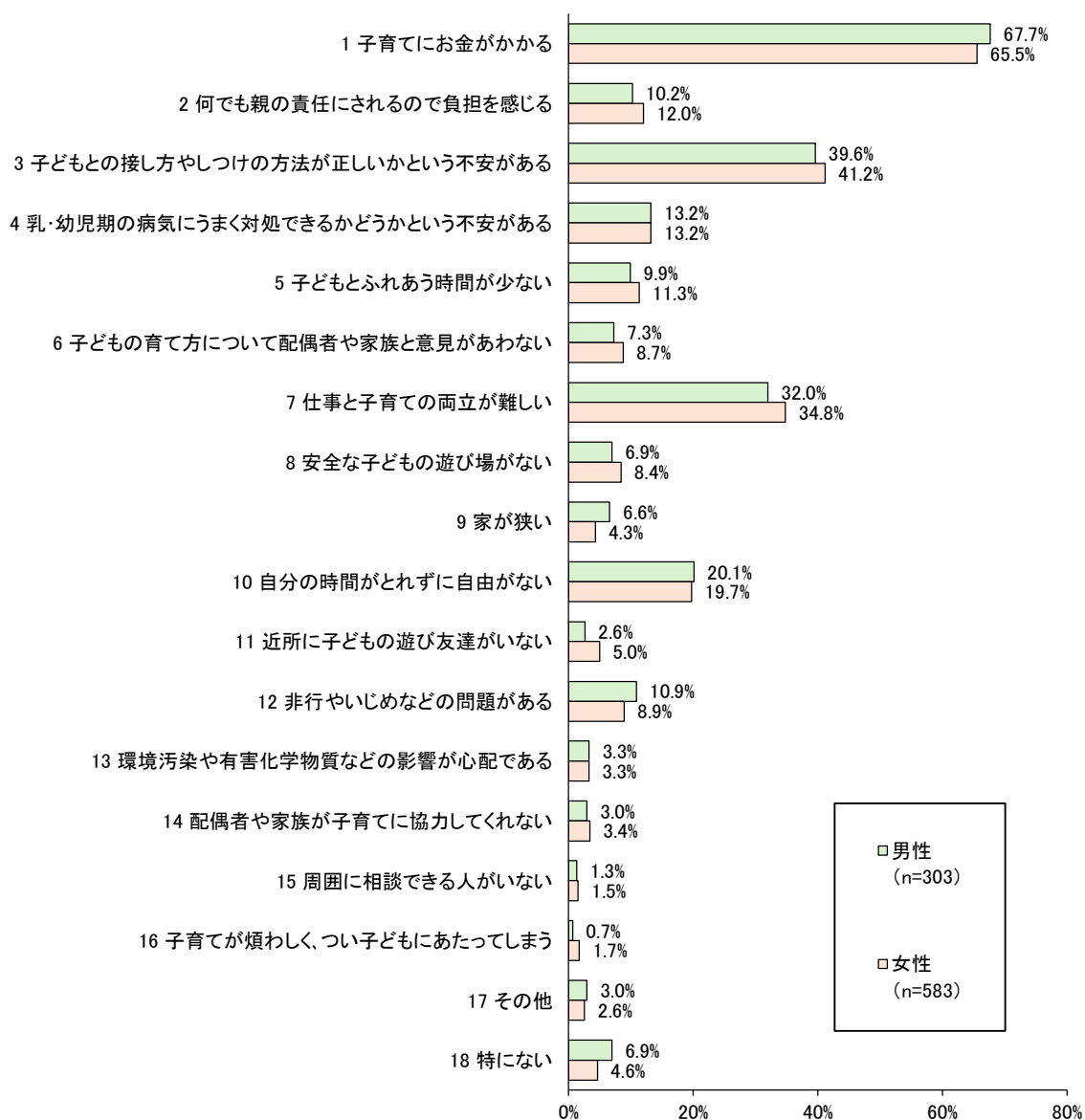
年代別では、各年代とも上位の項目の順位と割合は全体とほぼ同じとなっています。

過去調査との比較では、上位の項目の順位と割合はほぼ同じ結果となっています。

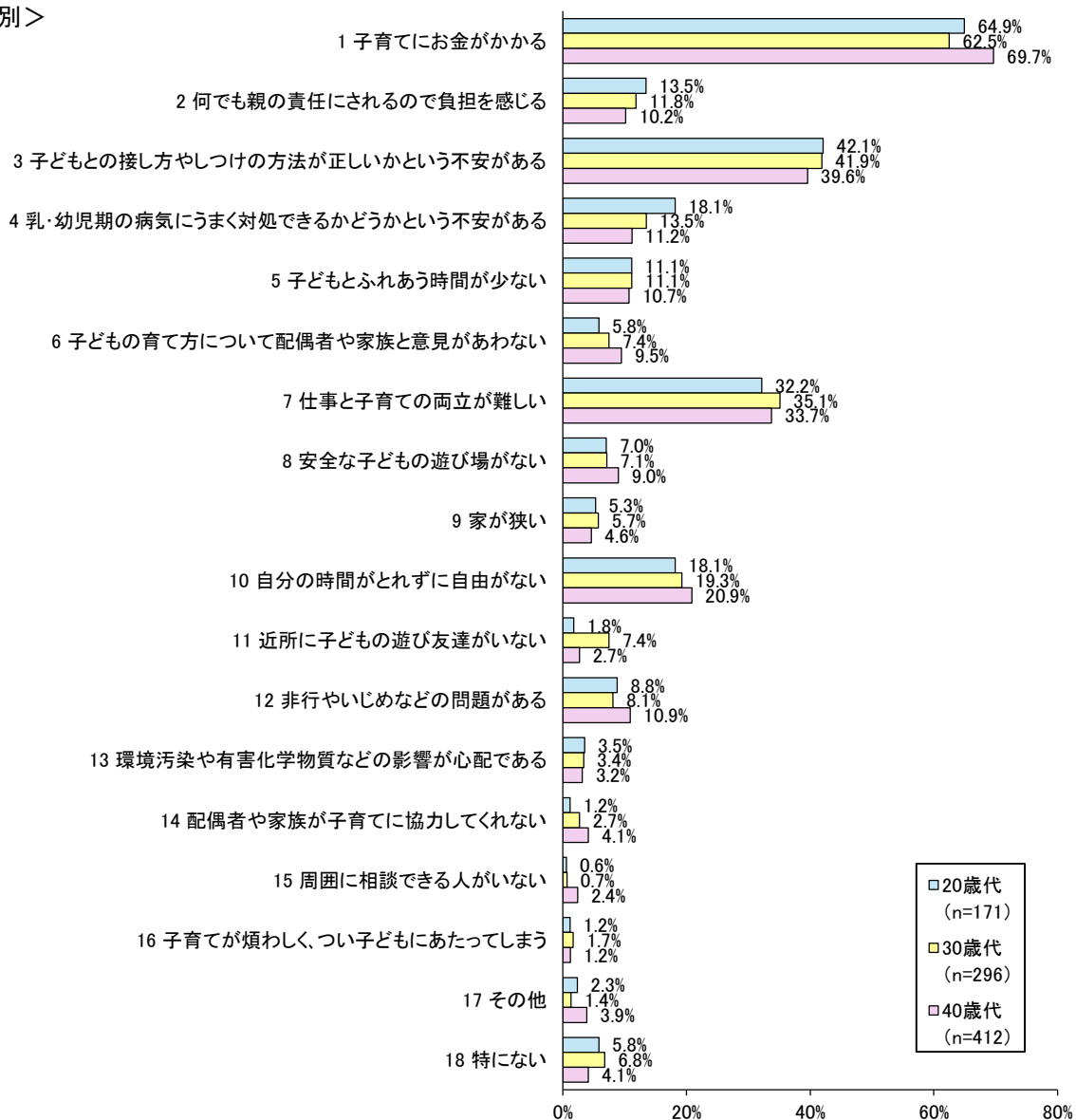
<全体>



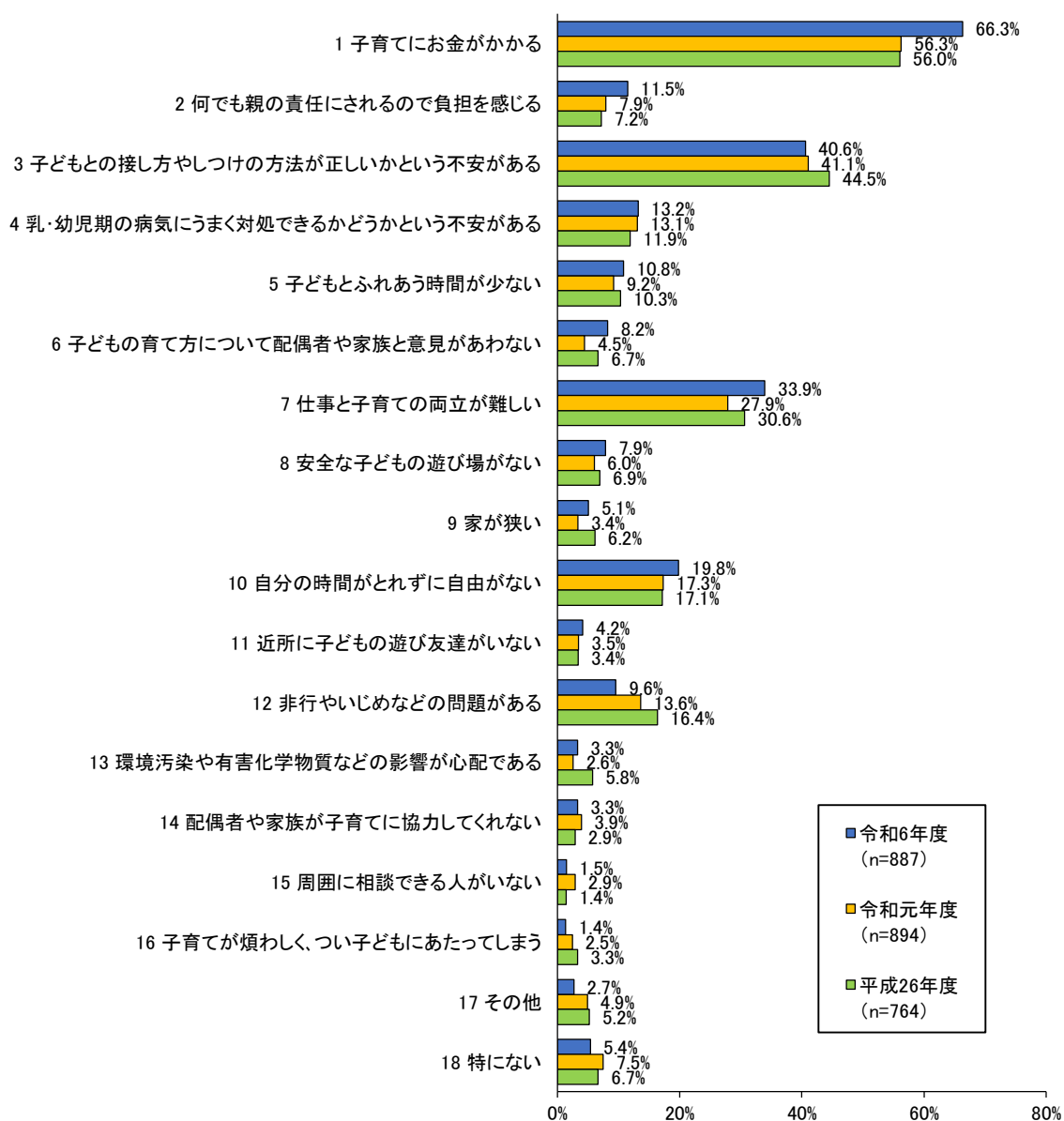
<性別>



<年代別>



<過去調査との比較>



問9 あなたの希望する子ども数(理想子ども数)は何人ですか。

また、希望とは別に、現実を持てると思う子どもの数(予定子ども数)は何人ですか。

1つずつ選んで○を付けてください。

全体では、希望(理想と)している子ども数(現在の子ども数も含む)は、「2人」の割合(39.0%)が最も高く、次が「3人」(35.2%)となっています。予定している(持てると思う)子ども数(現在の子ども数も含む)は、「2人」の割合(38.5%)が最も高く、次いで「1人」と「3人」(各19.0%)となっています。

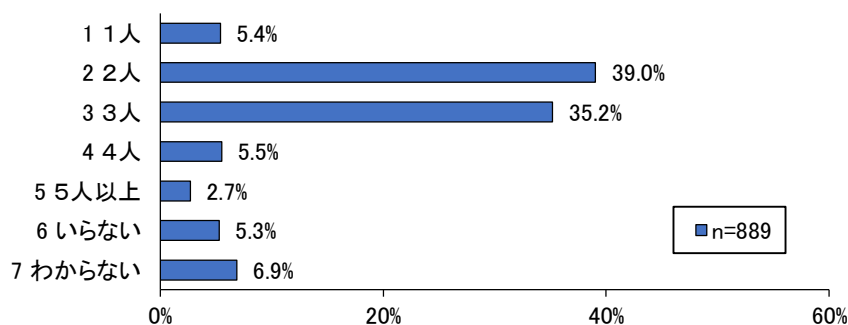
男女別では、男女とも希望(理想と)している子ども数(現在の子ども数も含む)と予定している(持てると思う)子ども数(現在の子ども数も含む)は、全体とほぼ同じ結果となっています。

年代別では、各年代とも希望(理想と)している子ども数(現在の子ども数も含む)と予定している(持てると思う)子ども数(現在の子ども数も含む)は、全体とほぼ同じ結果となっています。なお、20歳代は「わからない」が18.7%となっています。

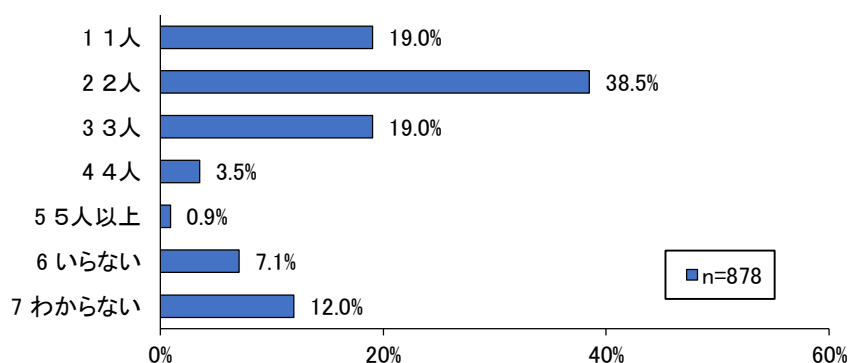
過去調査との比較では、希望(理想と)している子ども数(現在の子ども数も含む)は、各調査とも「2人」と「3人」の割合が高くなっています。予定している(持てると思う)子ども数(現在の子ども数も含む)は、各調査とも「2人」の割合が高く、次が「3人」となっているものの、令和6年度は「1人」の割合が平成26年度、令和元年度よりも9ポイント以上高まっています。

<全体>

・希望(理想と)している子ども数(現在の子ども数も含む)

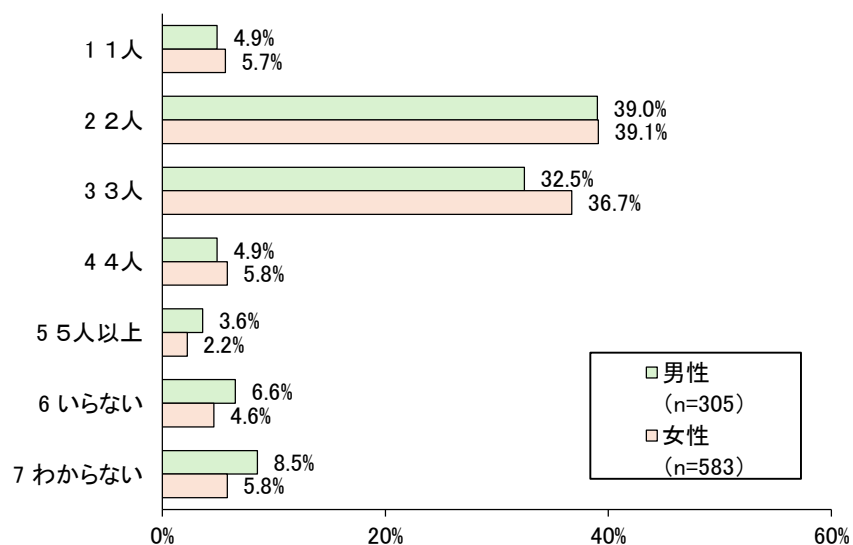


・予定している(持てると思う)子ども数(現在の子ども数も含む)

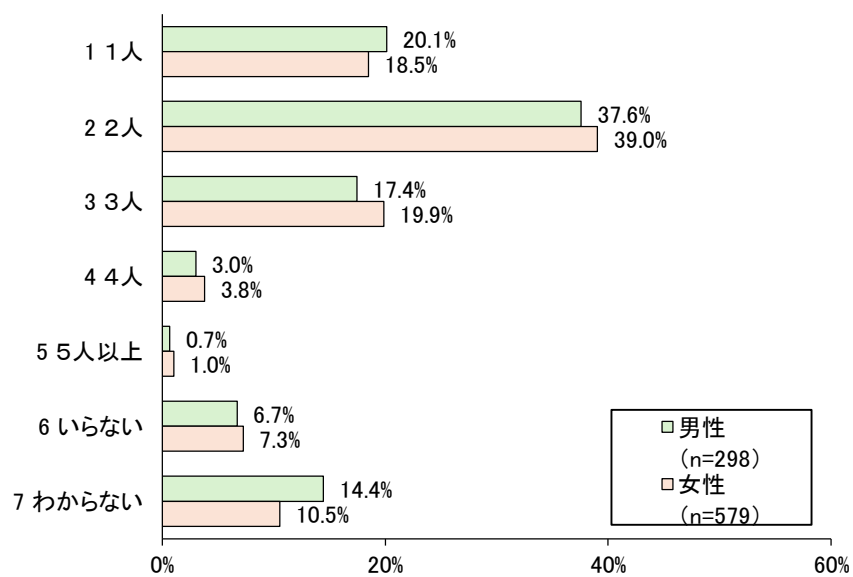


<性別>

・希望(理想と)している子ども数(現在の子ども数も含む)

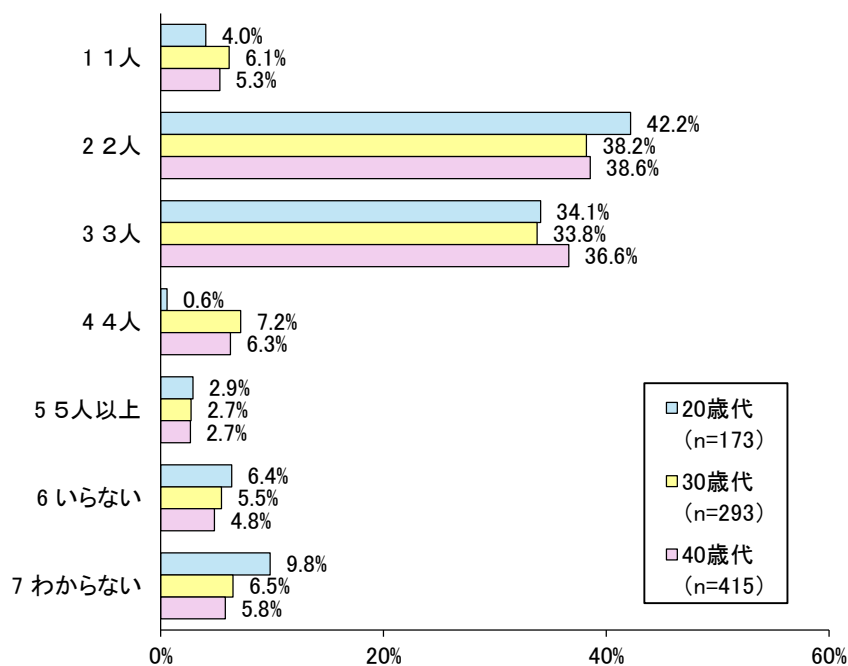


・予定している(持てると思う)子ども数(現在の子ども数も含む)

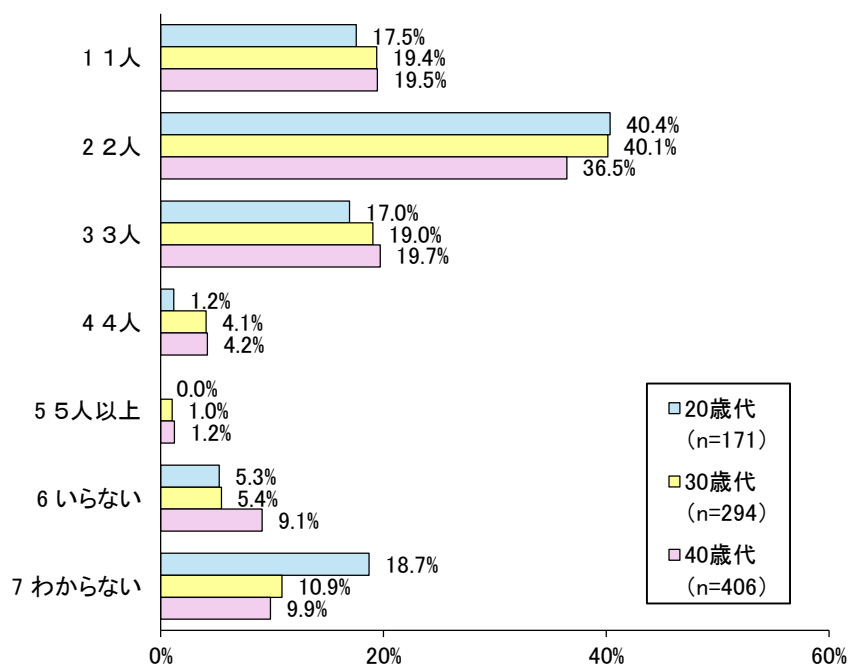


<年代別>

・希望(理想と)している子ども数(現在の子ども数も含む)

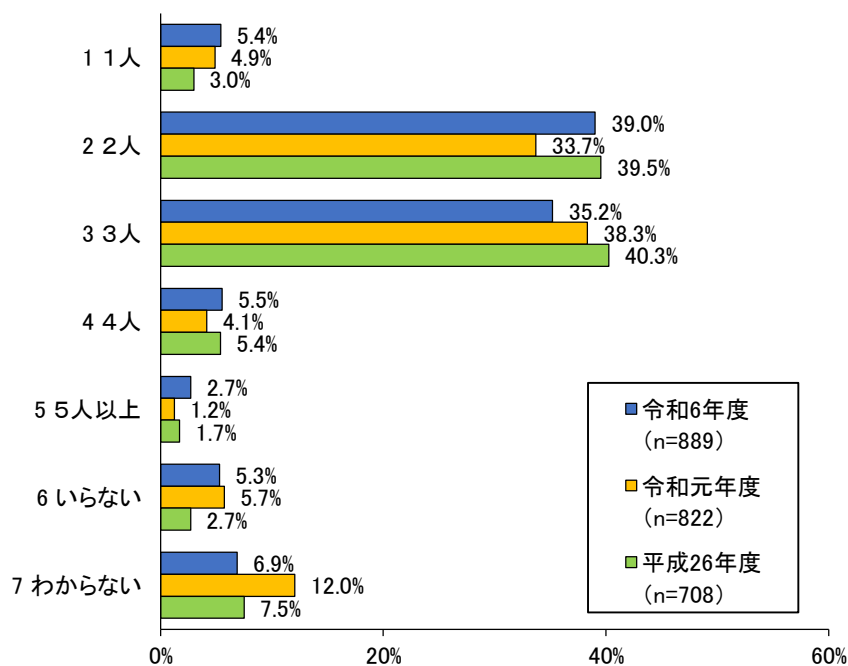


・予定している(持てると思う)子ども数(現在の子ども数も含む)

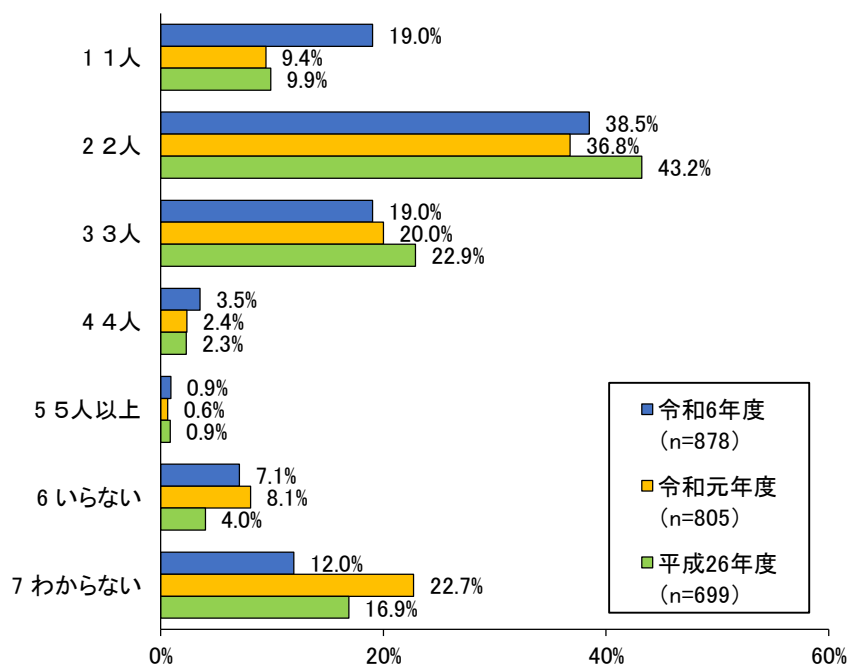


<過去調査との比較>

・希望(理想)としている子ども数(現在の子ども数も含む)



・予定している(持てると思う)子ども数(現在の子ども数も含む)



問10 問9の「希望(理想と)している子どもの数」又は「予定している(持てると思う)子どもの数」で
 選択肢「1 1人」又は「6 いない」を選ばれた方におうかがいします。

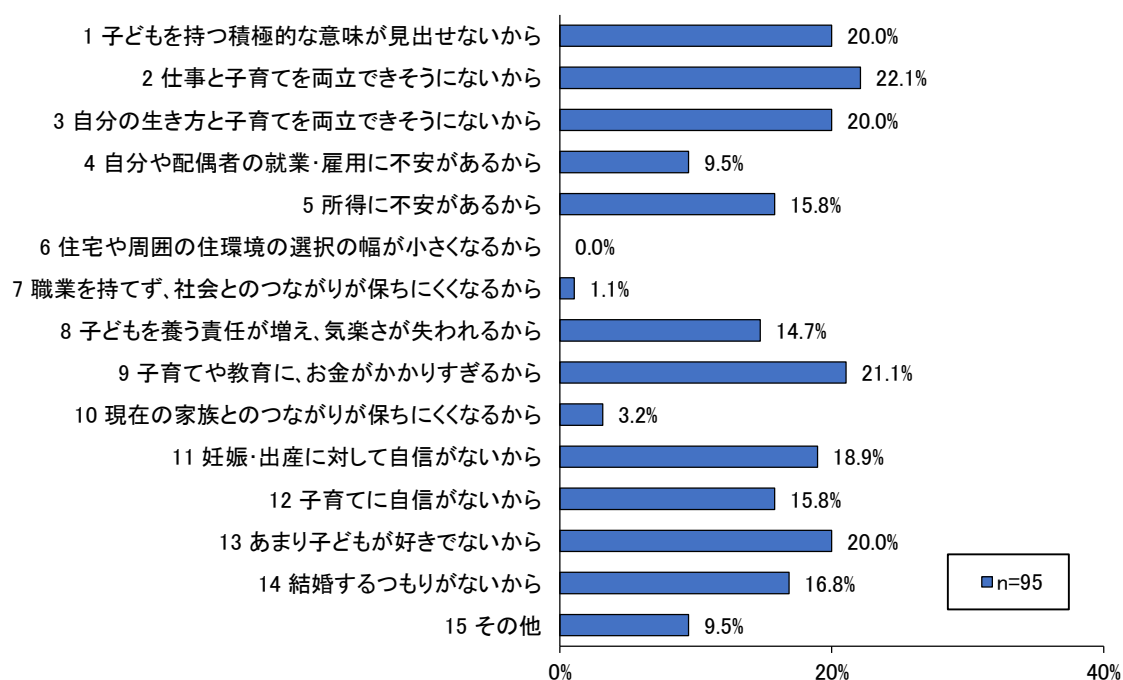
そう考える理由は何ですか。次の項目から3つまで選んで○をつけてください。

全体では、上位項目(20.0%以上)は、「仕事と子育てを両立できそうにないから」「子育てや教育に、お金がかかりすぎるから」(各21.1%)、「子どもを持つ積極的な意味が見出せないから」「自分の生き方と子育てを両立できそうにないから」「あまり子どもが好きでないから」(各20.0%)となっています。

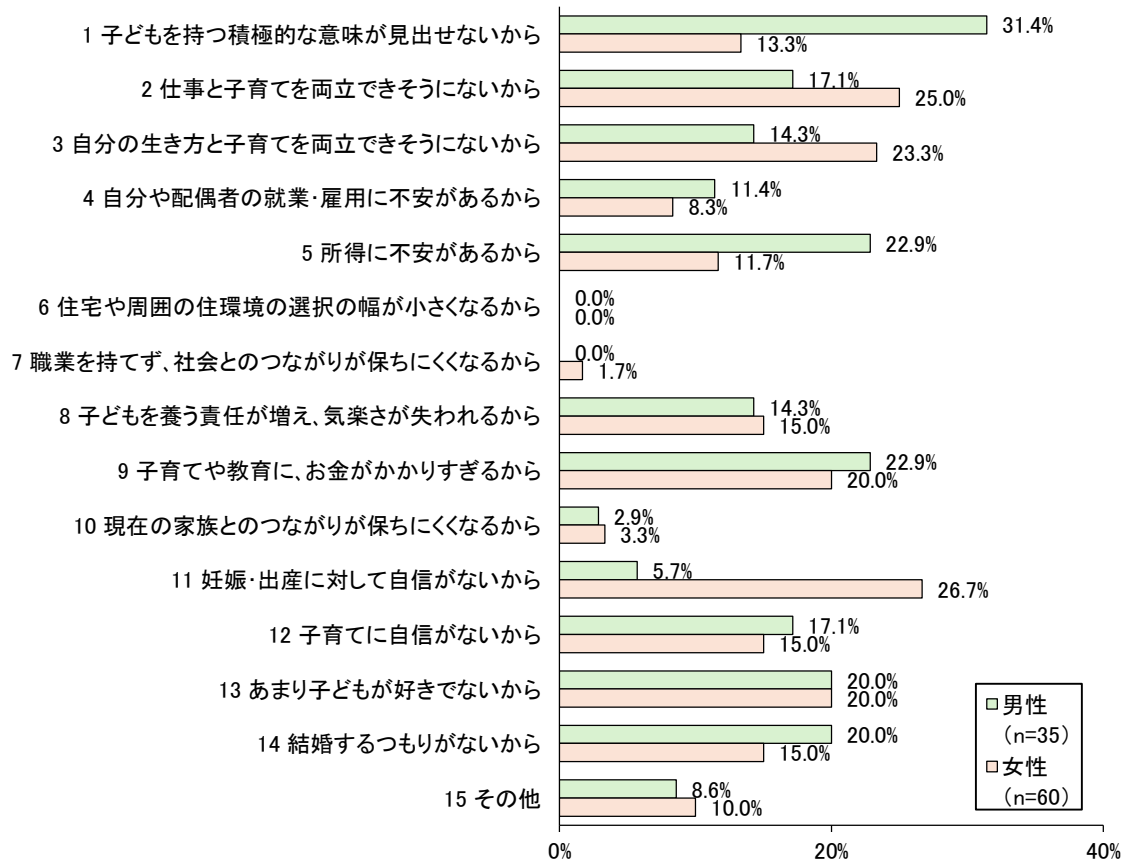
性別では、男性は「子どもを持つ積極的な意味が見出せないから」の割合(男性:31.4%、女性:13.3%)が最も高く、次が「所得に不安があるから」(男性:22.9%、女性:11.7%)となっています。女性は「妊娠・出産に対して自信がないから」の割合(女性:26.7%、男性:5.7%)が最も高く、次が「仕事と子育てを両立できそうにないから」(女性:25.0%、男性:17.1%)となっています。

※年代別は母数が少ないため分析しません。

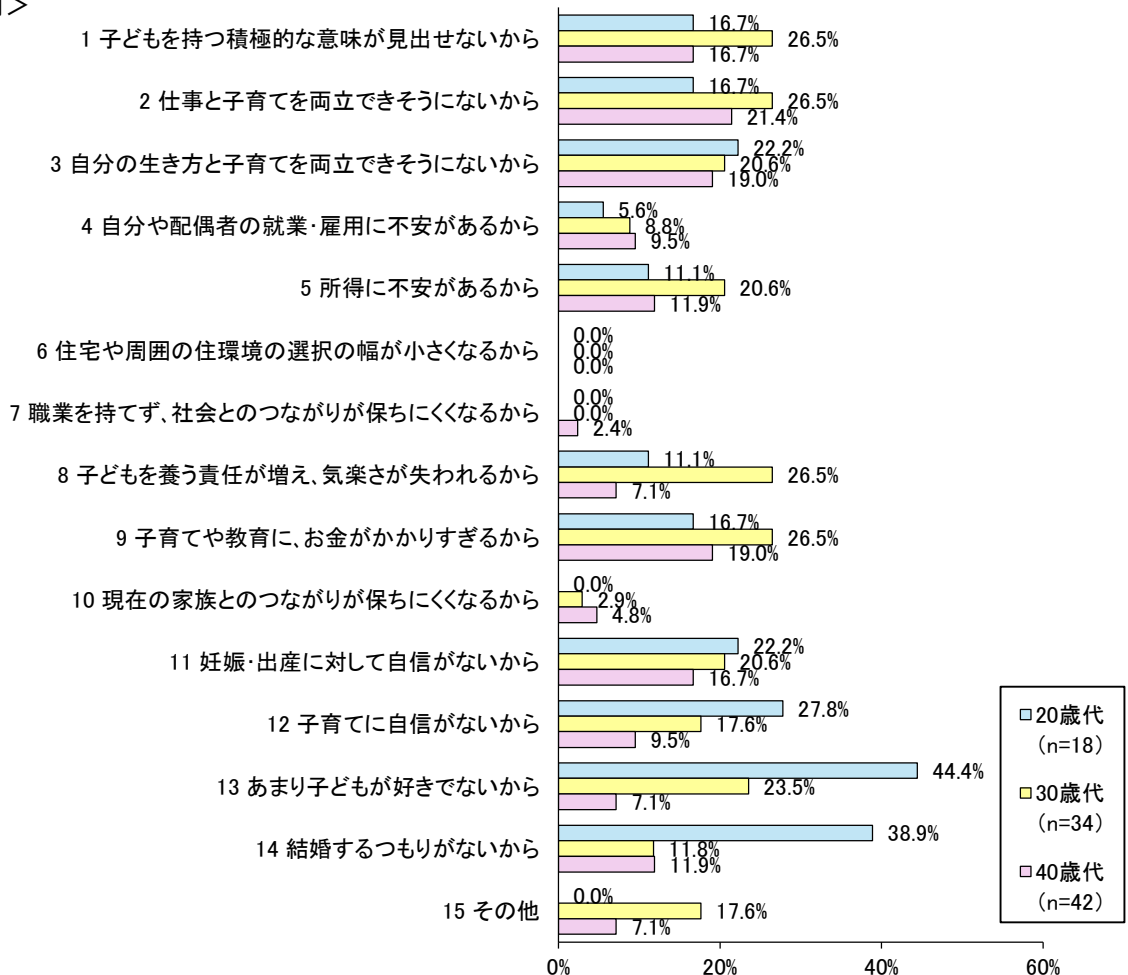
<全体>



<性別>



<年代別>



問11 問9の「予定している(持てると思う)子どもの数」が、「希望(理想と)している子どもの数」より少ない方におうかがいします。

そのように思っているのはなぜですか。次の項目の中から3つまで選んで○をつけてください。

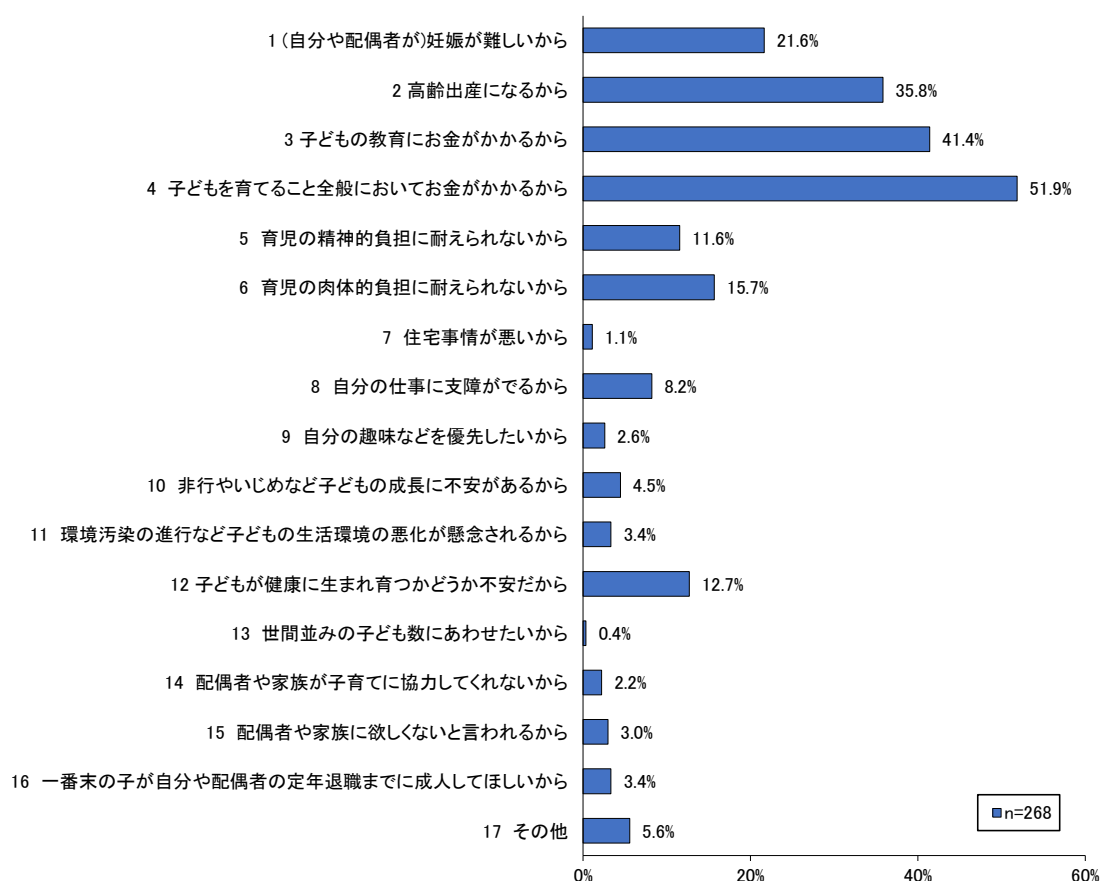
全体では、上位の3項目は「子どもを育てること全般においてお金がかかるから」の割合(51.9%)が最も高く、次いで「子どもの教育にお金がかかるから」(41.4%)、「高齢出産になるから」(35.8%)となっています。

性別では、男女とも上位の項目の順位と割合は全体とほぼ同じとなっています。その中で、「子どもを育てること全般においてお金がかかるから」の割合(男性:60.2%、女性:47.8%)は男性が女性を12.4ポイント上回っています。

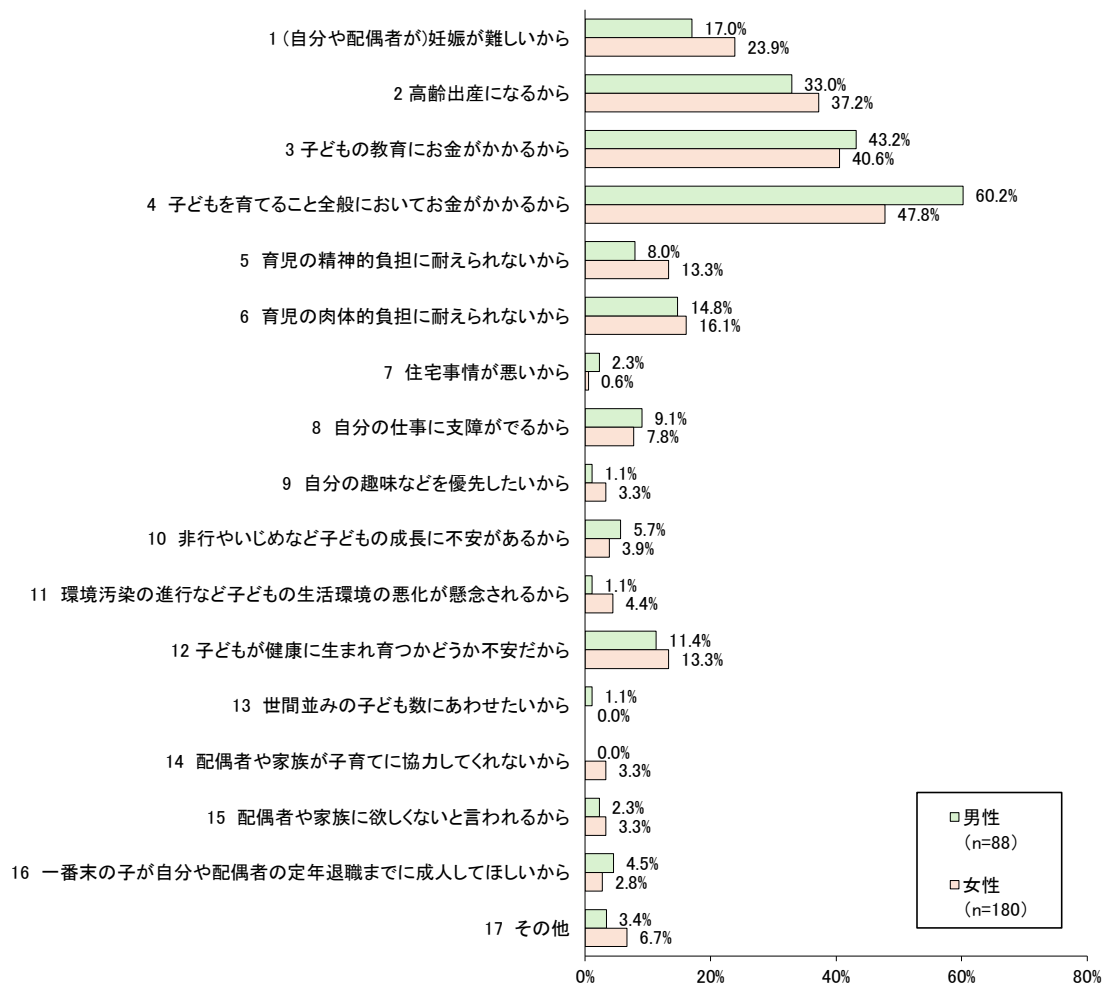
年代別では、各年代とも上位の項目の順位は全体とほぼ同じとなっています。その中で、20歳代は「子どもを育てること全般においてお金がかかるから」の割合(89.1%)と「子どもの教育にお金がかかるから」(67.4%)が他の年代よりも高くなっています(※但し、母数は少ない。)。

過去調査との比較では、上位の項目の順位はほぼ同じ結果となっています。その中で「高齢出産になるから」の割合は低下する傾向、「子どもの教育にお金がかかるから」は高まる傾向で推移しています。

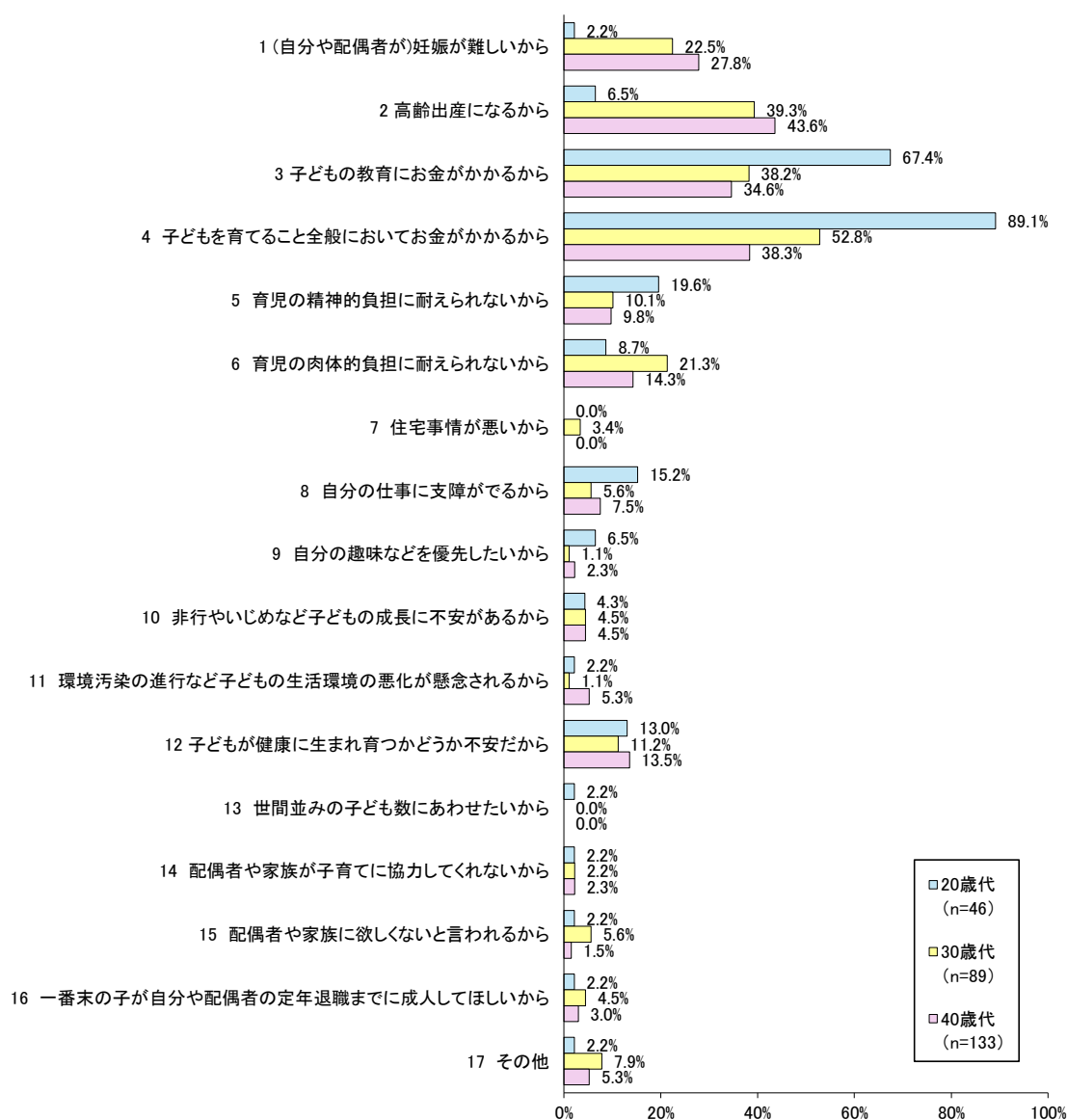
<全体>



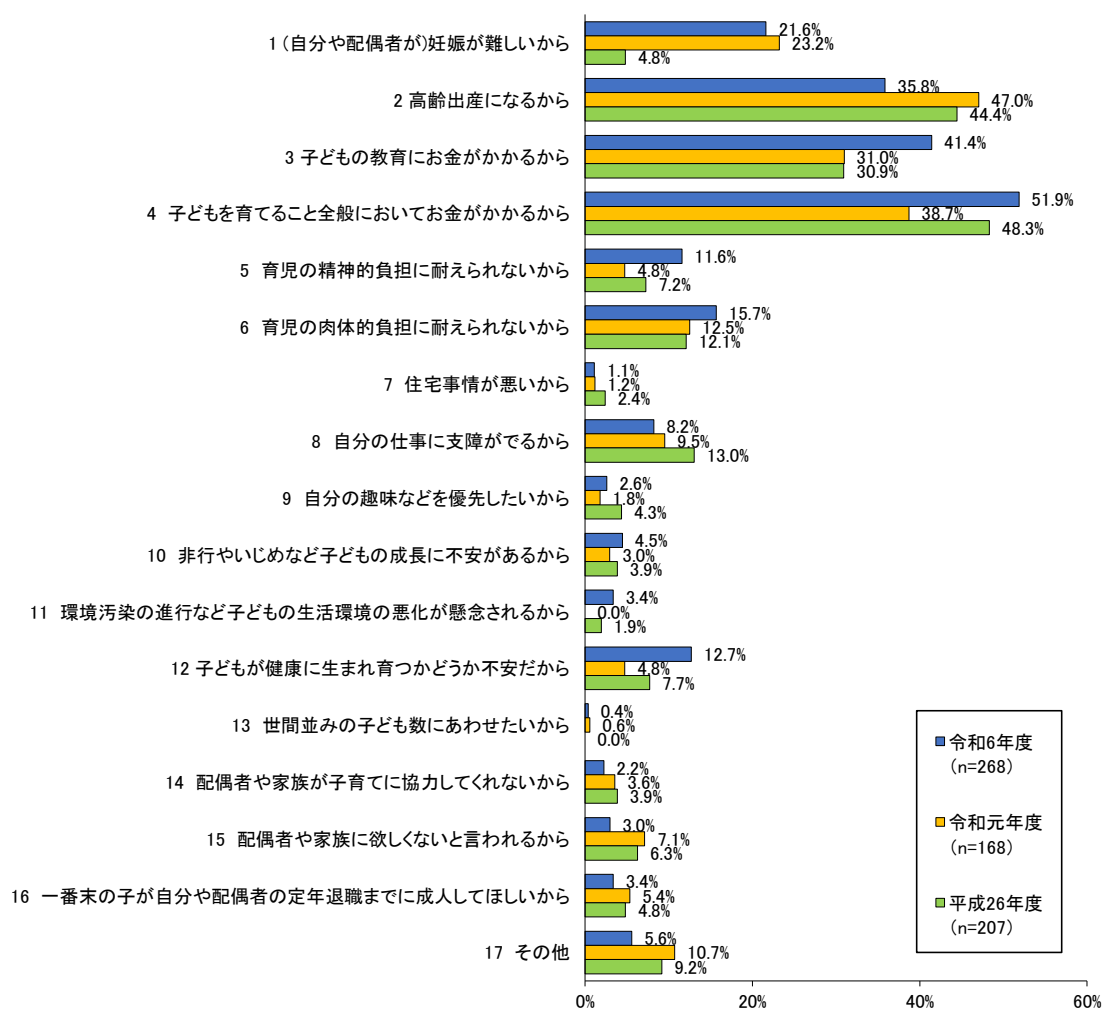
<性別>



<年代別>



＜過去調査との比較＞



問12 あなたは何歳ぐらいまでに子どもがほしいと思いますか。(ほしかったと思いますか。)

次の項目の中から1つだけ選んで○をつけてください。

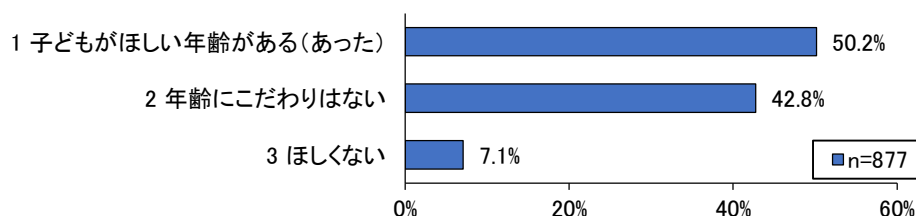
また、1を選んだ方は具体的な年齢を記載してください。

全体では、『子どもがほしい』(「子どもがほしい年齢がある(あった)」と「年齢にこだわりのない」の計:以下同じ)割合は93.0%となっています。一方、「ほしくない」は7.1%となっています。子どもがほしい(ほしかった年齢)は「30～34歳」の割合(40.9%)が最も高くなっています。

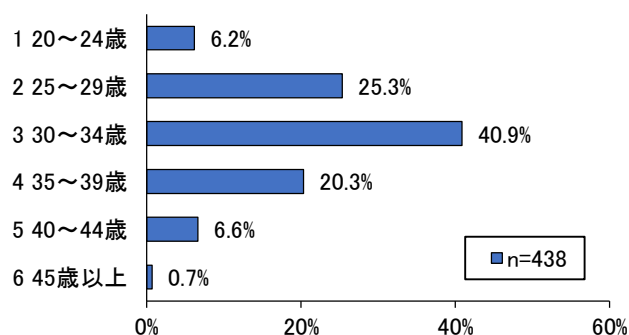
性別では、『子どもがほしい』は男女ともほぼ同じ割合となっています(男性:91.3%、女性93.7%)。子どもがほしい(ほしかった年齢)は、男女とも「30～34歳」の割合が最も高くなっています(男性:47.8%、38.4%)。

年代別では、『子どもがほしい』は各年代ともほぼ同じ割合となっています(20歳代:89.5%、30歳代:93.8%、40歳代:93.7%)。子どもがほしい(ほしかった年齢)は、各年代とも「30～34歳」の割合が最も高くなっています(20歳代:51.5%、30歳代:40.6%、40歳代:35.6%)。

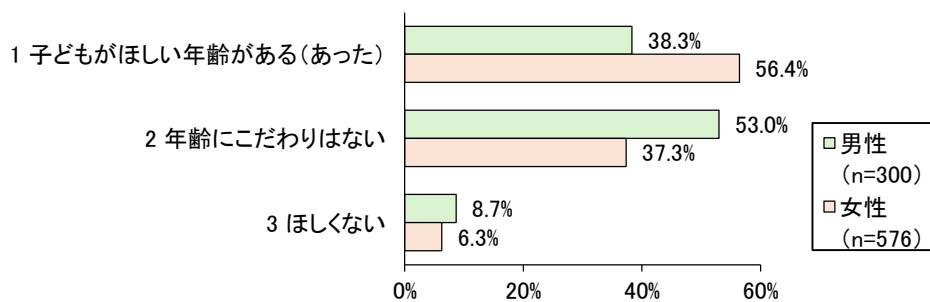
<全体>



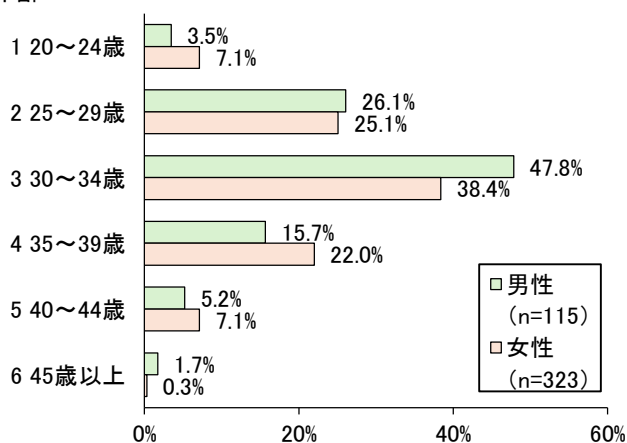
・子どもがほしい(ほしかった)年齢



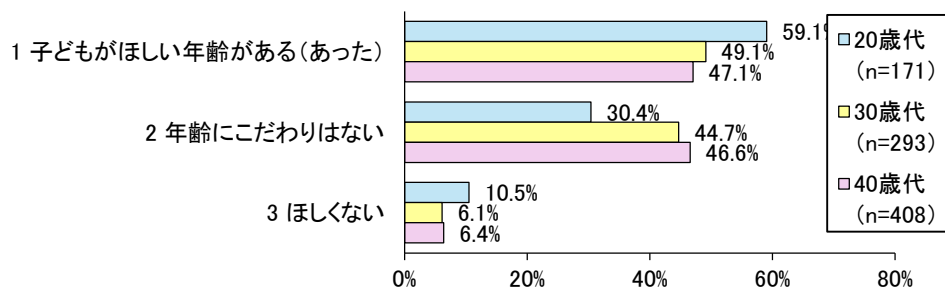
<性別>



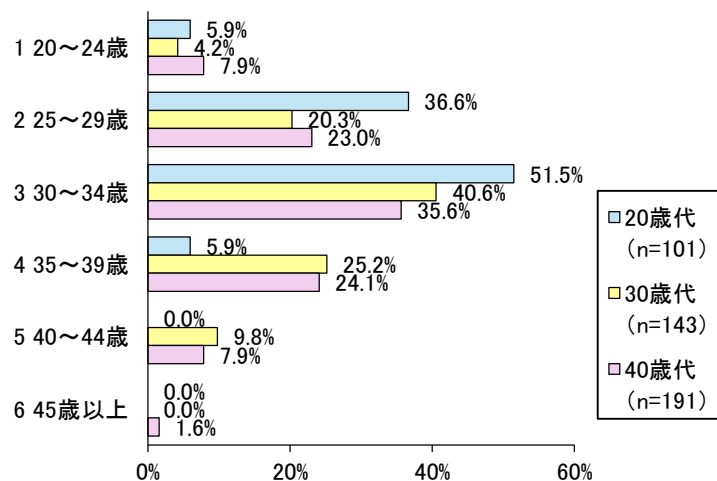
・子どもがほしい(ほしかった)年齢



<年代別>



・子どもがほしい(ほしかった)年齢



3. 子育て環境や地域に関することについて

問13 あなたは、現在お住まいの地域の子育て環境について、どのような印象を持っていますか。

以下の各項目(①～⑩)について、1つずつ選んで○をつけてください。

① 気象条件や自然環境

『よい』(「よい」と「どちらかといえばよい」の計:以下同じ)割合が76.7%、『悪い』(「どちらかといえば悪い」と「悪い」の計:以下同じ)割合が9.8%となっています。

② 公園や広場など子どもの遊び場

『よい』割合が55.4%、『悪い』が28.4%となっています。

③ のびのびと学習できる環境

『よい』割合が55.1%、『悪い』が18.5%となっています。

④ 子どもが事故等にあわないような安全性

『よい』割合が42.3%、『悪い』が31.6%となっています。

⑤ 育児等に関する情報

『よい』割合が41.9%、『悪い』が18.7%となっています。

⑥ 保育所・幼稚園・認定こども園の相談体制

『よい』割合が47.6%、『悪い』が13.2%となっています。

⑦ 病院・診療所などの医療施設

『よい』割合が54.1%、『悪い』が24.6%となっています。

⑧ 子育てをしながらも働ける職場環境

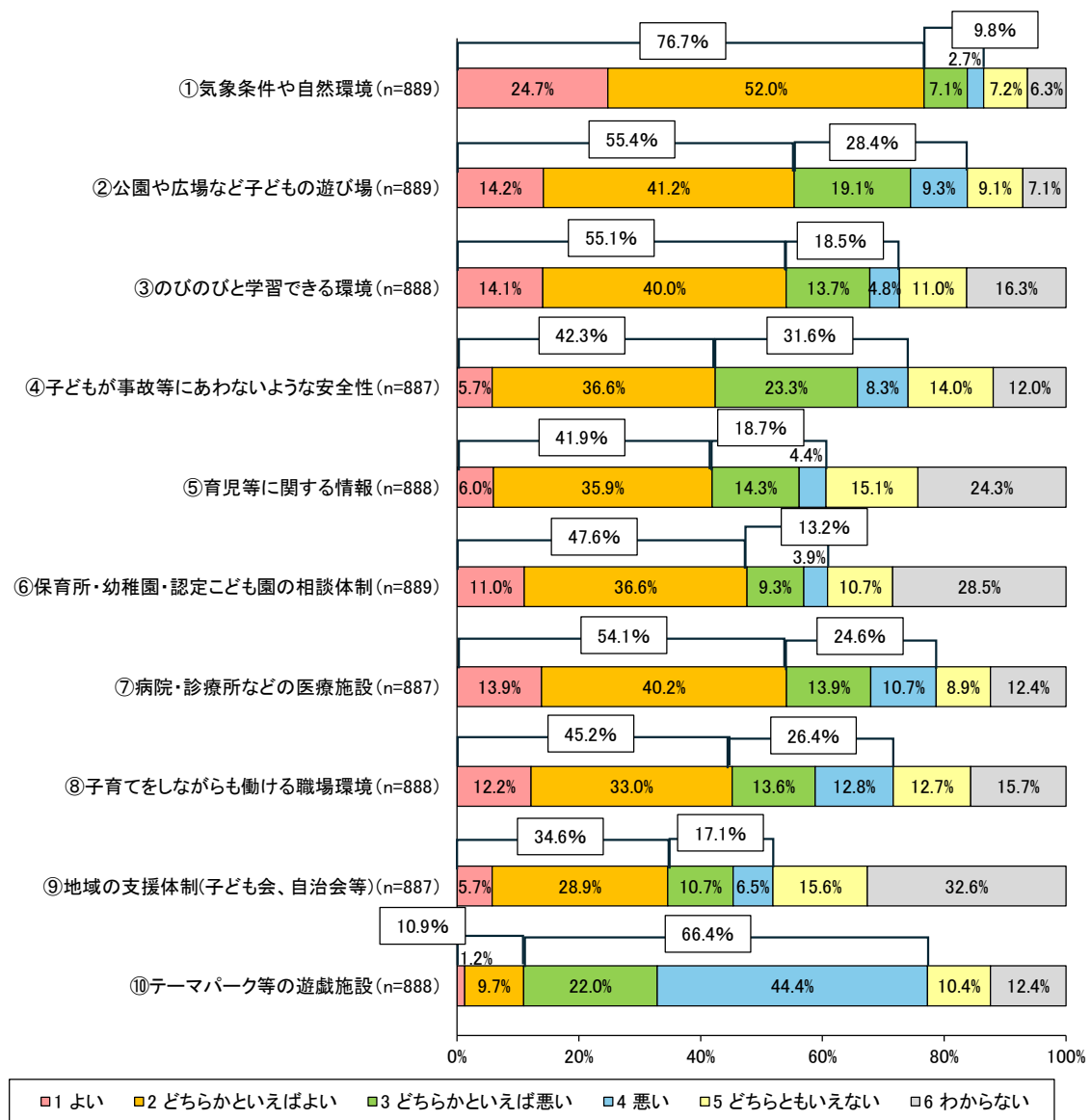
『よい』割合が45.2%、『悪い』が26.4%となっています。

⑨ 地域の支援体制(子ども会、自治会等)

『よい』割合が34.6%、『悪い』が17.1%となっています。

⑩ テーマパーク等の遊戯施設

『よい』割合が10.9%、『悪い』が66.4%となっています。



問14 あなたは、子どもを安心して生み育てられることのできる環境を整備するために、県や市町村に、どのような政策を望みますか。

次の項目の中から3つまで選んで○をつけてください。

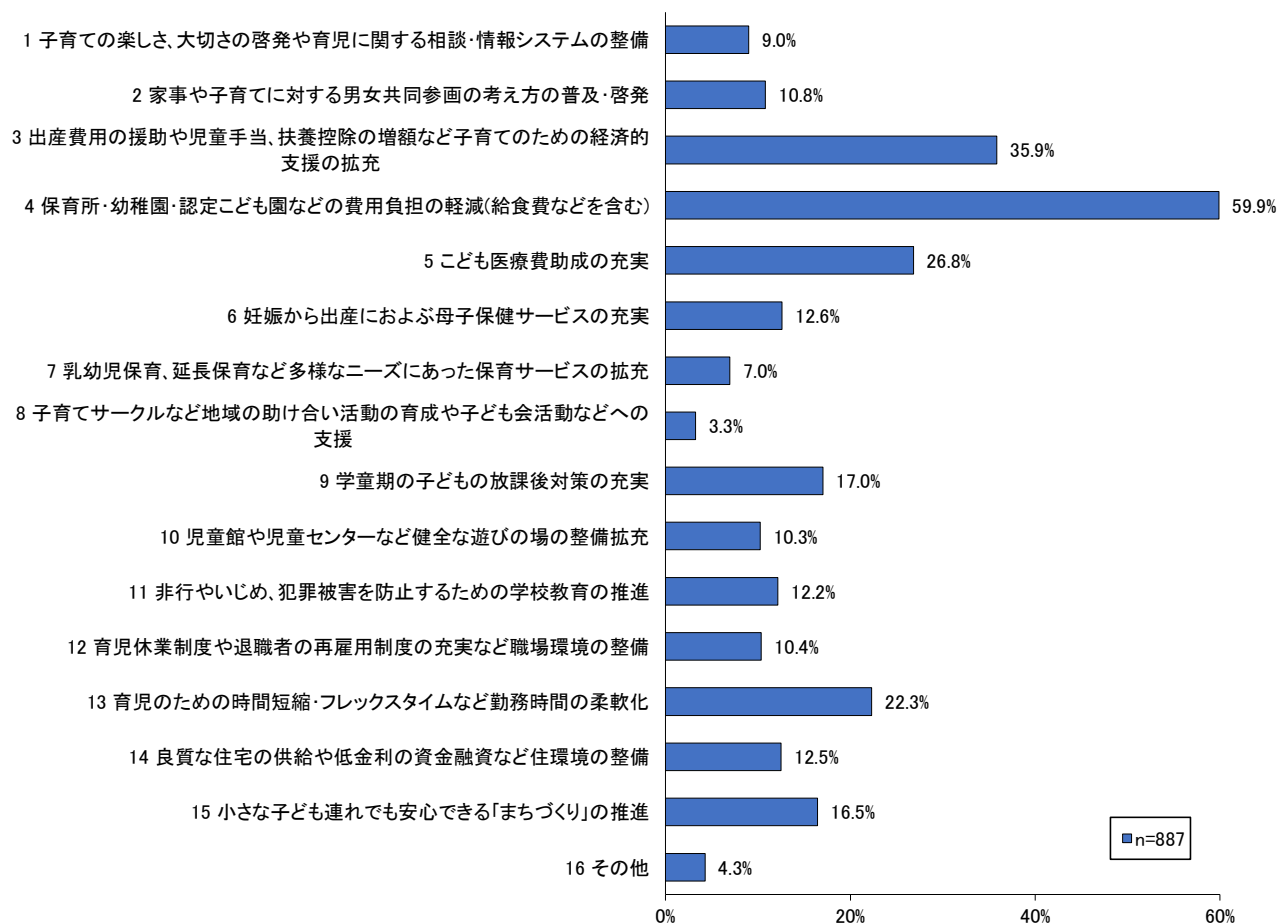
全体では、上位の3項目は「保育所・幼稚園・認定こども園などの費用負担の軽減(給食費などを含む)」の割合(59.9%)が最も高く、次いで「出産費用の援助や児童手当、扶養控除の増額など子育てのための経済的支援の拡充」(35.9%)、「こども医療費助成の充実」(26.8%)となっています。

性別では、男女とも上位の項目の順位と割合は全体とほぼ同じとなっています。

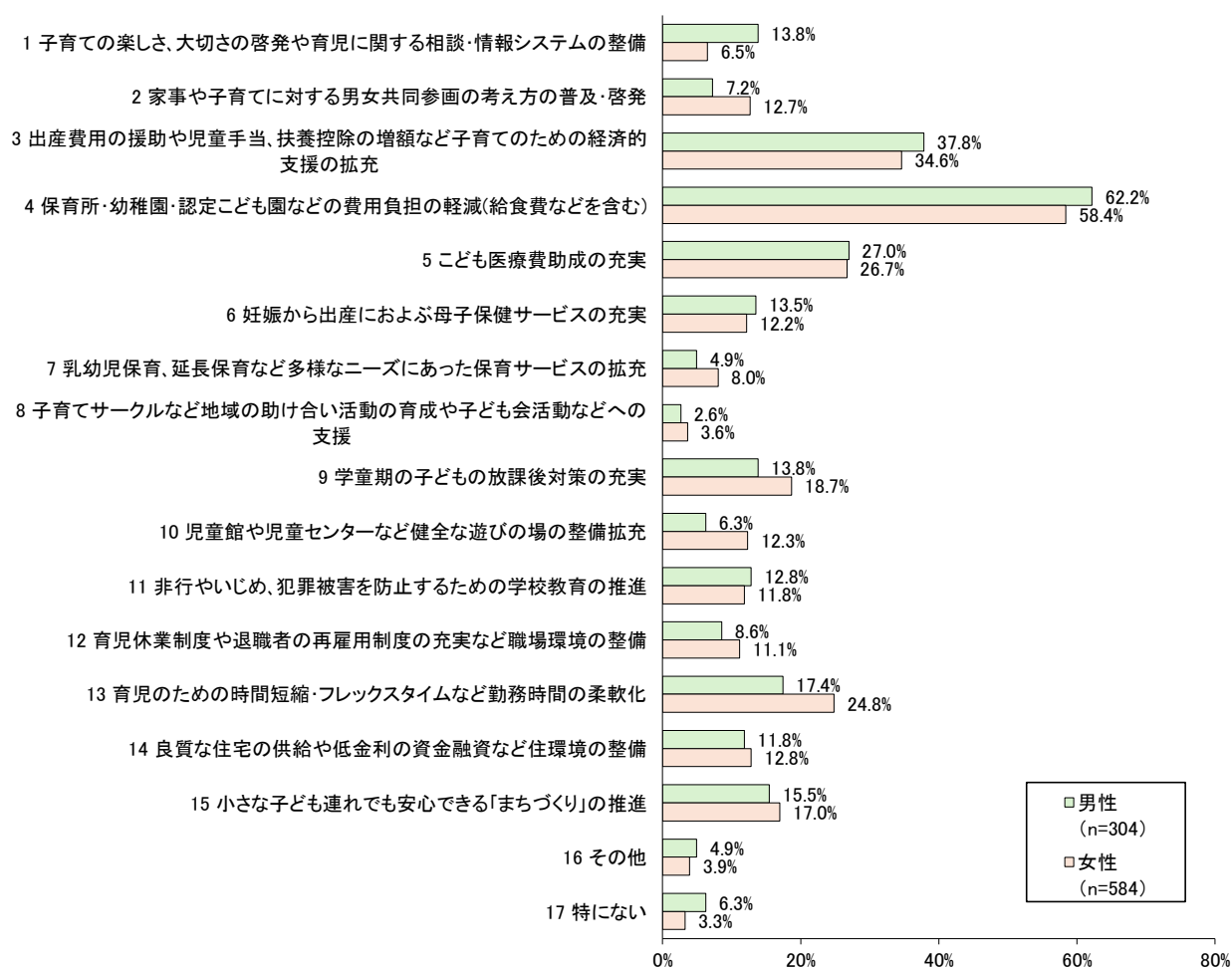
年代別では、各年代とも上位の項目の順位は全体とほぼ同じとなっています。その中で20歳代は「保育所・幼稚園・認定こども園などの費用負担の軽減(給食費などを含む)」の割合が他の年代を約17ポイント以上(20歳代:75.0%、30歳代:58.2%、40歳代:54.7%)、「出産費用の援助や児童手当、扶養控除の増額など子育てのための経済的支援の拡充」が約10ポイント以上(20歳代:47.1%、30歳代:37.4%、40歳代:30.0%)上回っています。40歳代は「こども医療費助成の充実」が他の年代を約13ポイント以上(20歳代:20.9%、30歳代:20.7%、40歳代:33.7%)上回っています。

過去調査との比較では、上位の項目の順位はほぼ同じ結果となっています。その中で「保育所・幼稚園・認定こども園などの費用負担の軽減(給食費などを含む)」と「こども医療費助成の充実」の割合が高まる傾向、「出産費用の援助や児童手当、扶養控除の増額など子育てのための経済的支援の拡充」と「育児休業制度や退職者の再雇用制度の充実など職場環境の整備」の割合は低下する傾向で推移しています。

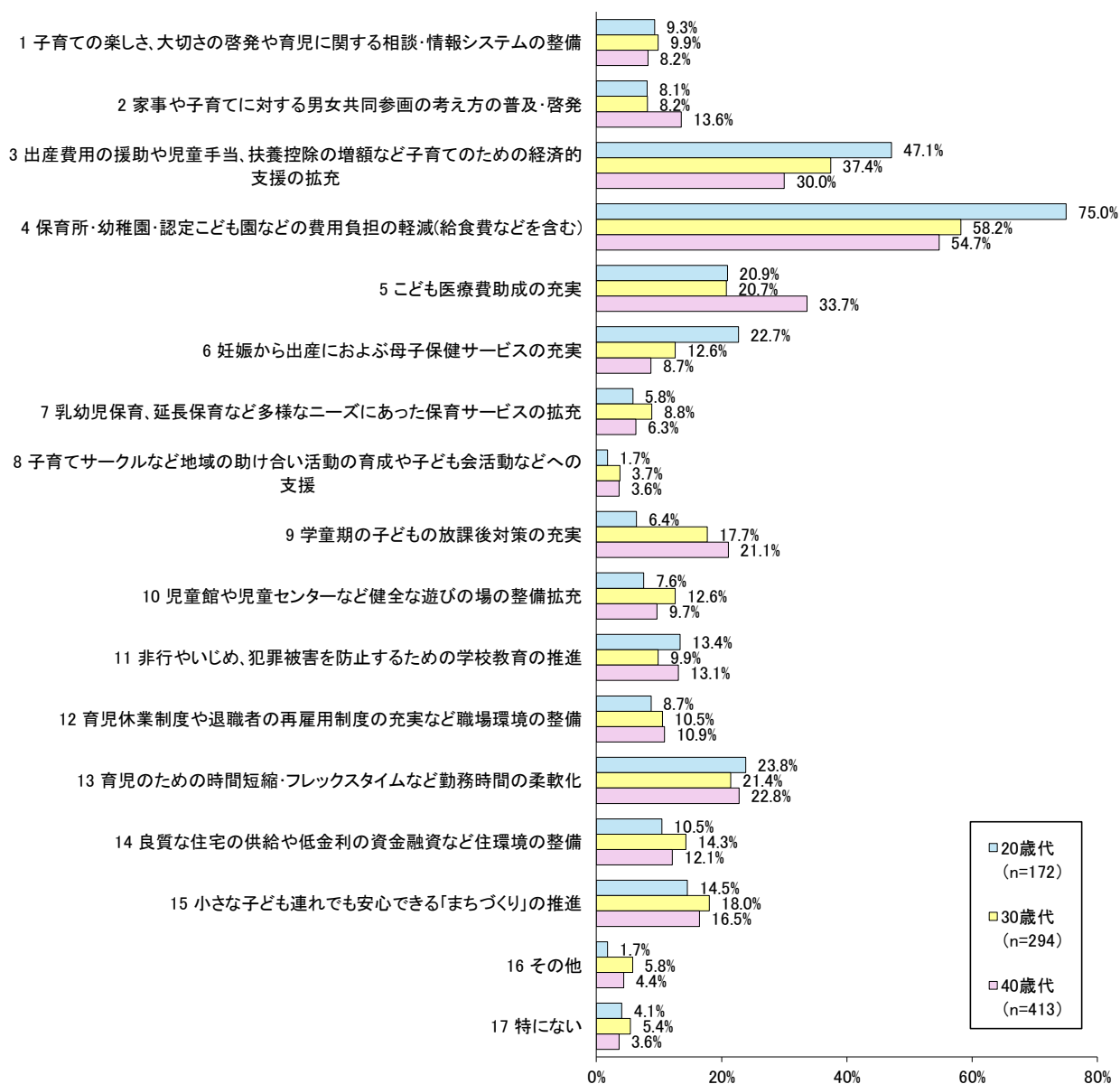
<全体>



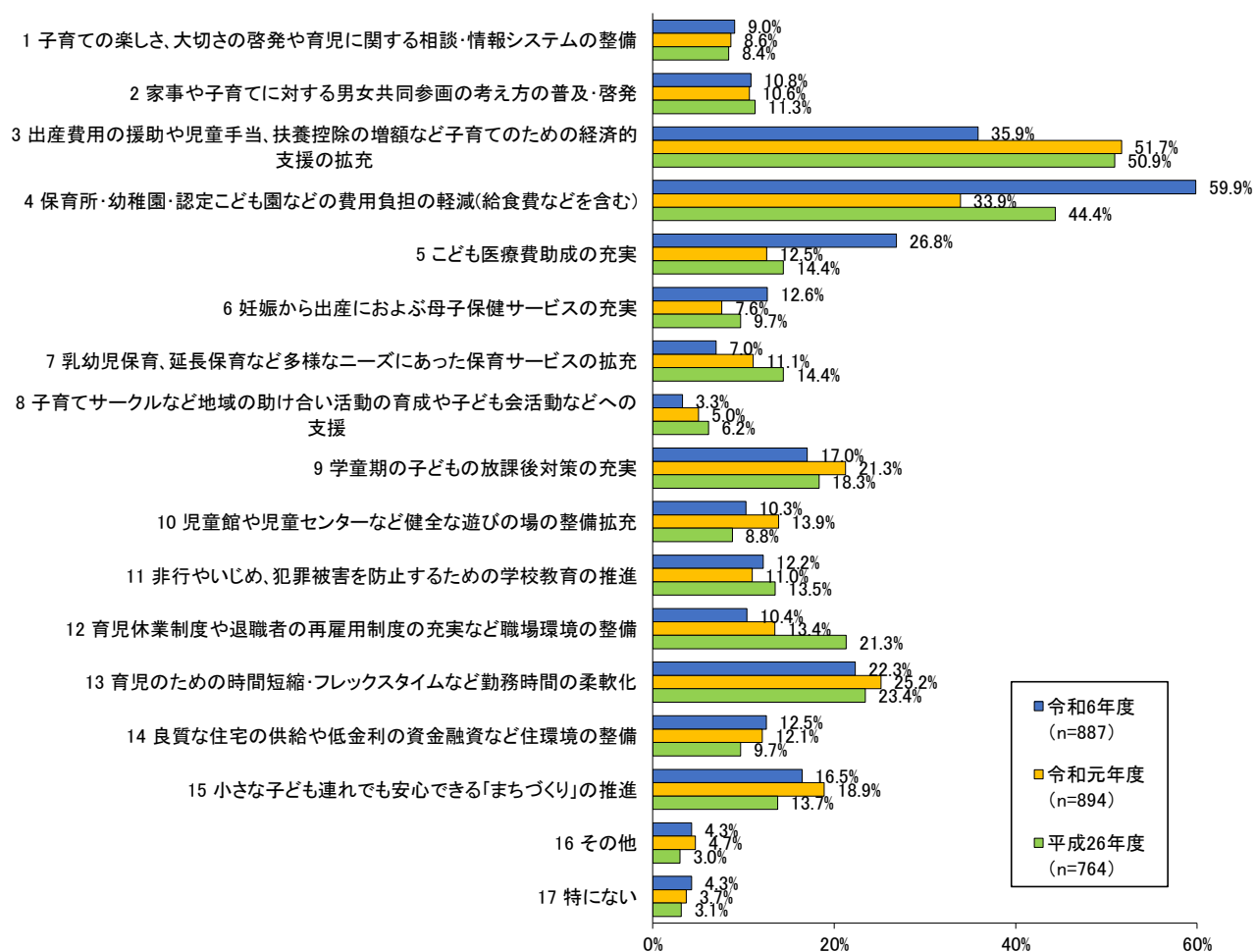
<性別>



<年代別>



＜過去調査との比較＞



問15 あなたが暮らしている地域(自治会単位などの地域コミュニティの範囲)や、あなたと地域との関わりについて、どのように考えますか。あなたと地域との関わりについて、どのように考えますか。

以下の各項目(①～⑤)について、1つずつ選んで○をつけてください。

① 伝統行事や町内会活動などが活発である

『思う』(「とてもそう思う」と「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の計:以下同じ)割合が54.2%、『思わない』(「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」と「まったくそう思わない」の計:以下同じ)割合が45.7%となっています。

② スポーツ活動や趣味の活動が活発である

『思う』割合が42.2%、『思わない』が57.8%となっています。

③ 地域活動で同年代の人とふれ合う機会が多い

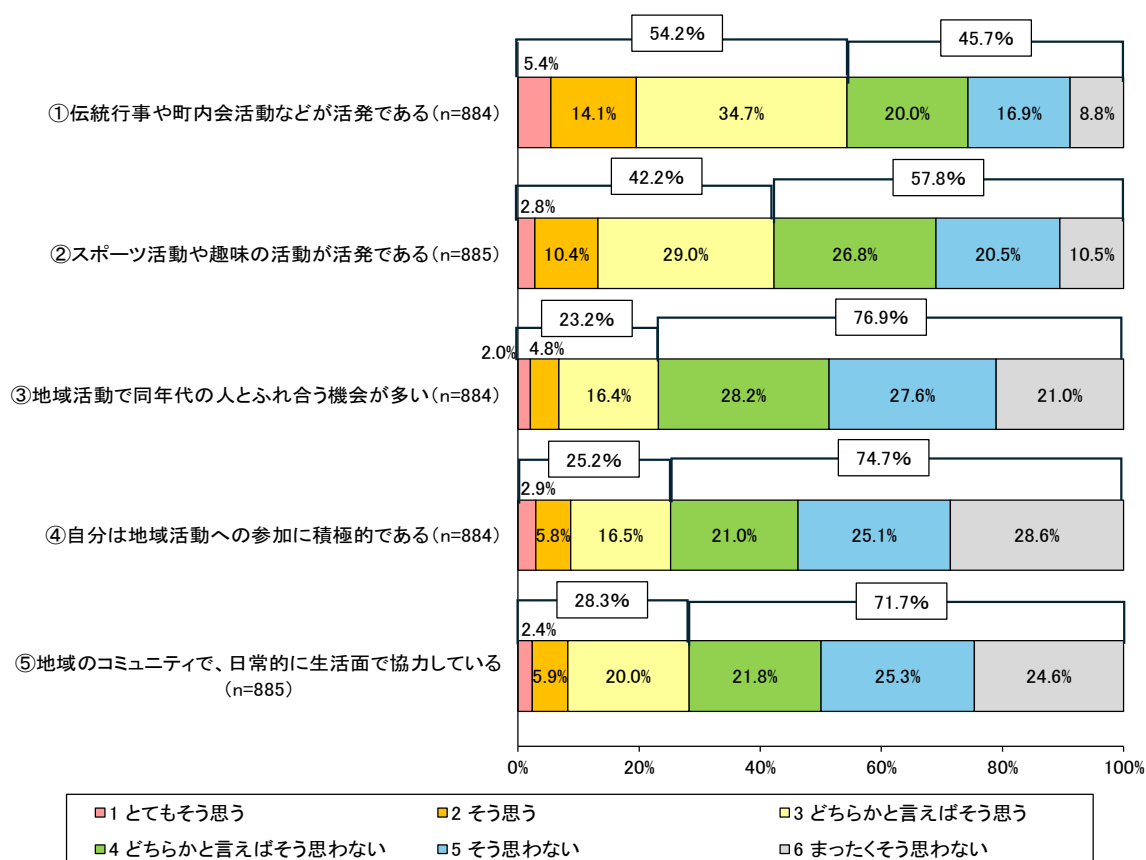
『思う』割合が23.2%、『思わない』が76.9%となっています。

④ 自分は地域活動への参加に積極的である

『思う』割合が25.2%、『思わない』が74.7%となっています。

⑤ 地域のコミュニティで、日常的に生活面で協力している

『思う』割合が28.3%、『思わない』が71.7%となっています。



問16 あなたが暮らしている地域の暮らしやすさ、居心地のよさについてどのように考えますか。
以下の各項目(①～⑤)について、1つずつ選んで○をつけてください。

① 近所に信頼して相談できる友人・知人がいる

『思う』(「とても思う」と「思う」と「どちらかと言えば思う」の計:以下同じ)割合が51.5%、『思わない』(「どちらかと言えば思わない」と「そう思わない」と「まったくそう思わない」の計:以下同じ)割合が48.5%となっています。

② 自分は近所で挨拶や立ち話をよくする

『思う』割合が39.1%、『思わない』が60.9%となっています。

③ いま暮らしている地域の生活ペースが自分に合っている

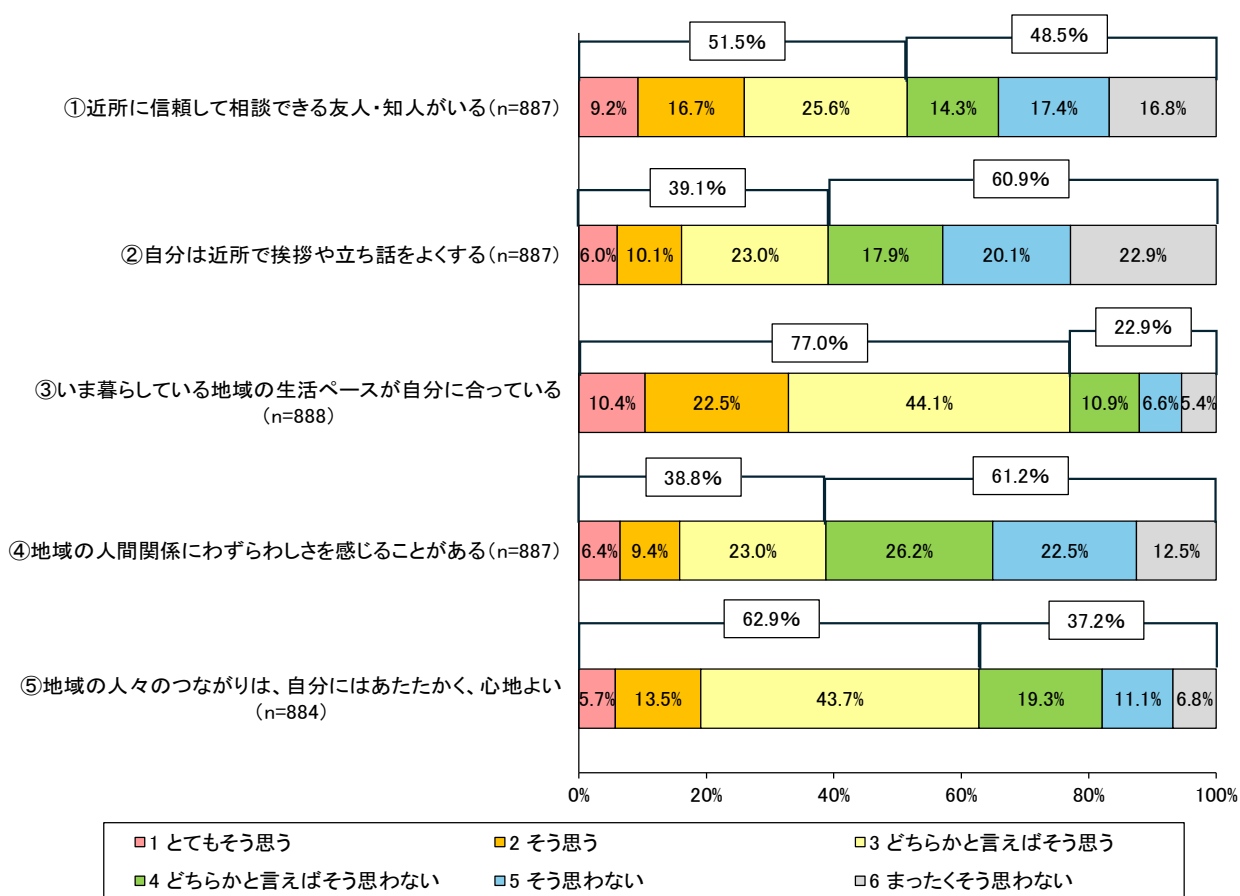
『思う』割合が77.0%、『思わない』が22.9%となっています。

④ 地域の人間関係にわずらわしさを感じることもある

『思う』割合が38.8%、『思わない』が61.2%となっています。

⑤ 地域の人々のつながりは、自分にはあたたかく、心地よい

『思う』割合が62.9%、『思わない』が37.2%となっています。



問17 子どもの頃の経験についてお聞きます。あなたの身近な人の結婚や子どものこと、また遊び方についてどのように考えますか。

以下の各項目(①～⑥)について、1つずつ選んで○をつけてください。

① 両親や親戚に仲の良い夫婦がいた

『思う』(「とてもそう思う」と「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の計:以下同じ)割合が75.8%、『思わない』(「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」と「まったくそう思わない」の計:以下同じ)割合が24.3%となっています。

② 友人の両親や知人に仲の良い夫婦がいた

『思う』割合が79.3%、『思わない』が20.7%となっています。

③ 小さい子どもとふれ合う機会がよくあった

『思う』割合が68.6%、『思わない』が31.5%となっています。

④ 身近に三人以上子どもを持つ夫婦が多かった

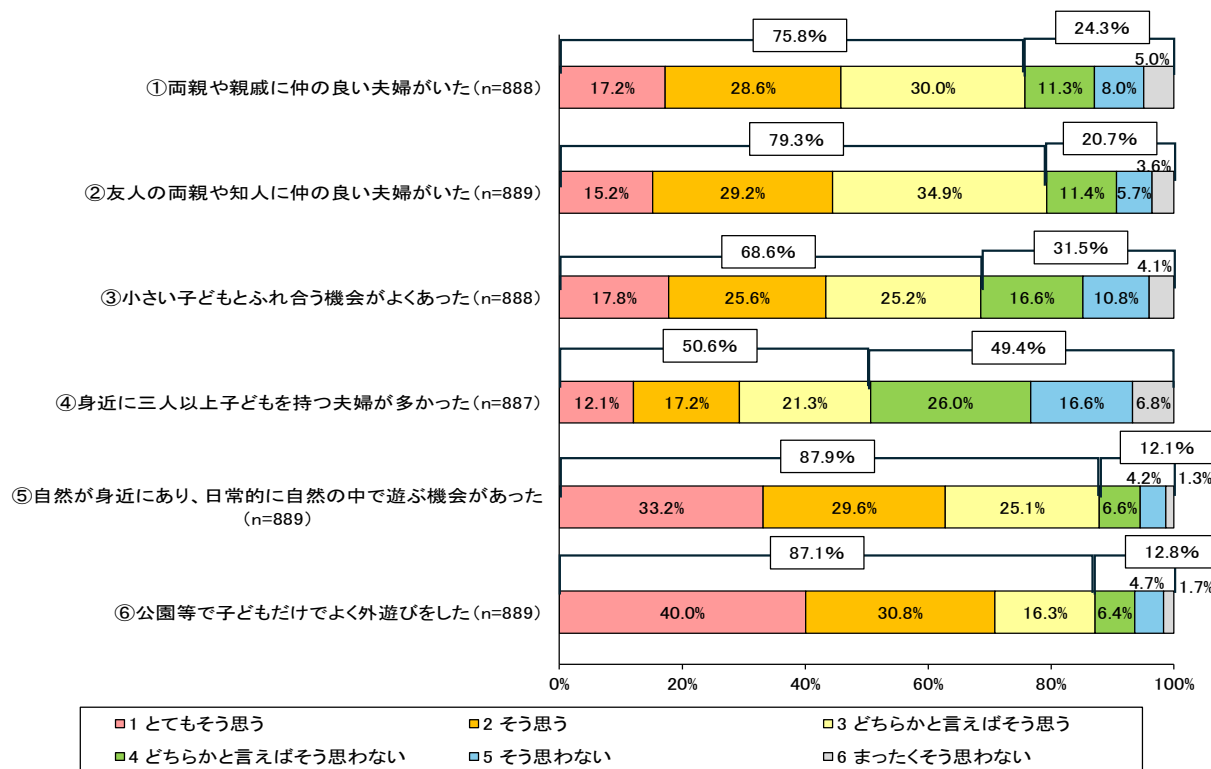
『思う』割合が50.6%、『思わない』が49.4%となっています。

⑤ 自然が身近にあり、日常的に自然の中で遊ぶ機会があった

『思う』割合が87.9%、『思わない』が12.1%となっています。

⑥ 公園等で子どもだけでよく外遊びをした

『思う』割合が87.1%、『思わない』が12.8%となっています。



問18 ご自身についてのお考えをご回答ください。

以下の各項目(①～⑥)について、1つずつ選んで○をつけてください。

① 自分自身に満足している

『思う』(「とてもそう思う」と「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の計:以下同じ)割合が64.2%、『思わない』(「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」と「まったくそう思わない」の計:以下同じ)割合が35.9%となっています。

② 自分はうまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む

『思う』割合が60.1%、『思わない』が39.9%となっています。

③ 自分は役に立たないと感じる

『思う』割合が31.5%、『思わない』が68.5%となっています。

④ 自分はありのまま、素直に生きていると思う

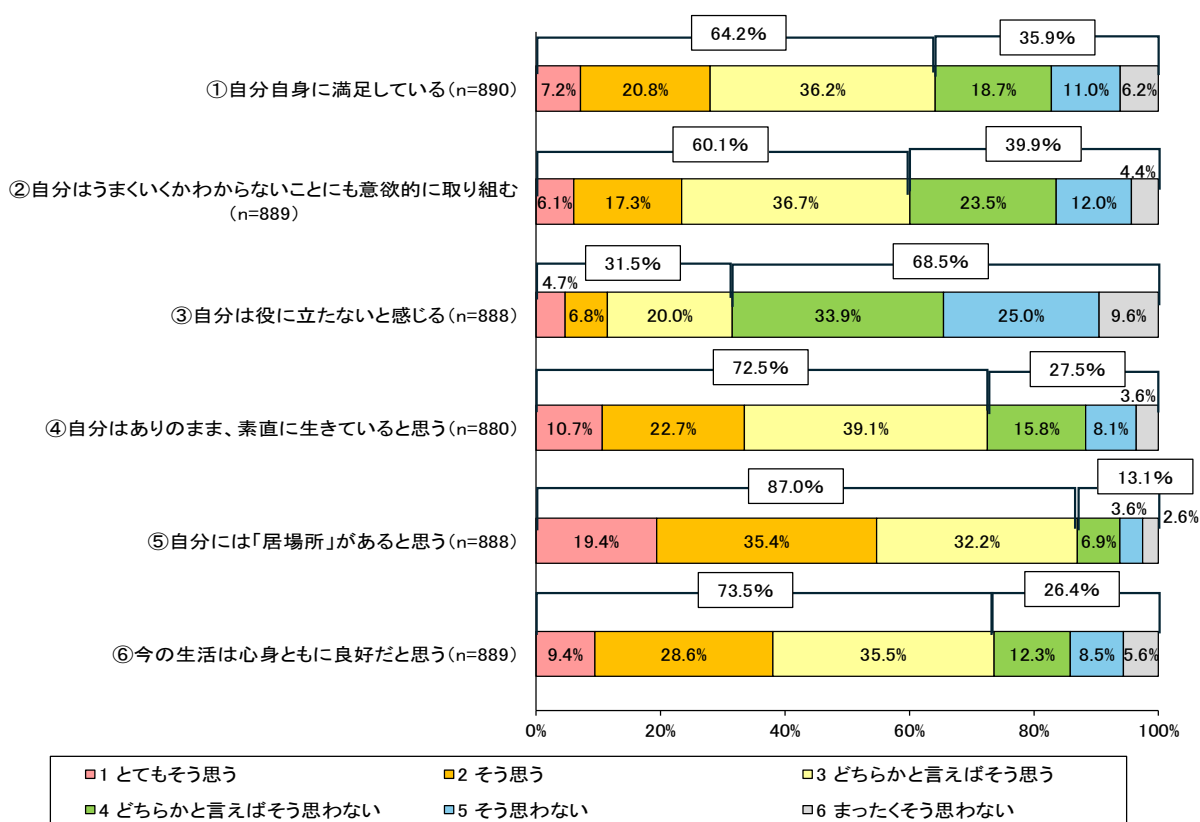
『思う』割合が72.5%、『思わない』が27.5%となっています。

⑤ 自分には「居場所」があると思う

『思う』割合が87.0%、『思わない』が13.1%となっています。

⑥ 今の生活は心身ともに良好だと思う

『思う』割合が73.5%、『思わない』が26.4%となっています。



4. 子どもの貧困対策に関することについて

問19 現在、県では、子どもの将来が生まれ育った環境に左右されないよう、「子どもの貧困対策」の取組を進めています。

あなたは、子どもの貧困対策を進めるために、県や市町村にどのような政策を望みますか。

次の項目の中から3つまで選んで○をつけてください。

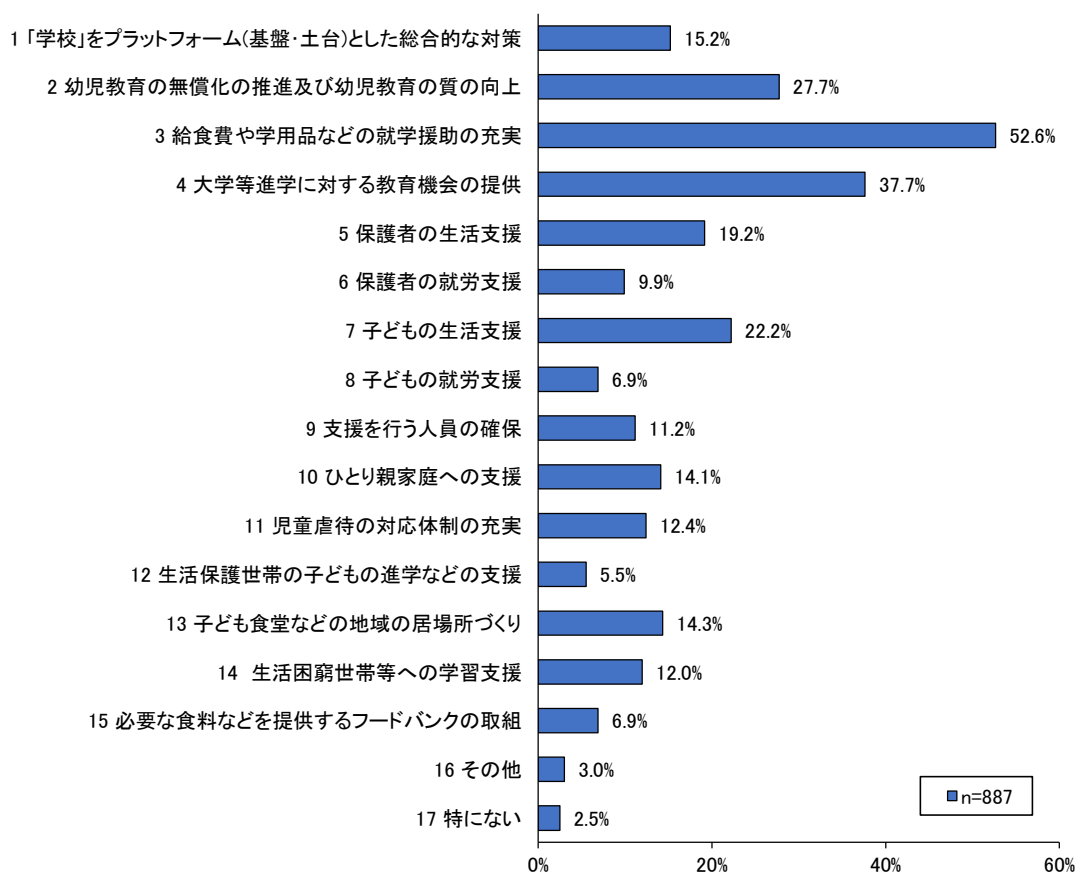
全体では、上位の3項目は「給食費や学用品などの就学援助の充実」の割合(52.6%)が最も高く、次いで「大学等進学に対する教育機会の提供」(37.7%)、「幼児教育の無償化の推進及び幼児教育の質の向上」(27.7%)となっています。

性別では、男女とも上位の項目の順位と割合は全体とほぼ同じ結果となっています。

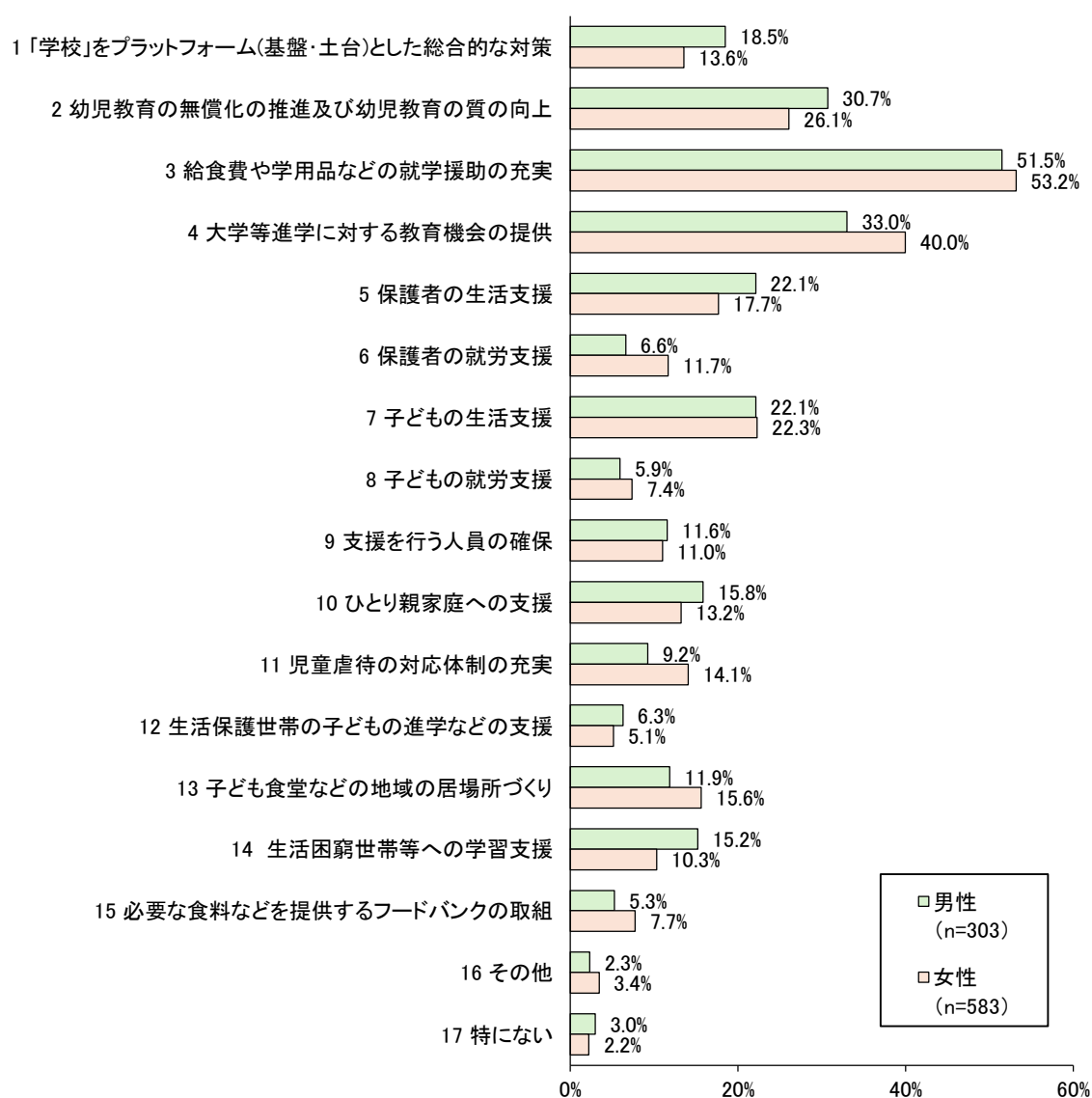
年代別では、各年代とも上位の項目の順位と割合は全体とほぼ同じ結果となっています。

過去調査との比較では、上位の項目の順位はほぼ同じ結果となっています。その中で、「給食費や学用品などの就学援助の充実」の割合は令和元年度から令和6年度は12.7ポイント高まっています(令和元年度:39.9%→令和6年度:52.6%)。

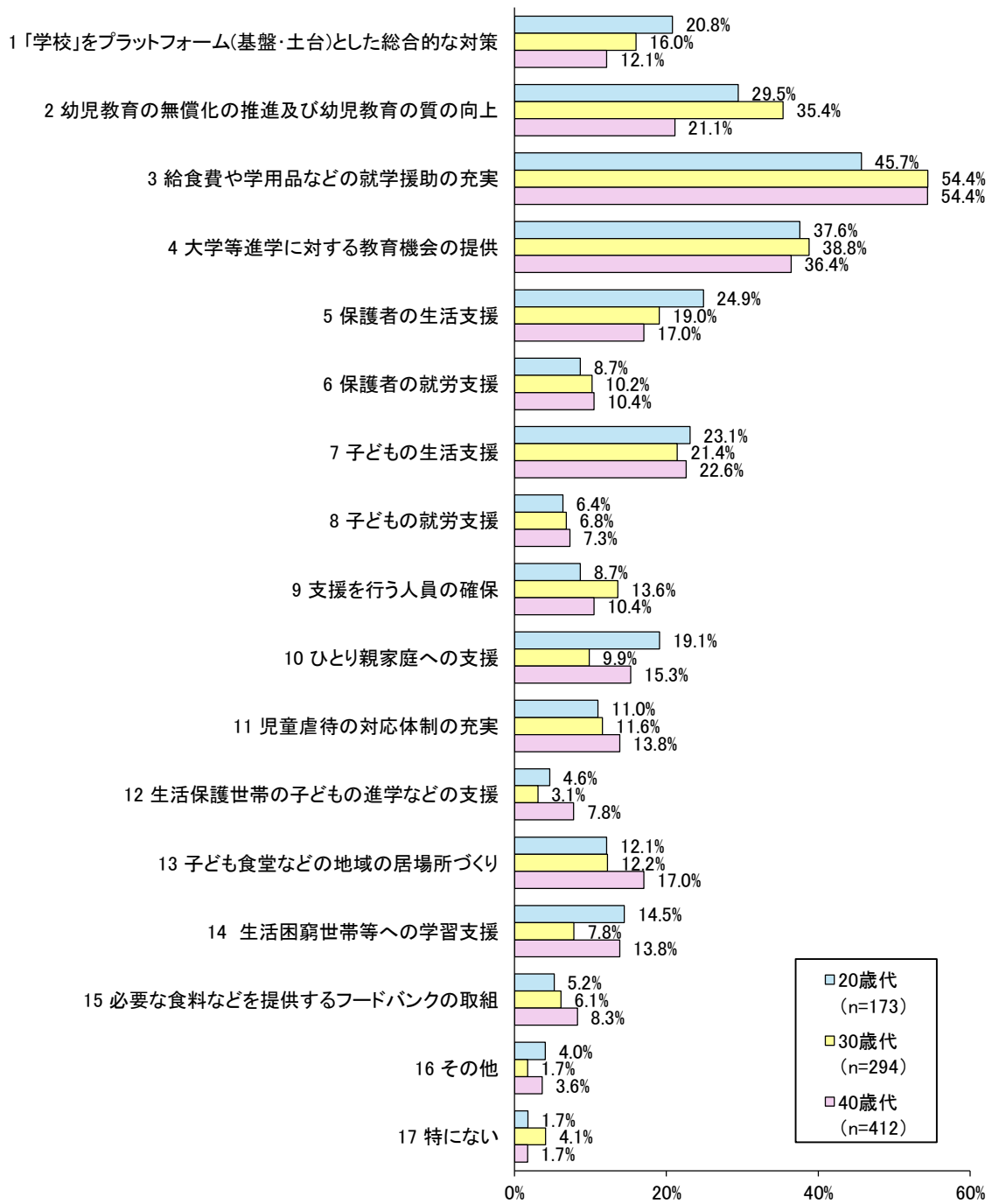
<全体>



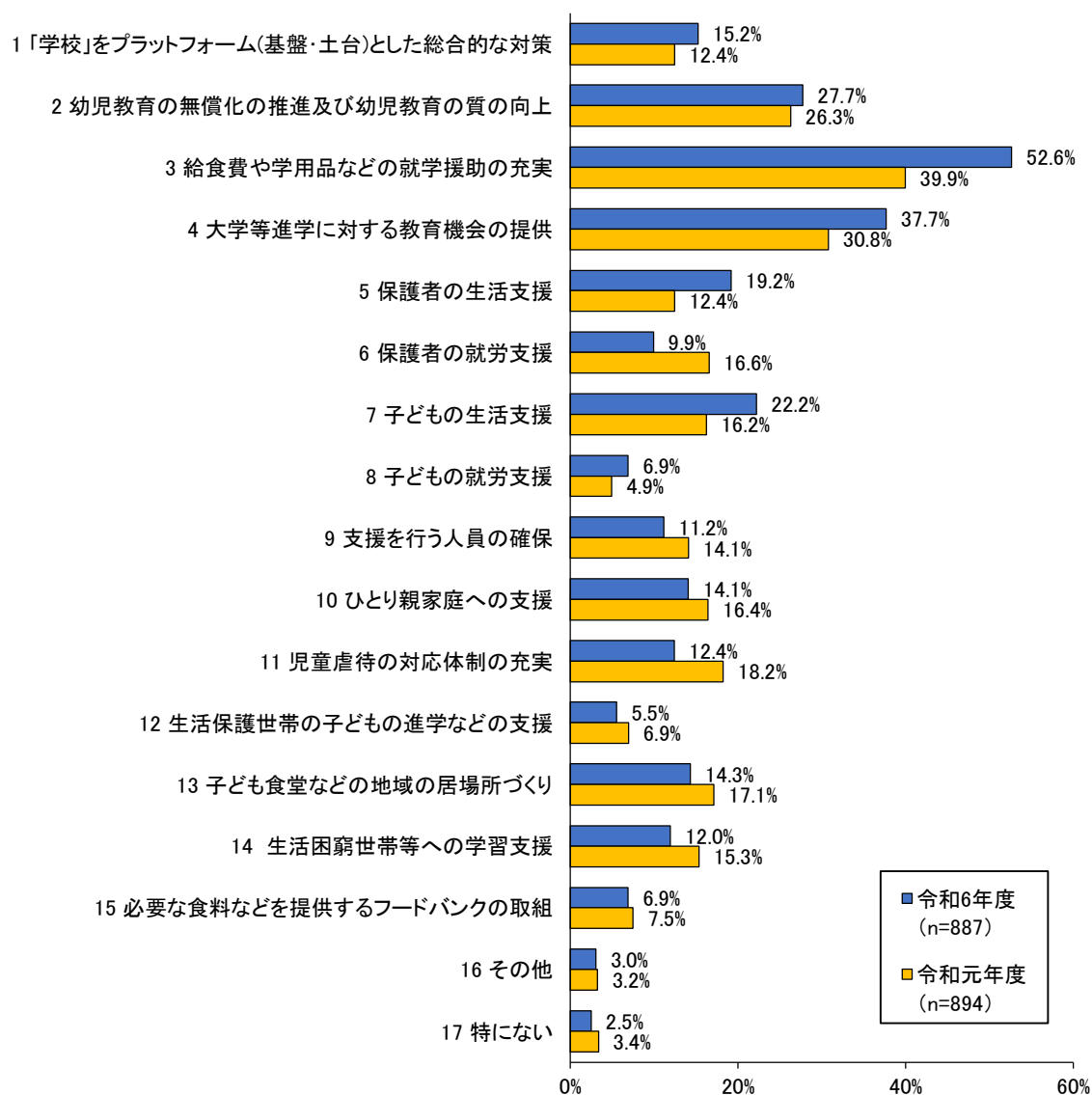
<性別>



<年代別>



<過去調査との比較>



5. 仕事と子育ての両立に関することについて

問20 あなたは、仕事と子育てを両立させるためには、どのような取組を進めることが必要だと思いますか。
次の項目の中から3つまでを選んで○をつけてください。

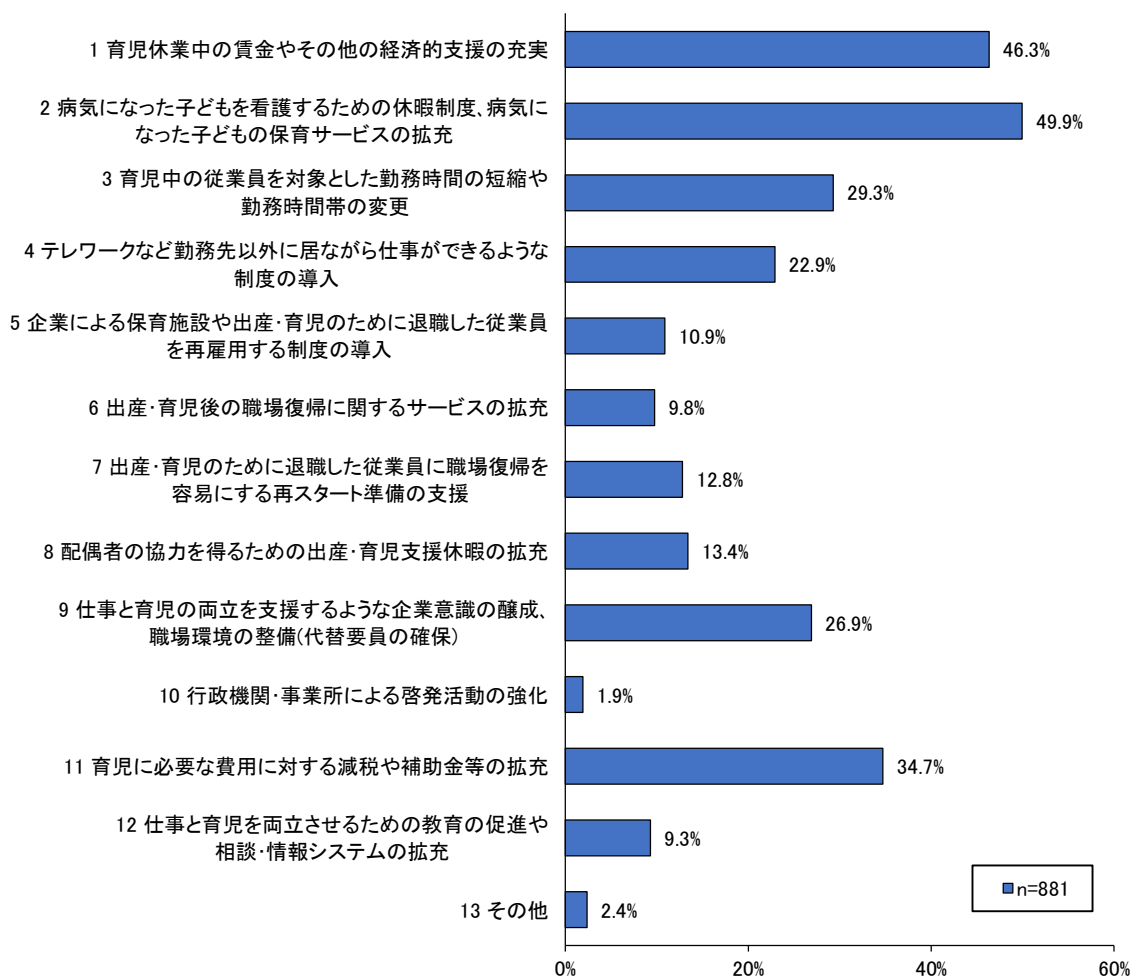
全体では、上位の3項目は「病気になった子どもを看護するための休暇制度、病気になった子どもの保育サービスの拡充」の割合(49.9%)が最も高く、次いで「育児休業中の賃金やその他の経済的支援の充実」(46.3%)、「育児に必要な費用に対する減税や補助金等の拡充」(34.7%)となっています。

性別では、男女とも上位の項目の順位と割合は全体とほぼ同じ結果となっています。その中で、「育児休業中の賃金やその他の経済的支援の充実」の割合は男性が女性を12.5ポイント(男性:54.5%、女性:42.0%)、「病気になった子どもを看護するための休暇制度、病気になった子どもの保育サービスの拡充」は女性が男性を9.3ポイント(女性:53.2%、男性43.9%)上回っています。

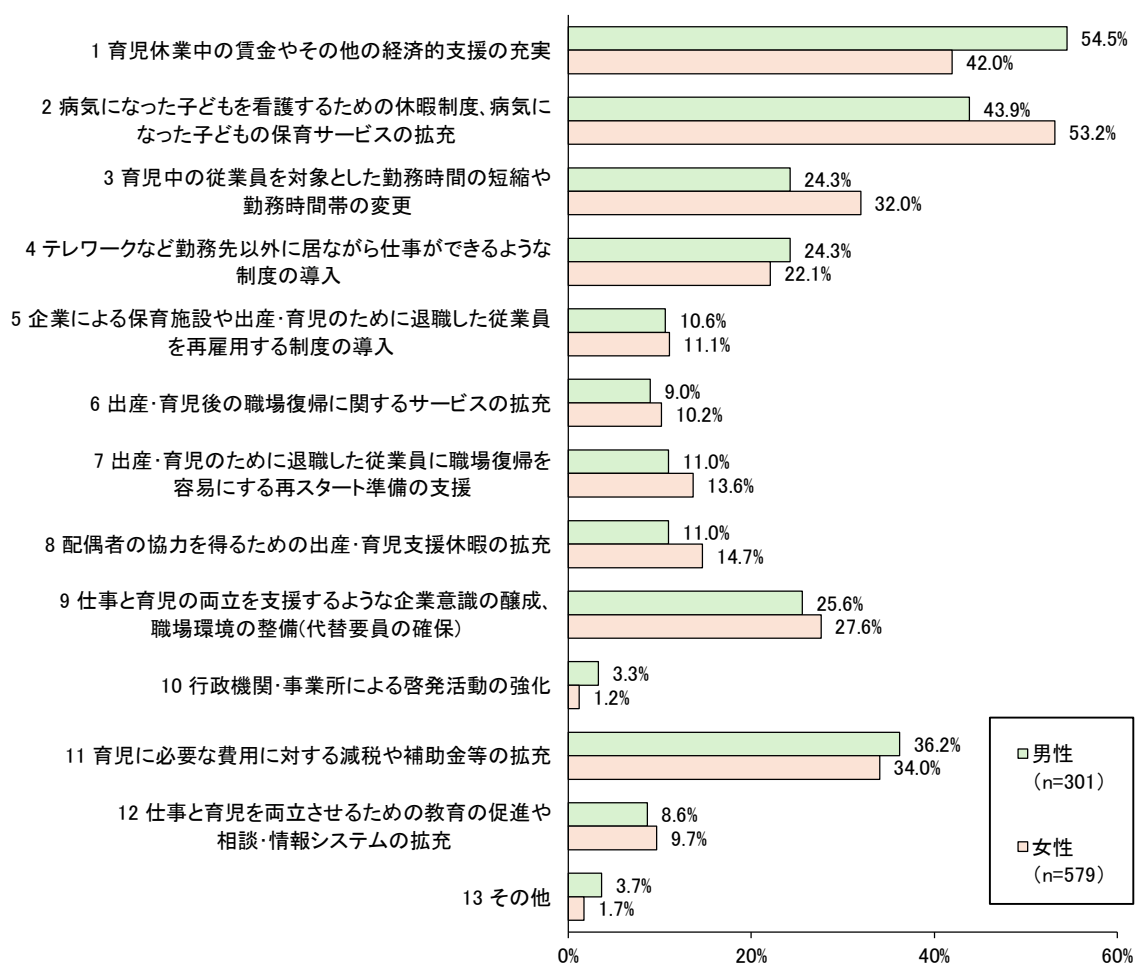
年代別では、各年代とも上位の項目の順位は全体とほぼ同じ結果となっています。その中で、「育児休業中の賃金やその他の経済的支援の充実」の割合は20歳代と30歳代が半数を上回っています(20歳代:56.6%、30歳代:52.9%、40歳代:37.0%)。

過去調査との比較では、上位の項目の順位と割合はほぼ同じ結果となっています。その中で、「育児休業中の賃金やその他の経済的支援の充実」の割合は高まる傾向(平成26年度:40.3%→令和元年度:37.0%→令和6年度:46.3%)、「病気になった子どもを看護するための休暇制度、病気になった子どもの保育サービスの拡充」の割合は低下する傾向(平成26年度:53.9%→令和元年度:50.2%→令和6年度:49.9%)で推移しています。

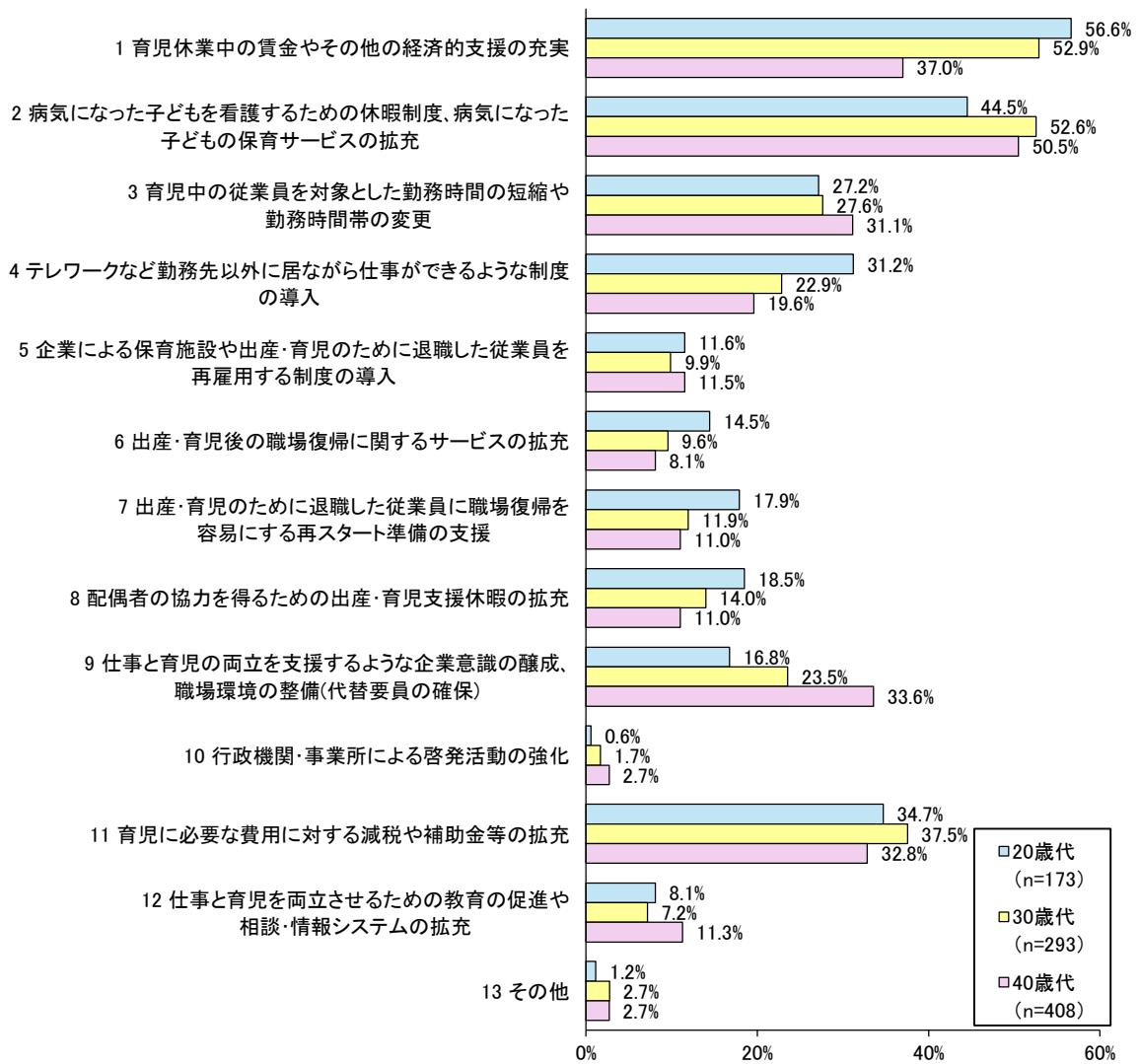
<全体>



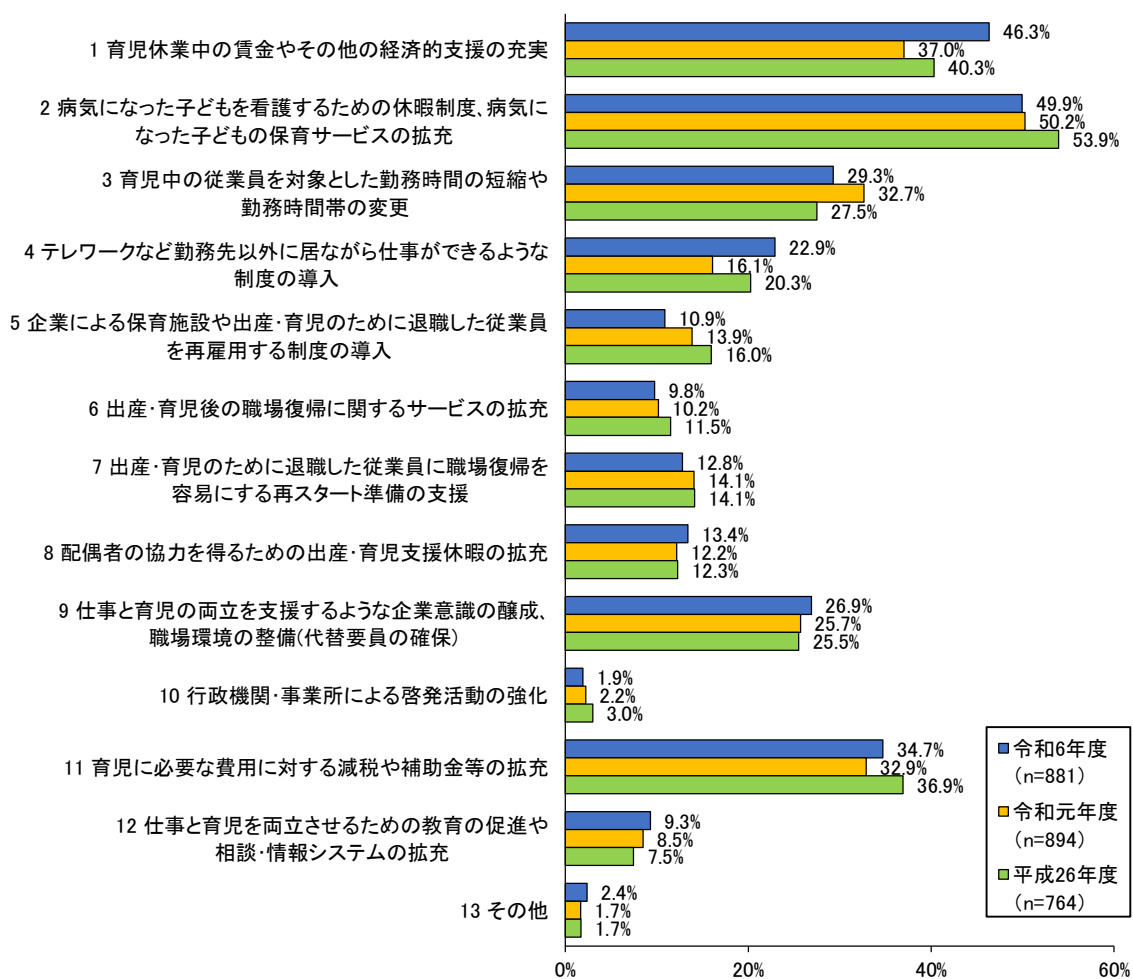
<性別>



<年代別>



<過去調査との比較>



問21 あなたは、今後、男性が女性とともに子育てに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

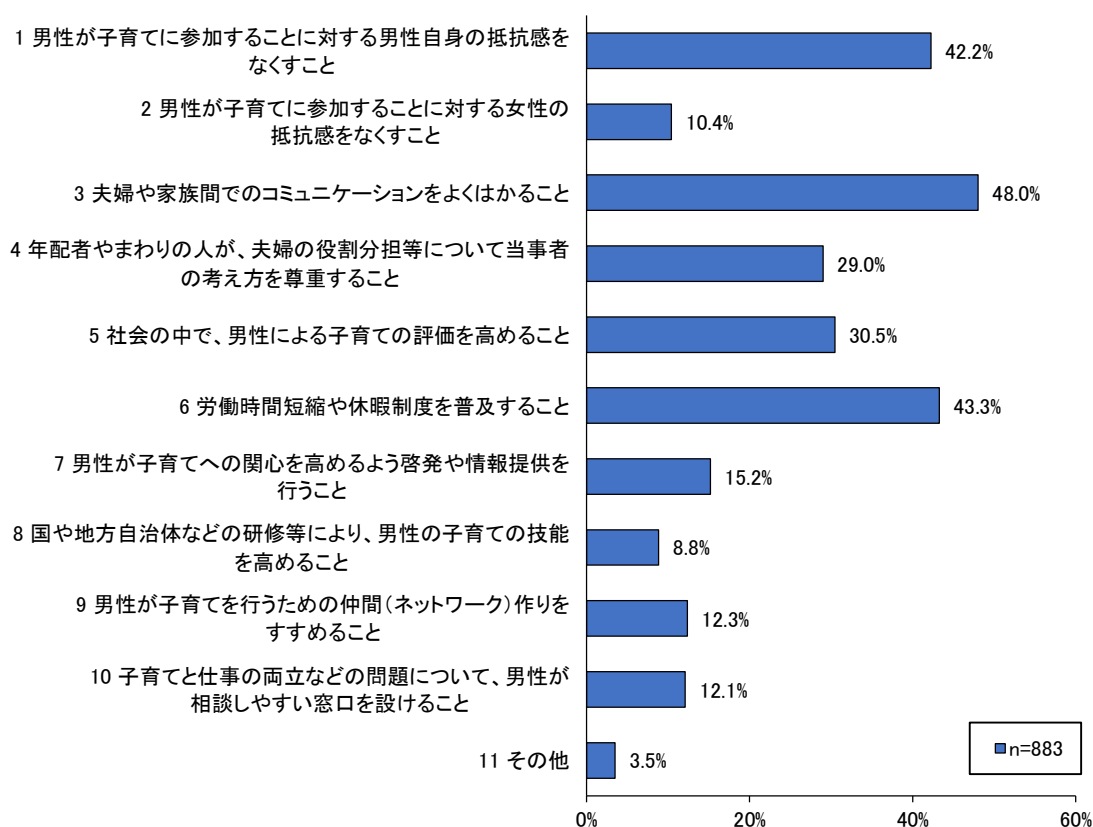
次の項目の中から3つまでを選んで○をつけてください。

全体では、上位の3項目は「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合(48.0%)が最も高く、次いで「労働時間短縮や休暇制度を普及すること」(43.3%)、「男性が子育てに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(42.2%)となっています。

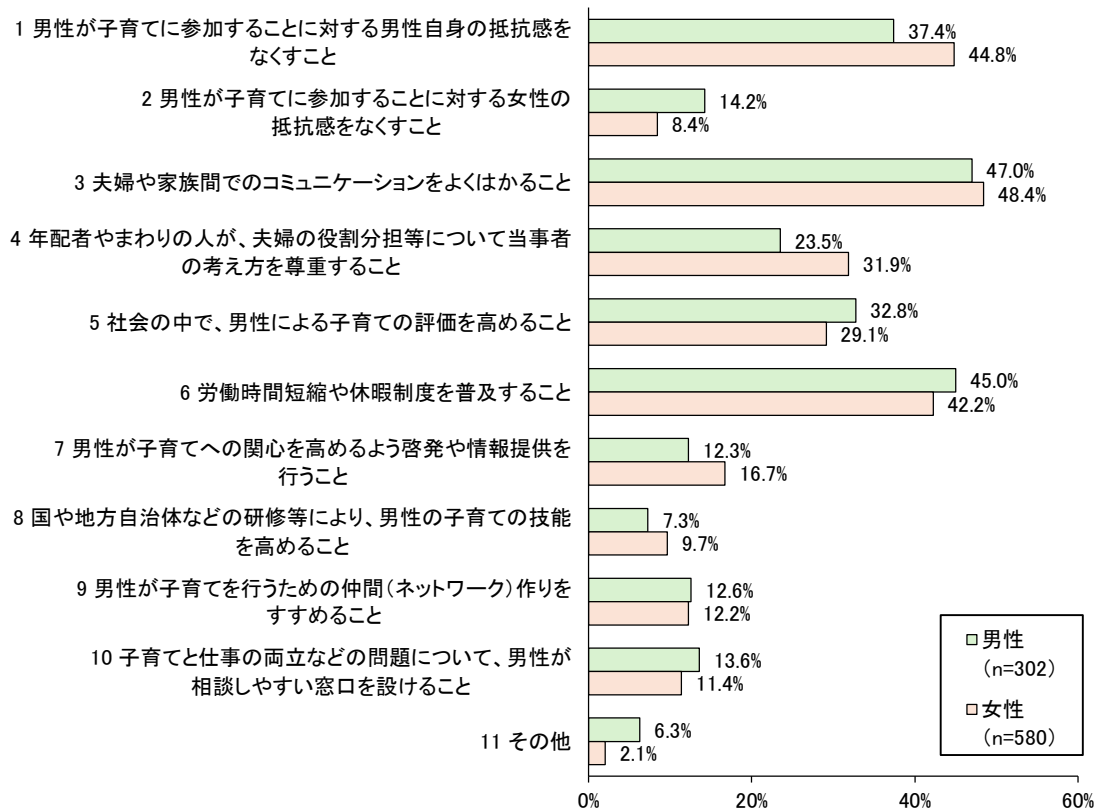
性別では、男女とも上位の項目の順位と割合は全体とほぼ同じとなっています。その中で、女性が男性を上回っている項目は「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること」(女性:31.9%、男性:23.5%…8.4ポイント差)、「男性が子育てに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(女性:44.8%、男性:37.4%…7.4ポイント差)となっています。

年代別では、各年代とも上位の項目の順位と割合は全体とほぼ同じ結果となっています。

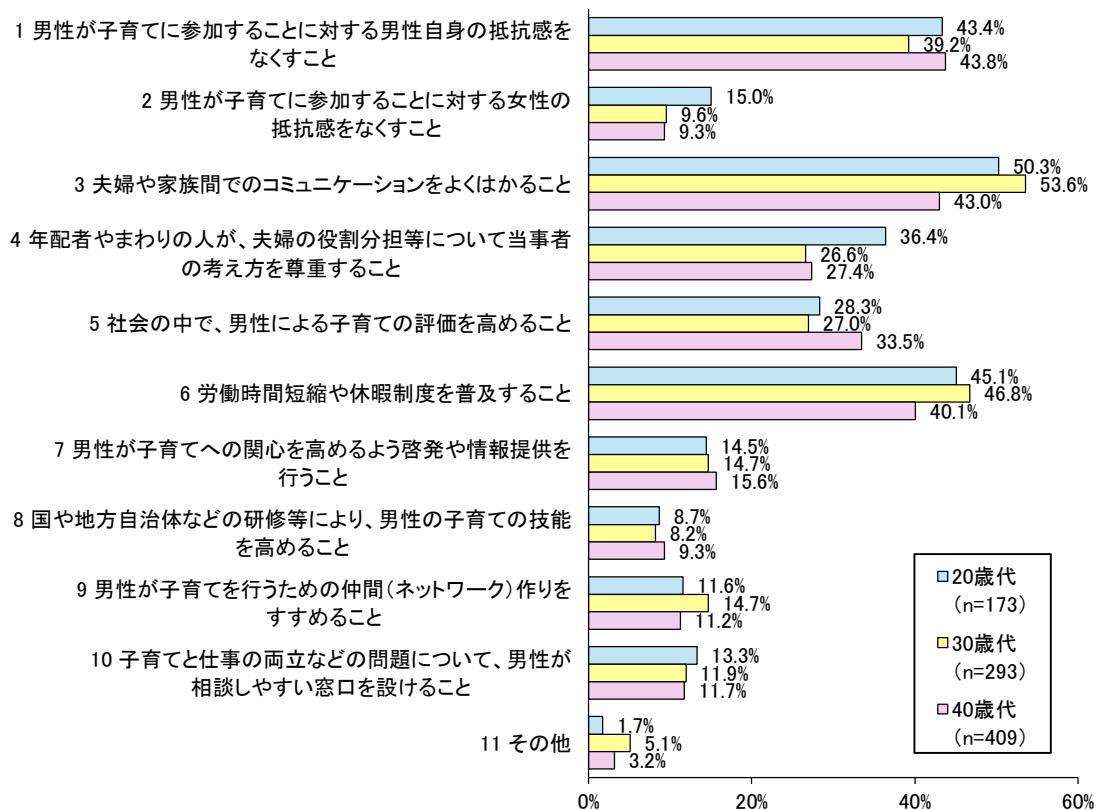
<全体>



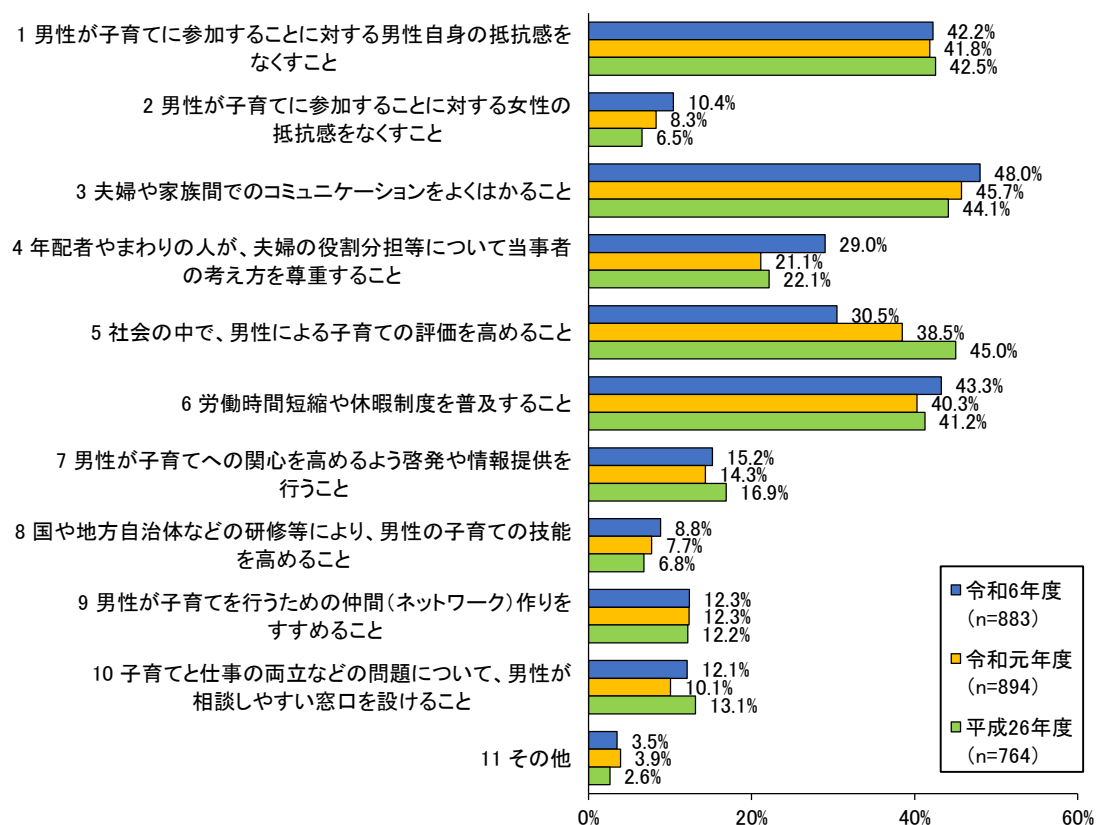
<性別>



<年代別>



<過去調査との比較>



問22 あなたは、育児休業制度を利用したいと思いますか。

次の項目の中から1つだけ選んで○をつけてください。

現在、働いていない人は、働いていると想定してお答えください。また、子育ての予定のない人は子育てすると想定してお答えください。

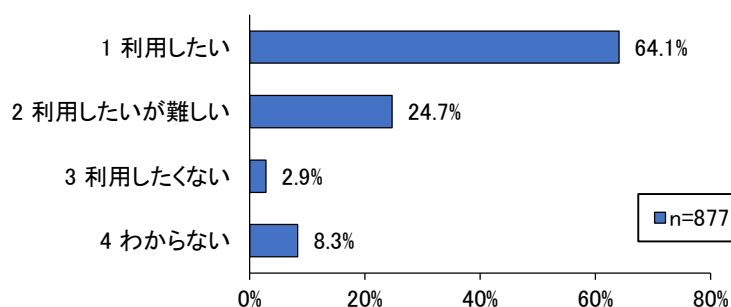
全体では、「利用したい」の割合が64.1%となっており、「利用したいが難しい」が24.7%、「利用したくない」が2.9%となっています。

性別では、男性は「利用したい」の割合(44.0%)が「利用したいが難しい」(38.1%)を5.9%上回っています。女性は「利用したい」が74.6%で「利用したいが難しい」(17.8%)を大きく上回っています。

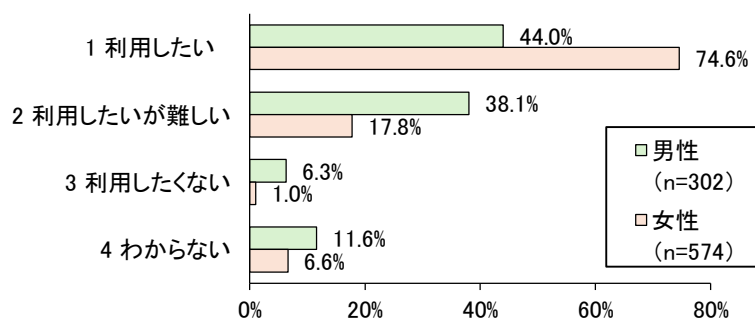
年代別では、「利用したい」の割合が各年代とも6割以上となっています。その中で、「利用したいが難しい」は20歳代が他の年代をやや下回っています(20歳代:17.3%、30歳代:25.9%、40歳代:27.3%)。

過去調査との比較では、「利用したい」の割合は高まる傾向で推移しています(平成26年度:56.5%→令和元年度:60.5%→令和6年度:64.1%)。「利用したいが難しい」はやや低下する傾向で推移しています(平成26年度:28.0%→令和元年度:21.5%→令和6年度:24.7%)。

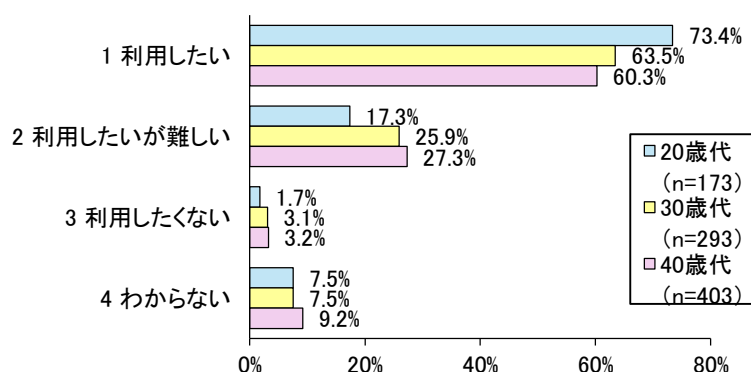
<全体>



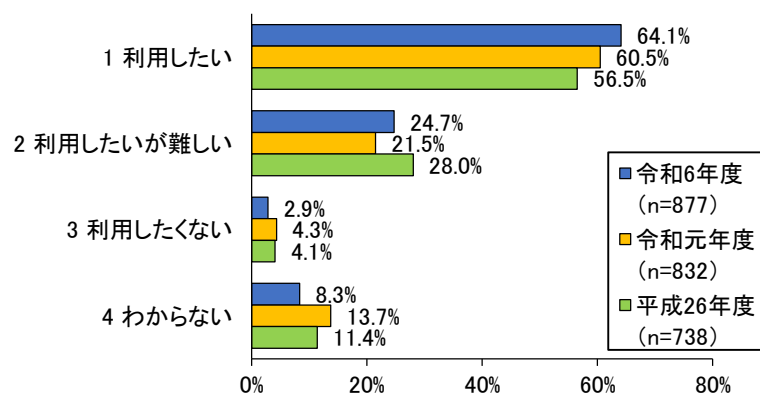
<性別>



<年代別>



＜過去調査との比較＞



問23 問22で選択肢「2 利用したいが難しい」又は「3 利用したくない」を選ばれた方におうかがいします。
あなたがそう思う理由は何ですか。

次の項目の中から3つまで選んで○をつけてください。

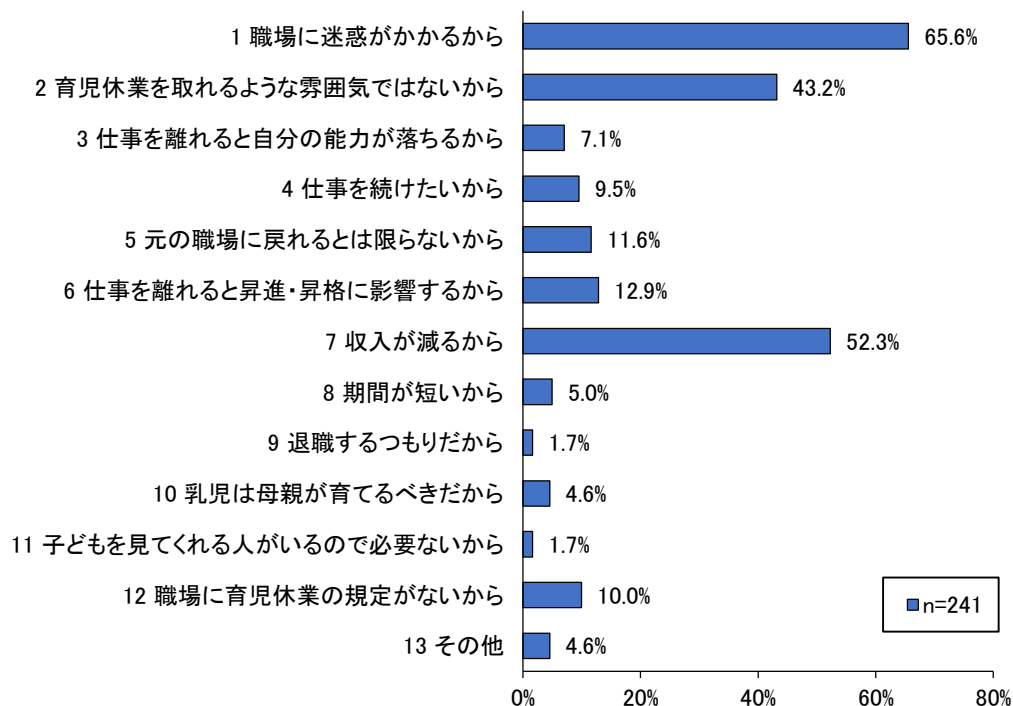
全体では、上位の3項目は「職場に迷惑がかかるから」の割合(65.6%)が最も高く、次いで「収入が減るから」(52.3%)、「育児休業を取れるような雰囲気ではないから」(43.2%)となっています。

性別では、男女とも上位の項目の順位と割合はほぼ同じ結果となっています。その中で、「職場に迷惑がかかるから」の割合は男性が女性を8.7ポイント上回っています(男性:69.4%、女性:60.7%)。

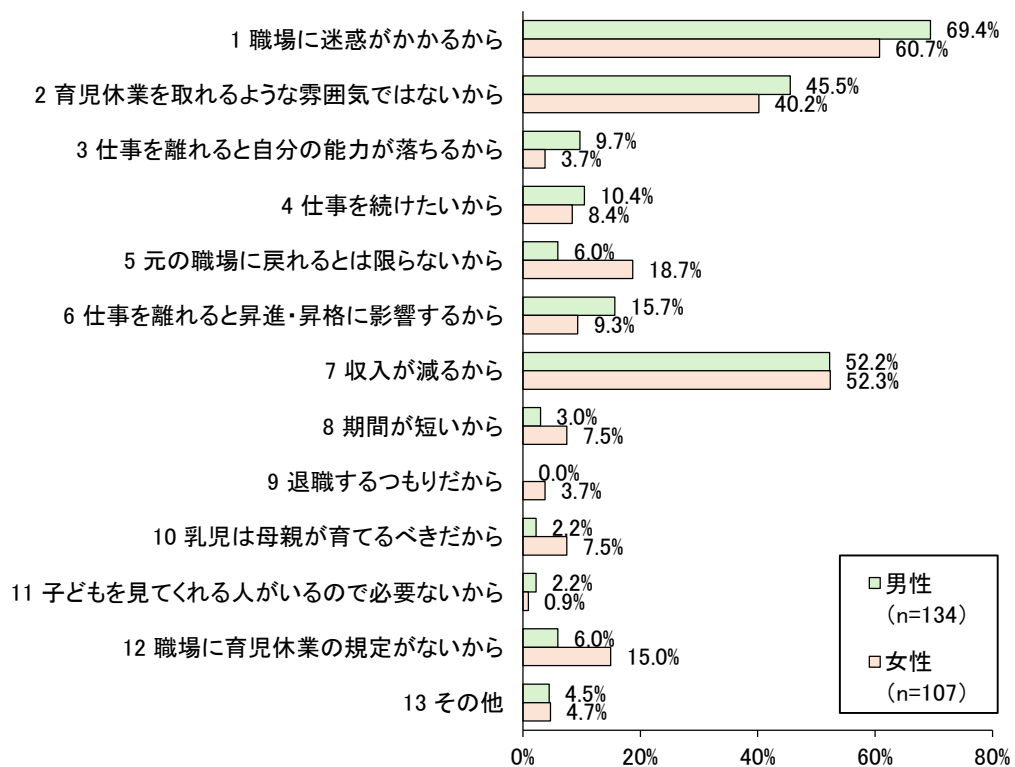
年代別では、各年代とも上位の項目の順位と割合は全体とほぼ同じ結果となっています。

過去調査との比較では、上位の項目の順位はほぼ同じ結果となっています。その中で、「収入が減るから」の割合は高まる傾向で推移しています(平成26年度:43.0%→令和元年度:49.8%→令和6年度:52.3%)。一方、「育児休業を取れるような雰囲気ではないから」の割合は低下する傾向で推移しています(平成26年度:49.4%→令和元年度:36.7%→令和6年度:43.2%)。

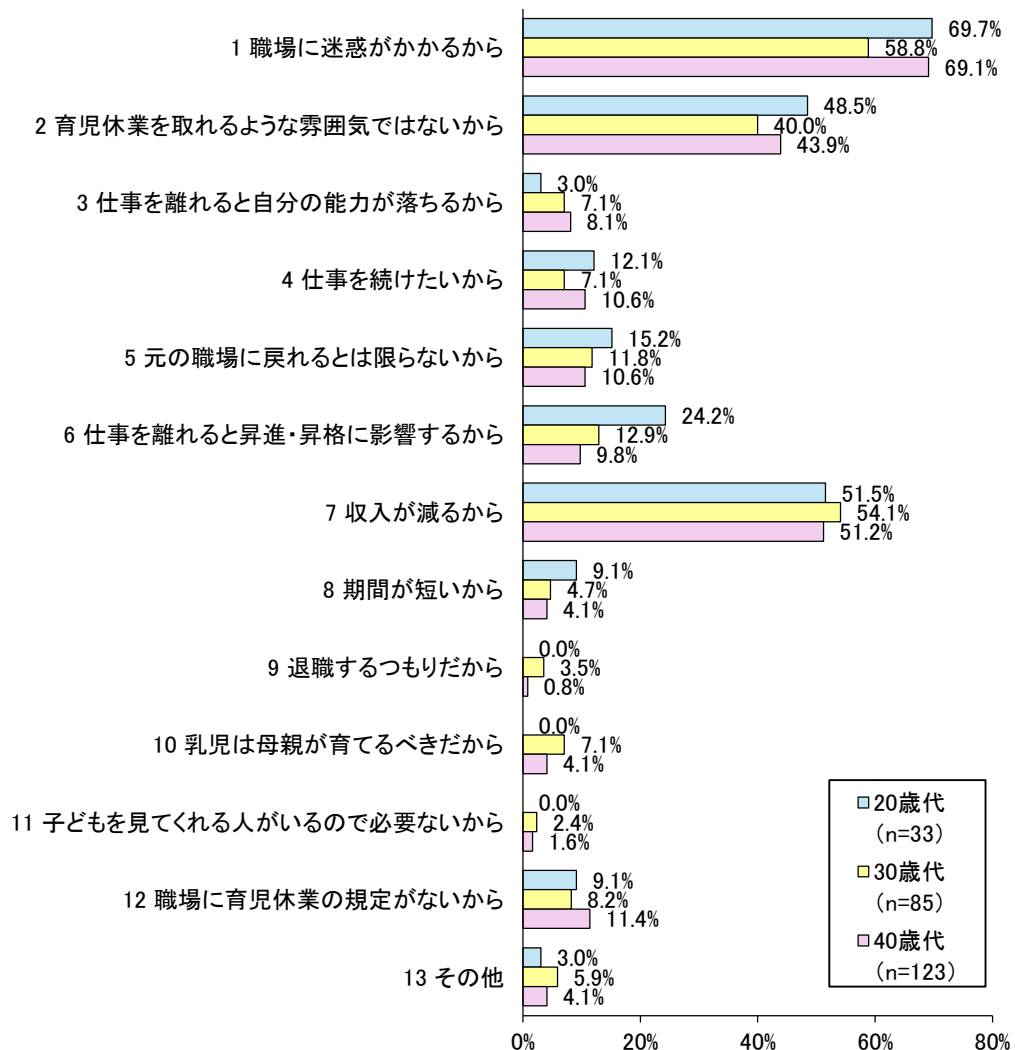
<全体>



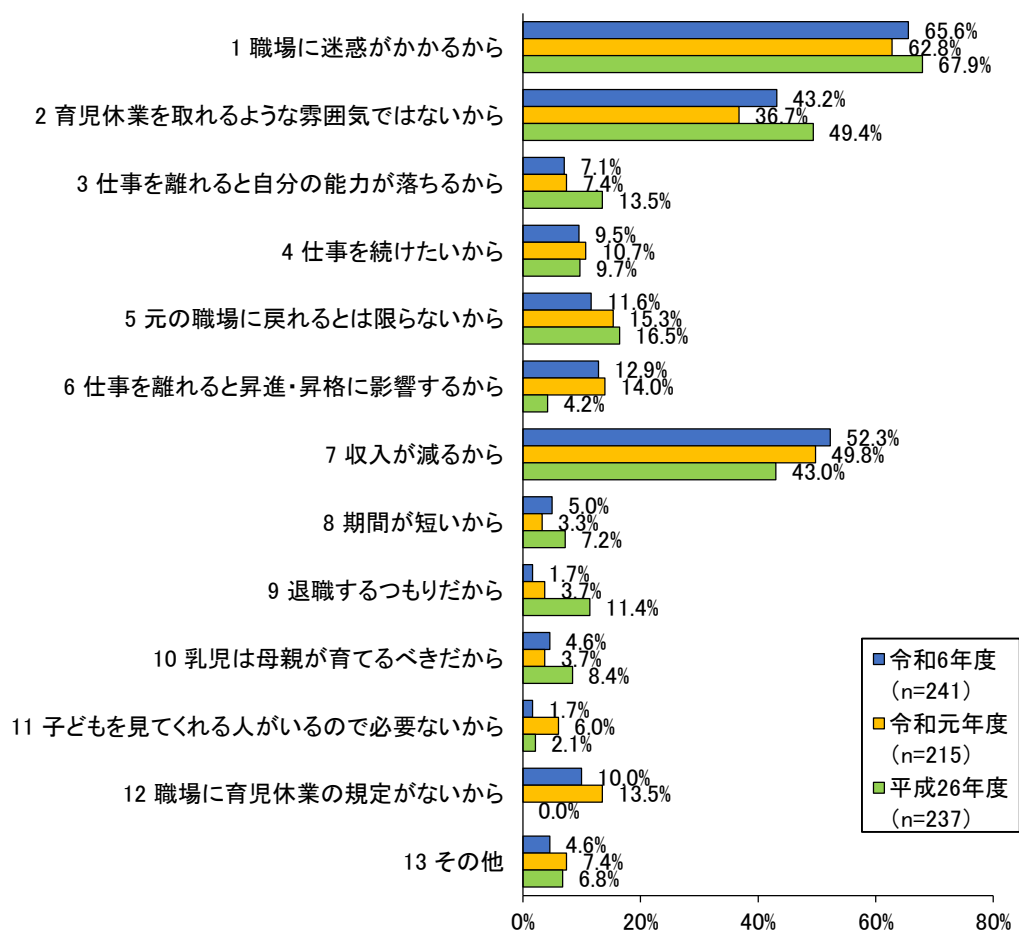
<性別>



<年代別>



<過去調査との比較>



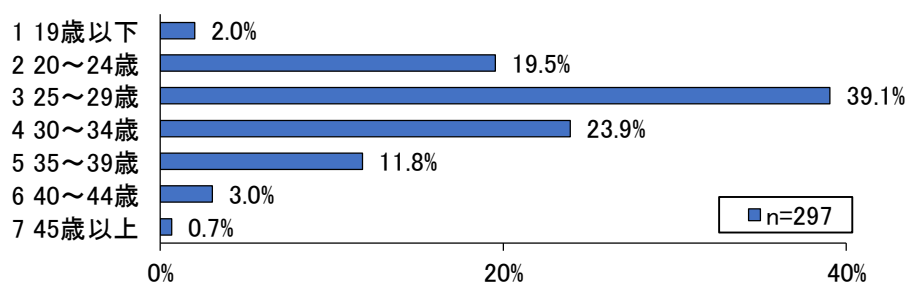
6. 子どもがいる人の回答

問24 あなたの第1子が生まれたとき、あなたと、相手となる父親(あるいは母親)は何歳でしたか。

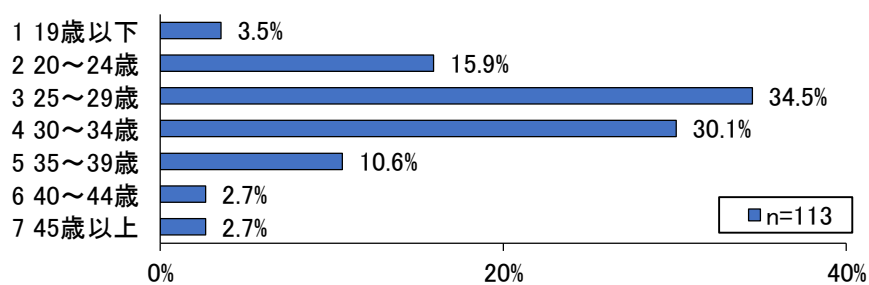
全体では、母親の年齢は「25～29歳」の割合(39.1%)が最も高く、次が「30～34歳」(23.9%)となっています。父親の年齢は「25～29歳」の割合(34.5%)が最も高く、次が「30～34歳」(30.1%)となっています。

<全体>

・母親の年齢



・父親の年齢



問25 第1子が生まれたときのあなたの年齢についてどのように考えられますか。

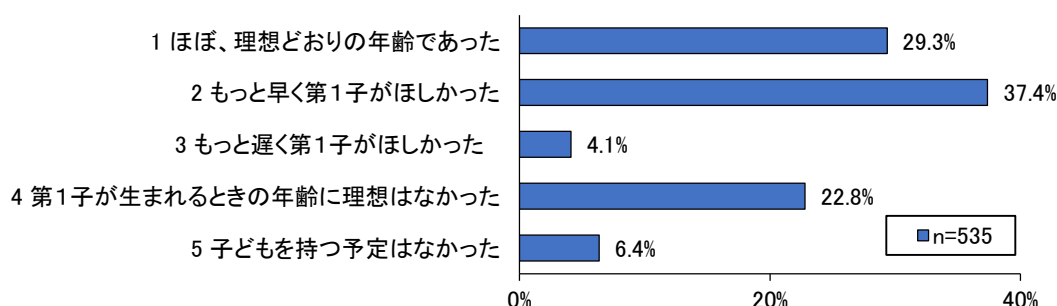
次の項目の中から1つだけ選んで○をつけてください。

全体では、「もっと早く第1子がほしかった」の割合(37.4%)が最も高く、次が「ほぼ、理想どおりの年齢であった」(29.3%)となっています。

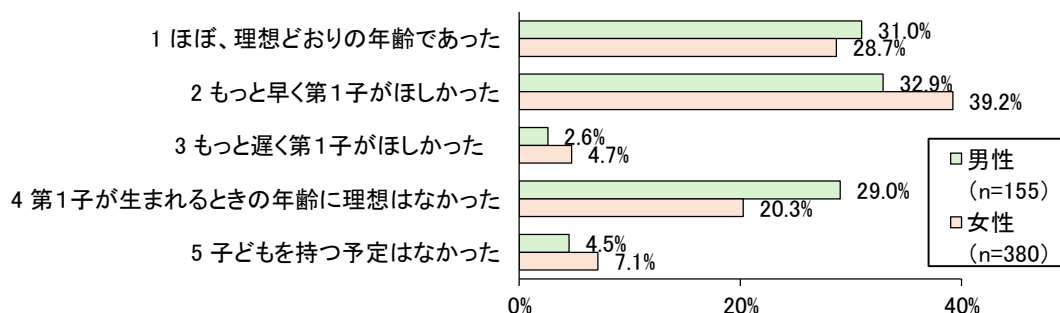
性別では、男性は「もっと早く第1子がほしかった」の割合(32.9%)と「ほぼ、理想どおりの年齢であった」(31.0%)がほぼ同程度となっています。女性は「もっと早く第1子がほしかった」の割合(39.2%)が「ほぼ、理想どおりの年齢であった」(28.7%)を10.5%上回っています。

年代別では、20歳代は「ほぼ、理想どおりの年齢であった」の割合が54.5%で全体(29.3%)を25.2ポイント上回っています。30歳代と40歳代は全体とほぼ同じ結果となっています。(※但し、20歳代の母数は少ない。)

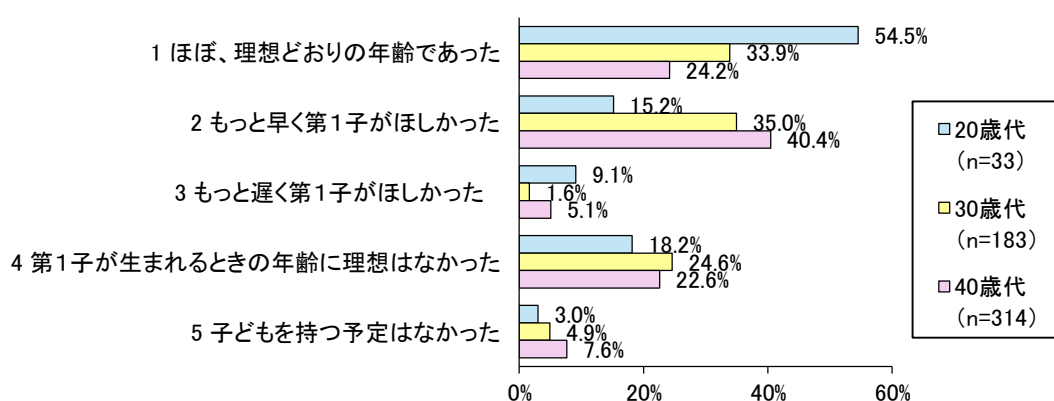
<全体>



<性別>



<年代別>



問26 結婚してから第1子が生まれるまでの期間には、どのようなことが影響したと考えられますか。

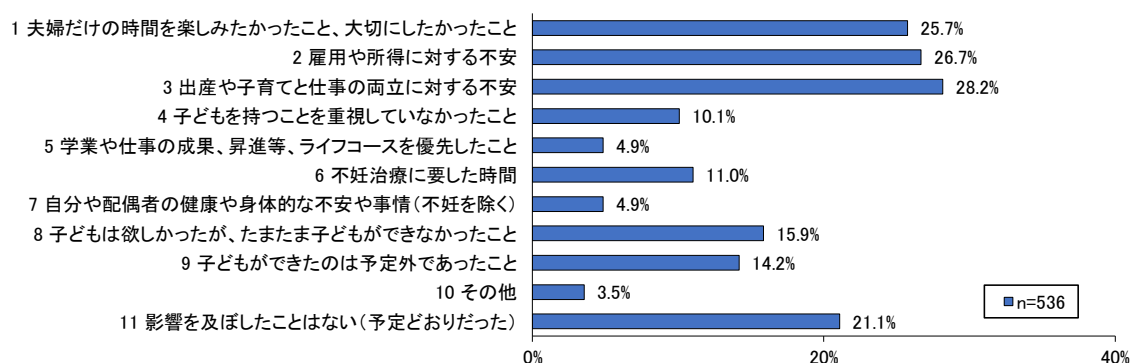
次の項目の中から3つまで選んで○をつけてください。

全体では、上位の3項目は「出産や子育てと仕事の両立に対する不安」の割合(28.2%)が最も高く、次いで「雇用や所得に対する不安」(26.7%)、「夫婦だけの時間を楽しみたかったこと、大切にしたいかったこと」(25.7%)となっています。なお、「影響を及ぼしたことはない(予定どおりだった)」は21.1%となっています。

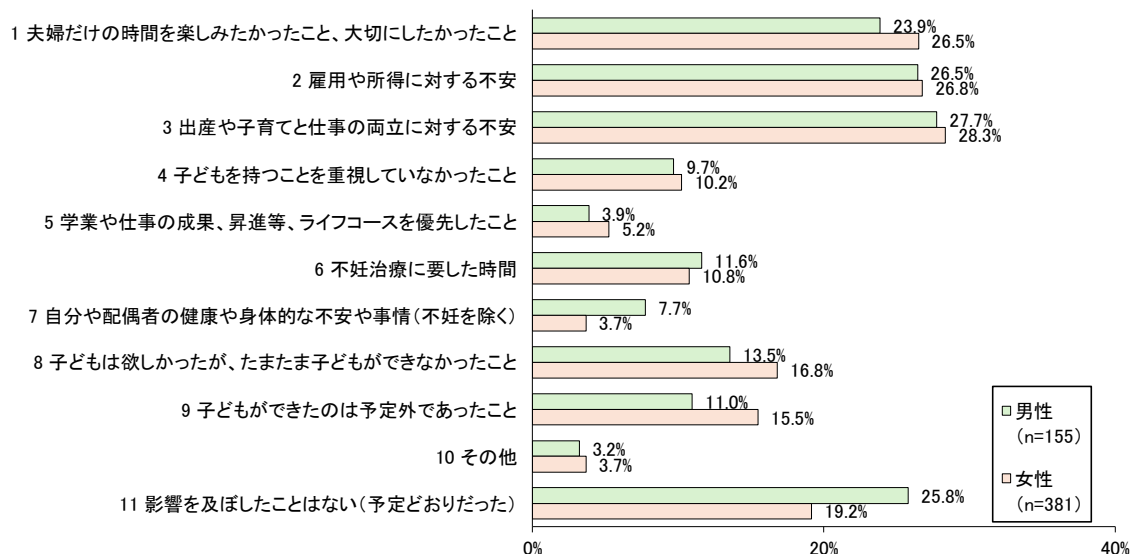
性別では、男女とも上位の項目の順位と割合は全体とほぼ同じ結果となっています。その中で、「影響を及ぼしたことはない(予定どおりだった)」の割合は男性が女性を6.6ポイント上回っています(男性:25.8%、女性:19.2%)。

年代別では、各年代とも上位の項目の順位と割合は全体とほぼ同じ結果となっています。その中で、「雇用や所得に対する不安」と「出産や子育てと仕事の両立に対する不安」の割合は年代が下がるが高まっています。

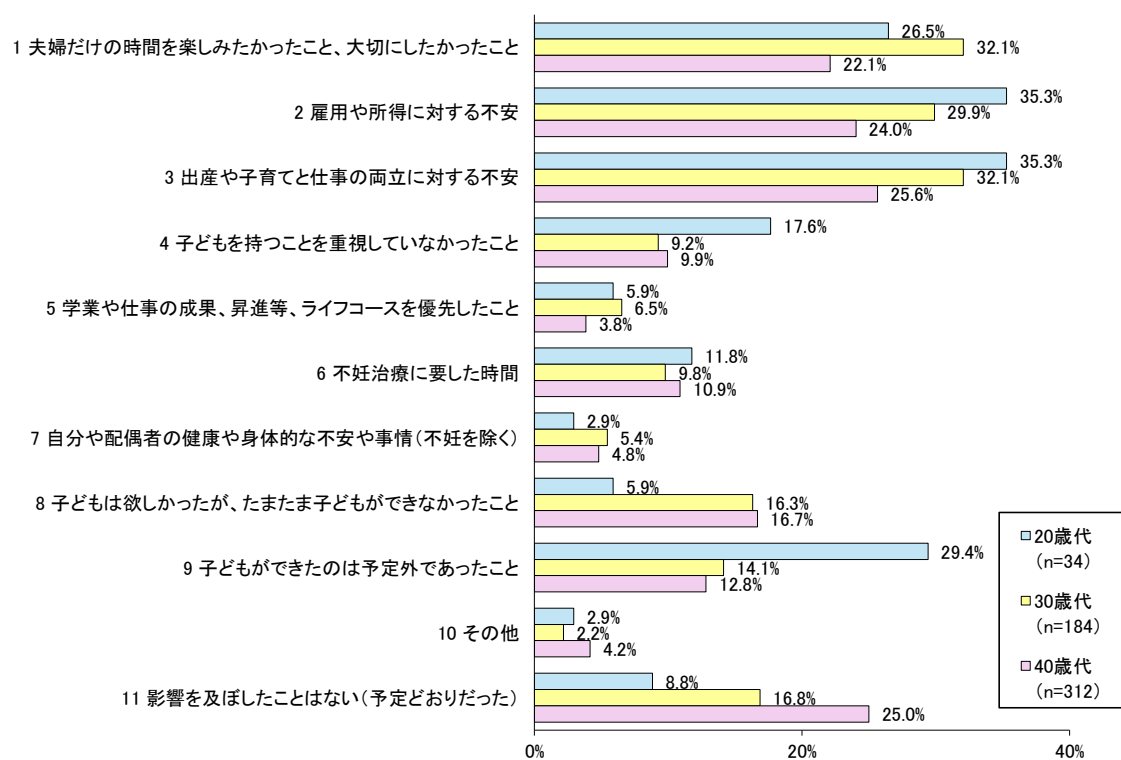
<全体>



<性別>



<年代別>



問27 あなたは、子育ての際に生じた不安や悩みを誰に相談していますか(相談していましたか)。

次の項目から3つまで選んで○をつけてください。

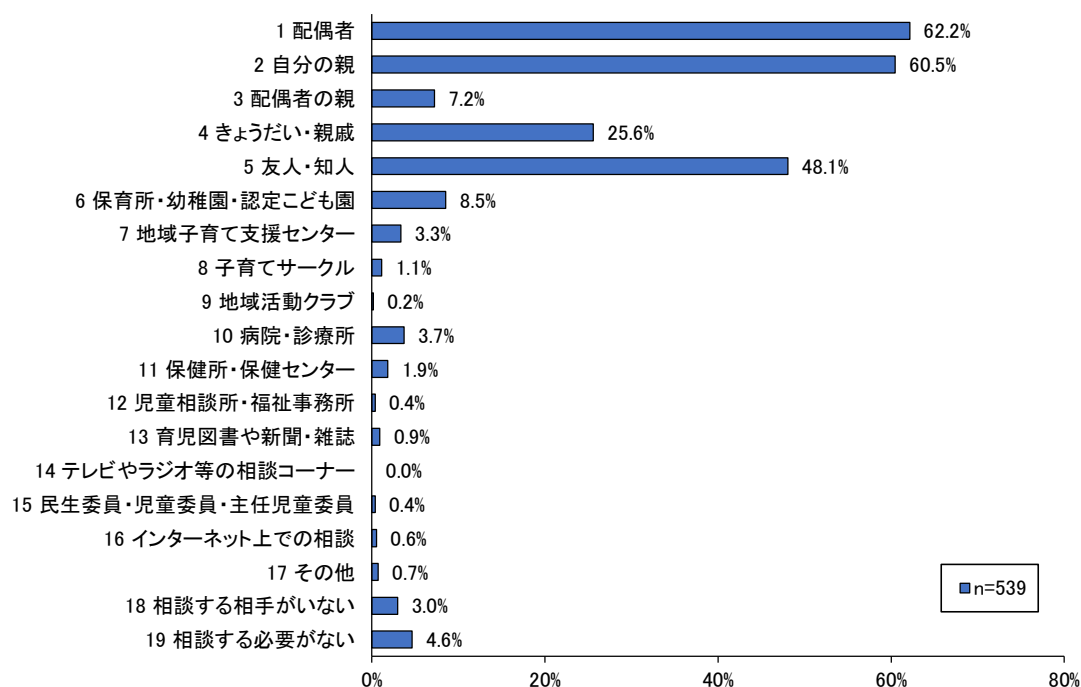
全体では、上位の3項目は「配偶者」の割合(62.2%)が最も高く、次いで「自分の親」(60.5%)、「友人・知人」(48.1%)となっています。なお、「地域子育て支援センター」「保健所・保健センター」「児童相談所・福祉事務所」「民生委員・児童委員・主任児童委員」など公的機関の割合は低い状況となっています。

性別では、男女とも上位の項目の順位は全体とほぼ同じとなっています。その中で、女性が男性を上回っている項目は、「自分の親」(女性:65.3%、男性:48.7%…16.6ポイント差)、「友人・知人」(女性:52.5%、男性:37.2%…15.3ポイント差)、「きょうだい・親戚」(女性:30.0%、男性:14.7%…15.3ポイント差)となっています。なお、男性は「相談する必要がある」の割合(男性:13.5%、女性:1.0%)が女性を12.5ポイント上回っています。

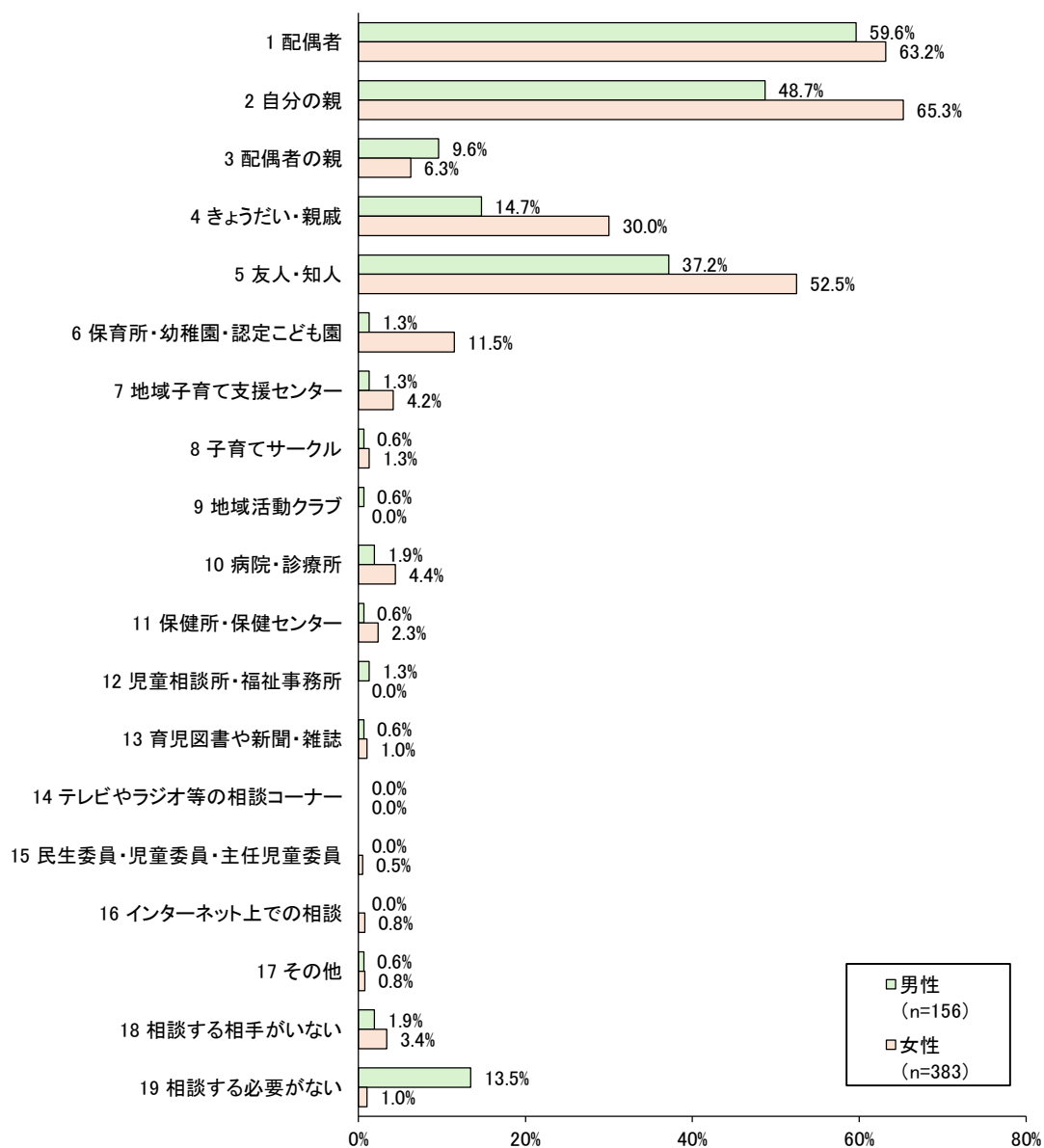
年代別では、各年代とも上位の項目の順位と割合は全体とほぼ同じ結果となっています。

過去調査との比較では、上位の項目の順位はほぼ同じ結果となっています。その中で、「配偶者」(平成26年度:72.5%→令和元年度:72.3%→令和6年度:62.2%)、「自分の親」(平成26年度:64.3%→令和元年度:64.7%→令和6年度:60.5%)、「友人・知人」(平成26年度:58.9%→令和元年度:50.7%→令和6年度:48.1%)の割合は低下する傾向で推移しています。

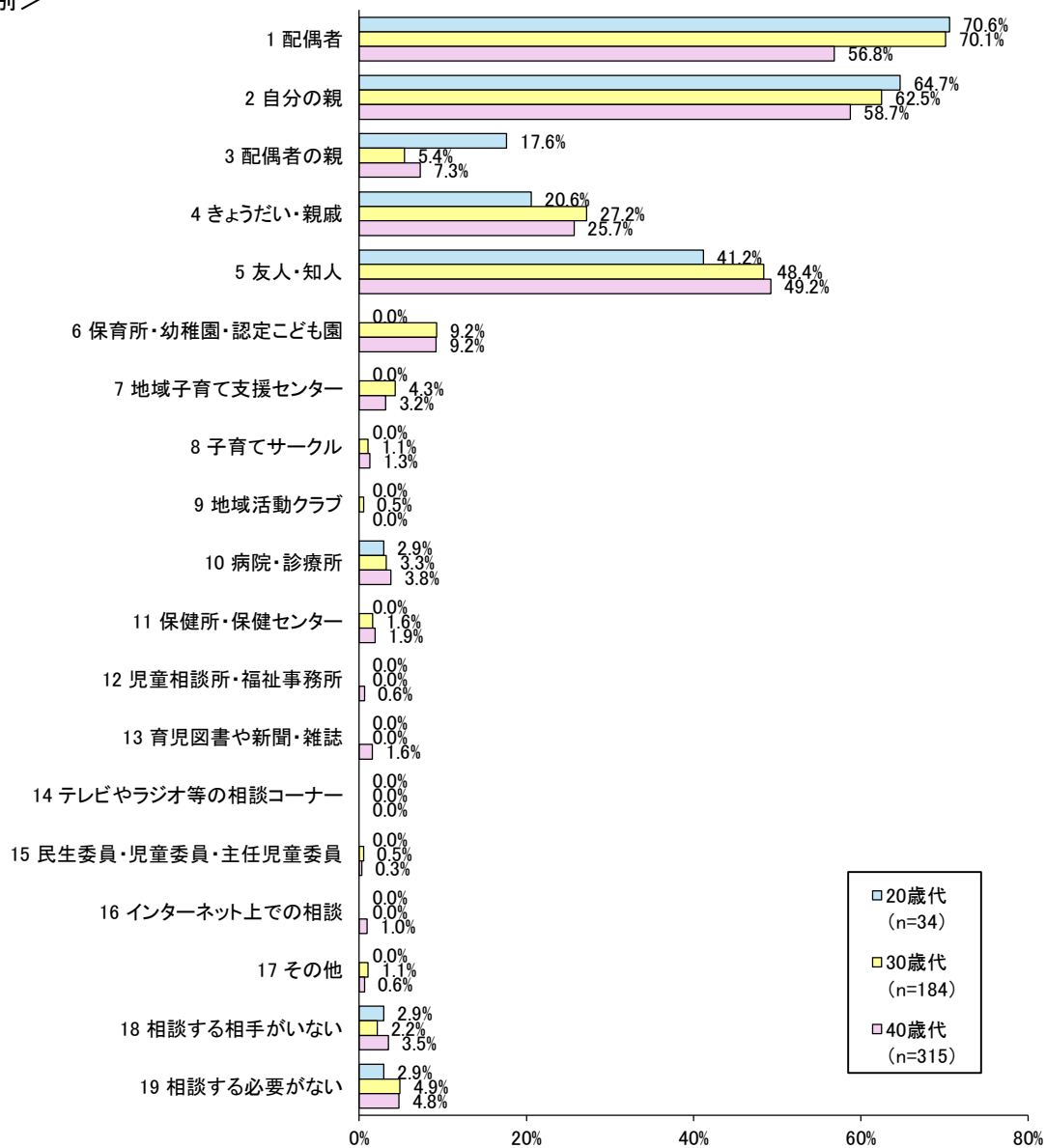
<全体>



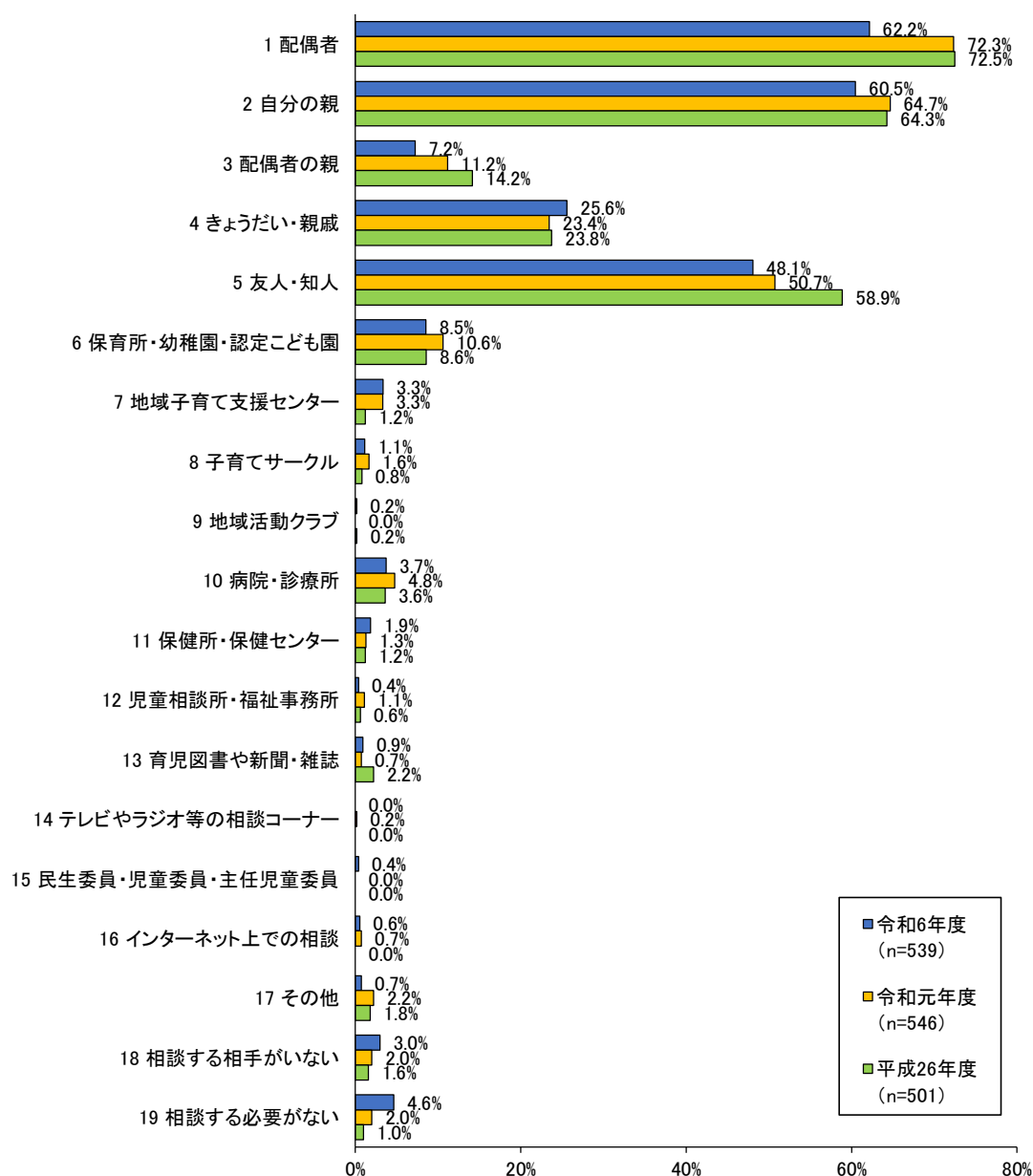
<性別>



<年代別>



<過去調査との比較>



問28 子どもとの外出の際、困ることや困ったことはありますか。

次の項目から3つまで選んで○をつけてください。

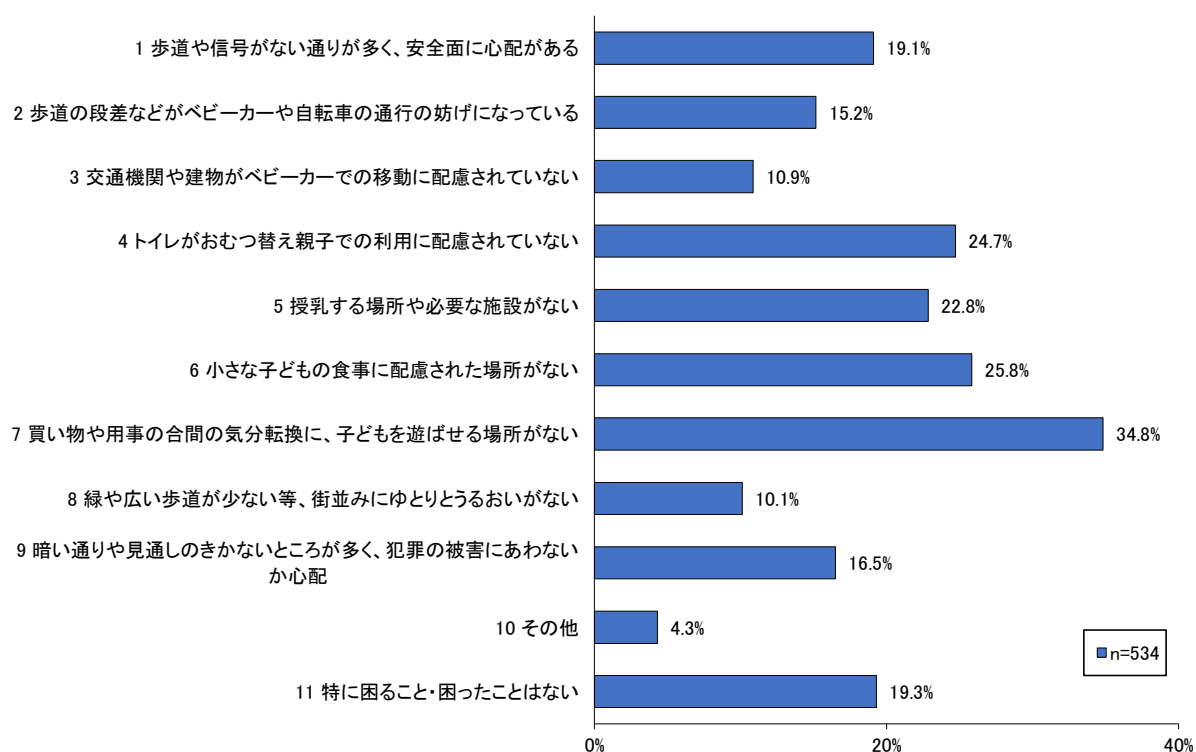
全体では、上位の3項目は「買い物や用事の合間の気分転換に、子どもを遊ばせる場所がない」の割合(34.8%)が最も高く、次いで「小さな子どもの食事に配慮された場所がない」(25.8%)、「トイレがおむつ替え親子での利用に配慮されていない」(24.7%)となっています。なお、「特に困ること・困ったことはない」は19.3%となっています。

性別では、男女とも上位の項目の順位と割合は全体とほぼ同じ結果となっています。その中で、「授乳する場所や必要な施設がない」の割合は女性が男性を14.8ポイント上回っています(男性:12.3%、女性:27.1%)。

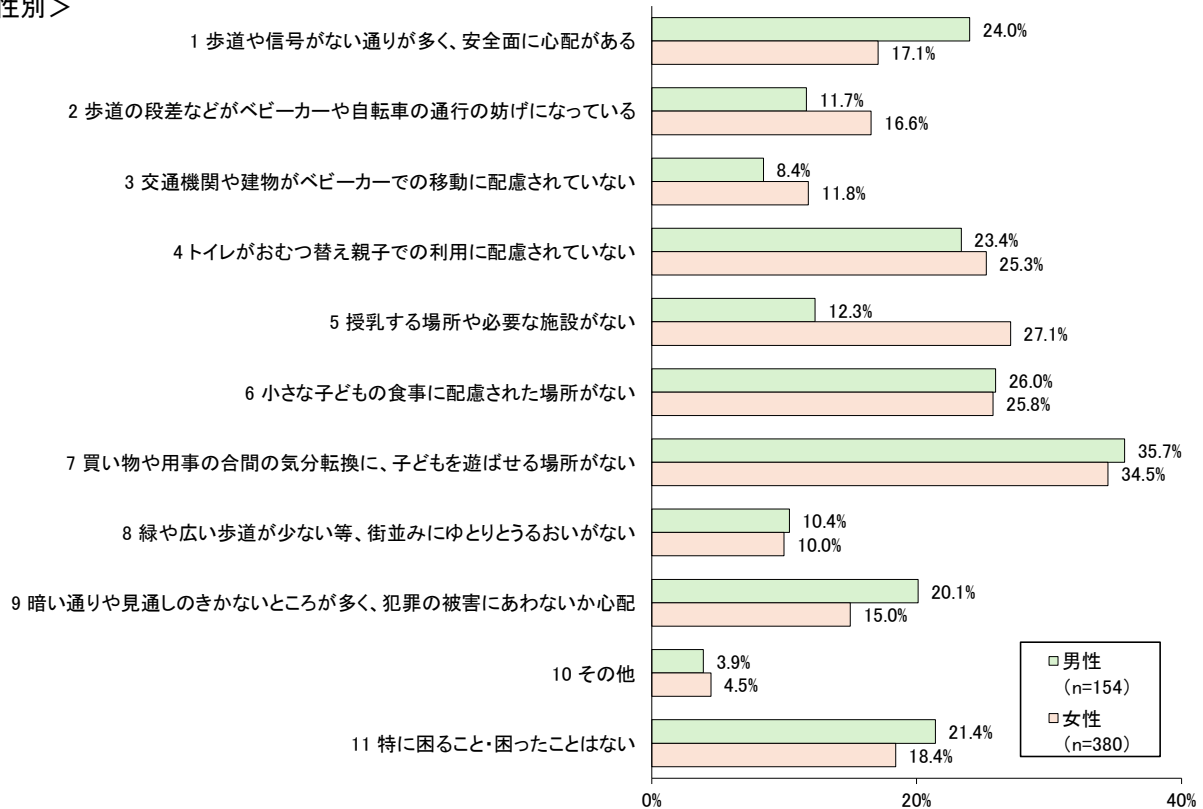
年代別では、各年代とも上位の項目の順位と割合は全体とほぼ同じ結果となっています。

過去調査との比較では、上位の項目の順位はほぼ同じ結果となっています。その中で、「小さな子どもの食事に配慮された場所がない」(平成26年度:30.3%→令和元年度:30.6%→令和6年度:25.8%)と「トイレがおむつ替え親子での利用に配慮されていない」(平成26年度:28.5%→令和元年度:26.0%→令和6年度:24.7%)の割合は低下する傾向で推移しています。

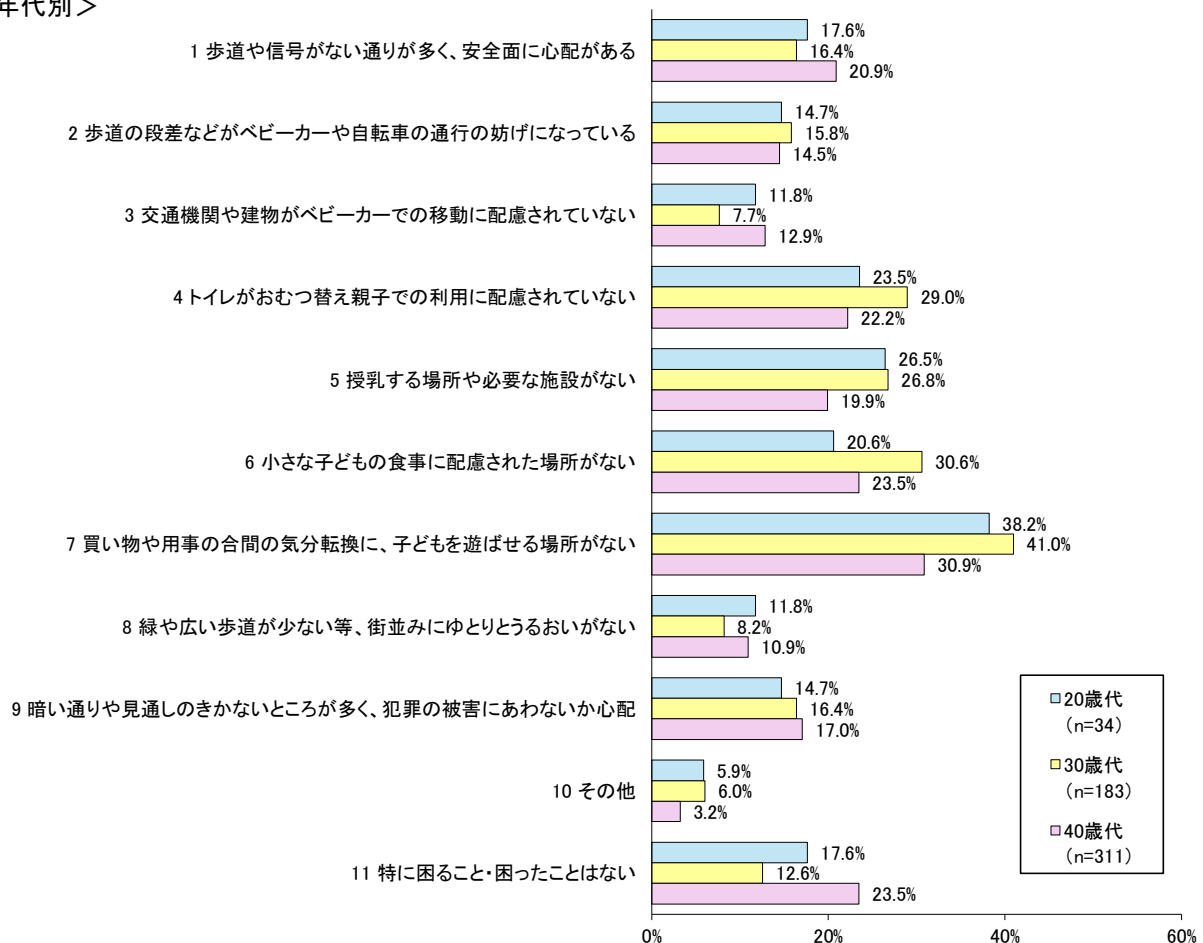
<全体>



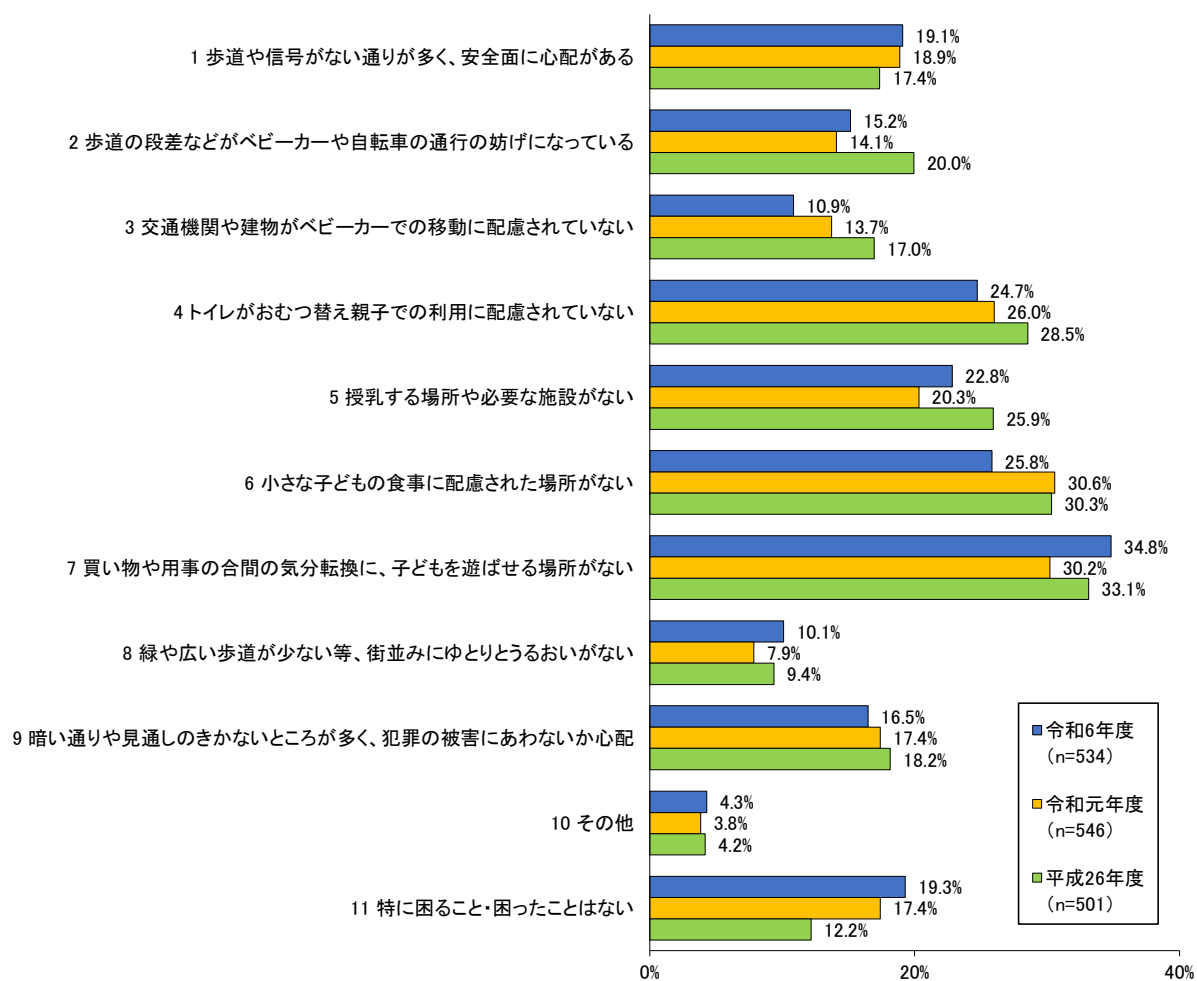
<性別>



<年代別>



＜過去調査との比較＞



問29 あなたが急な用事等の場合に、子どもを預ける(預けた)ところはどこですか。

次の項目の中からあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。

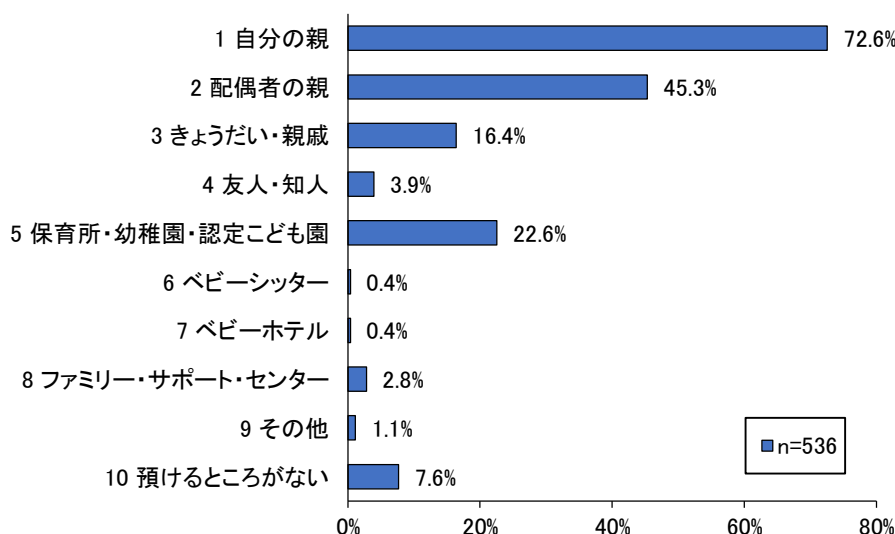
全体では、「自分の親」の割合(72.6%)が最も高く、次が「配偶者の親」(45.3%)となっています。

性別では、男女とも上位の項目の順位は全体とほぼ同じとなっています。その中で「配偶者の親」の割合は男性が女性を19.3ポイント上回っています(男性:59.0%、女性:39.7%)。

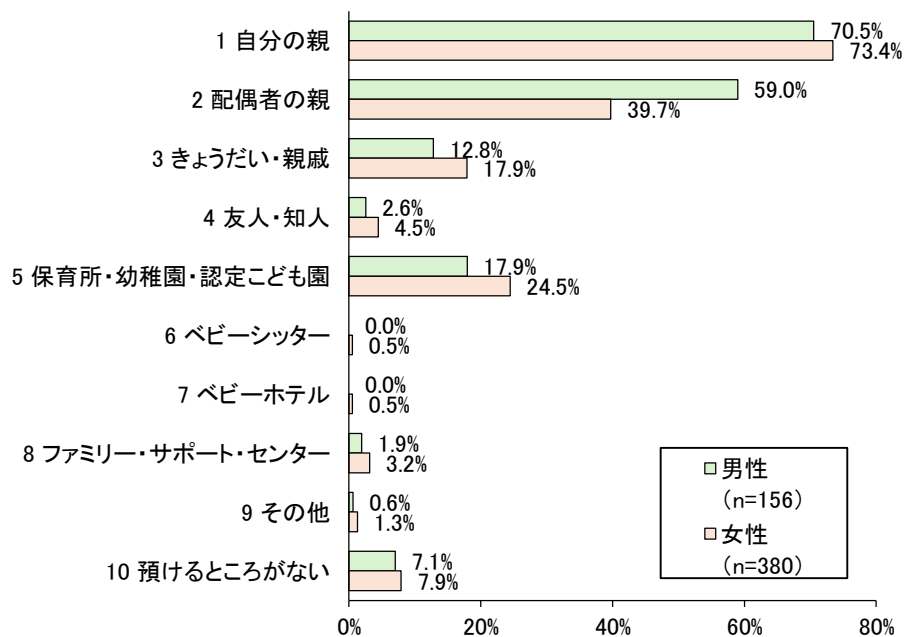
年代別では、各年代とも上位の項目の順位と割合は全体とほぼ同じ結果となっています。

過去調査との比較では、上位の項目の順位はほぼ同じ結果となっています。その中で、「配偶者の親」の割合は低下する傾向で推移しています(平成26年度:49.7%→令和元年度:43.0%→令和6年度:45.3%)。

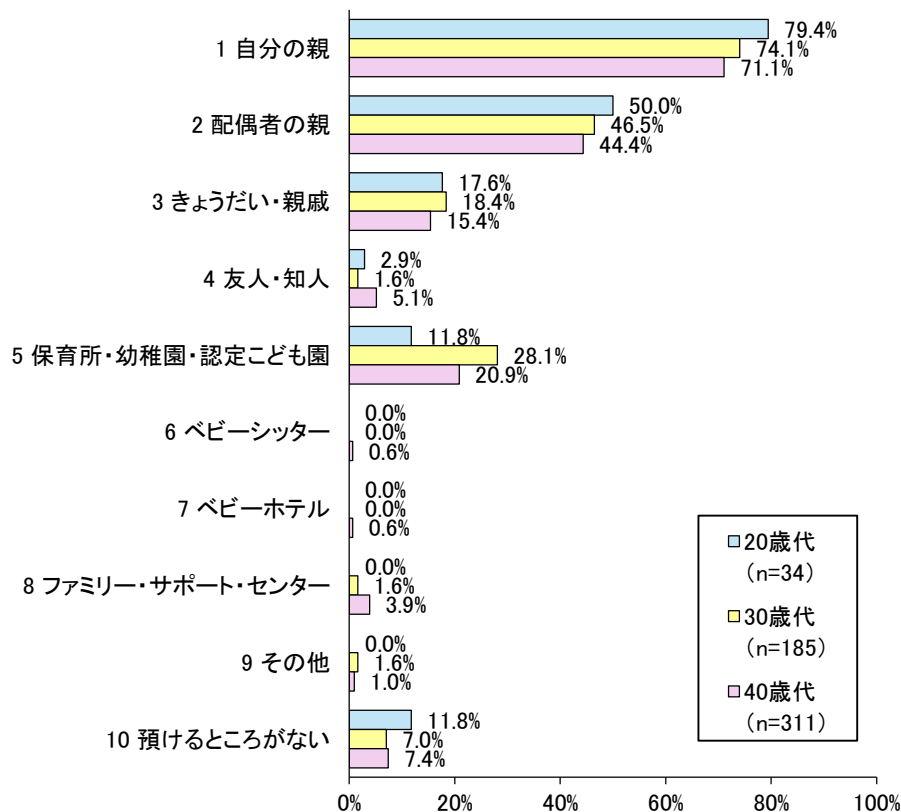
<全体>



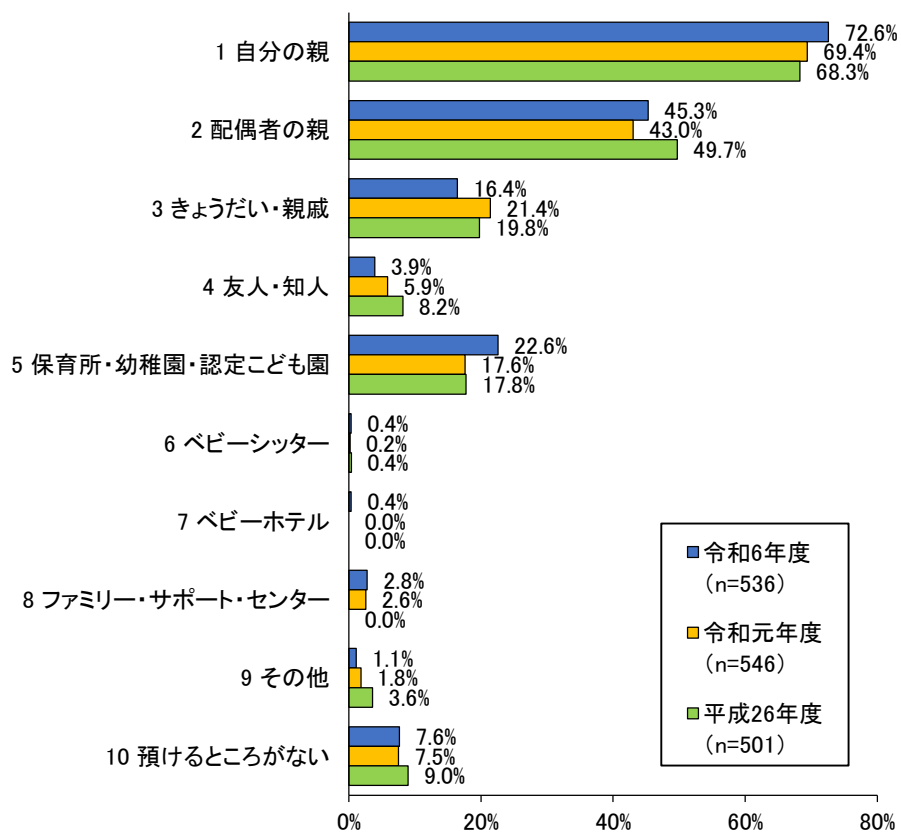
<性別>



<年代別>



<過去調査との比較>



7. 未婚の人の回答

問30 結婚について、あなたはどのような考えを持っていますか

次の項目の中から1つだけ選んで○をつけてください。

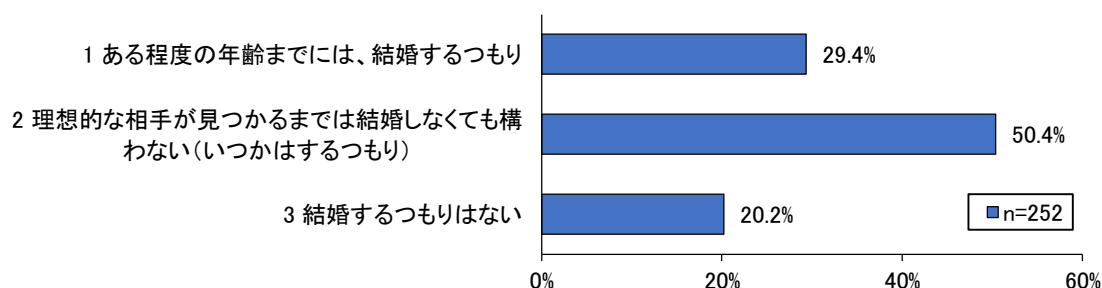
全体では、「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくても構わない(いつかはするつもり)」の割合(50.4%)が約半数となっています。「ある程度の年齢までには、結婚するつもり」(29.4%)は約3割、「結婚するつもりはない」(20.2%)は約2割となっています。

性別では、男女とも全体とほぼ同じ結果となっています。

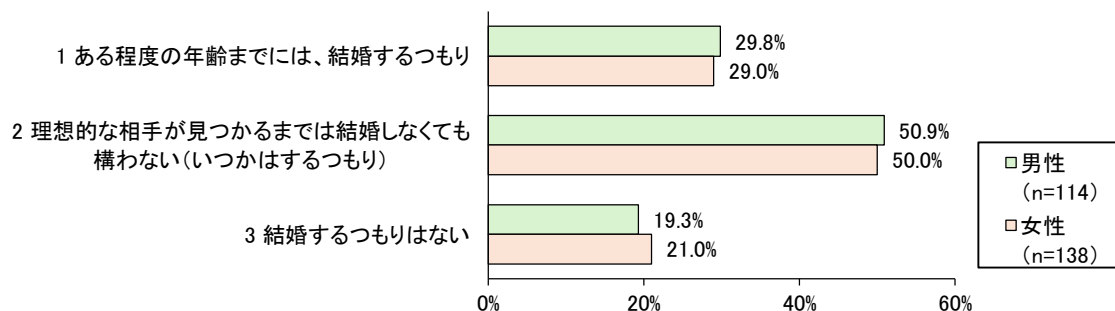
年代別では、各年代とも「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくても構わない(いつかはするつもり)」の割合は全体とほぼ同じとなっています。その中で40歳代は「結婚するつもりはない」の割合が52.5%となっています。(※但し、母数は61人)

過去調査との比較では、「ある程度の年齢までには、結婚するつもり」の割合は低下する傾向で推移しています(平成26年度:47.8%→令和元年度:44.9%→令和6年度:29.4%)。一方、「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくても構わない(いつかはするつもり)」(平成26年度:40.1%→令和元年度:38.1%→令和6年度:50.4%)と「結婚するつもりはない」(平成26年度:12.1%→令和元年度:16.9%→令和6年度:20.2%)の割合は高まる傾向で推移しています。

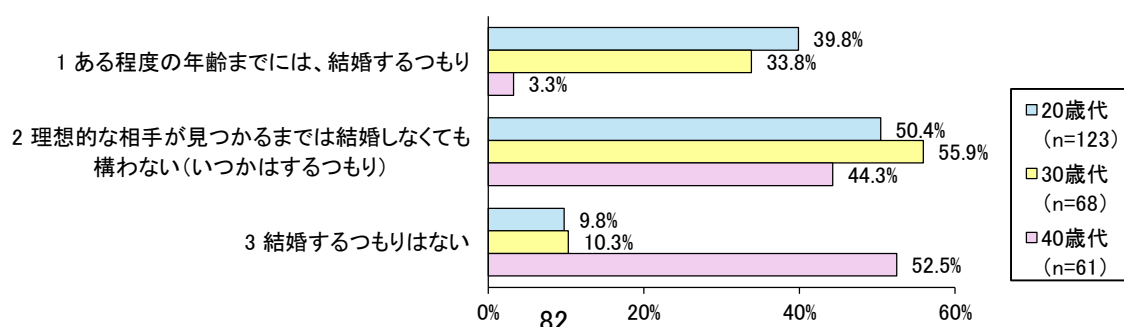
<全体>



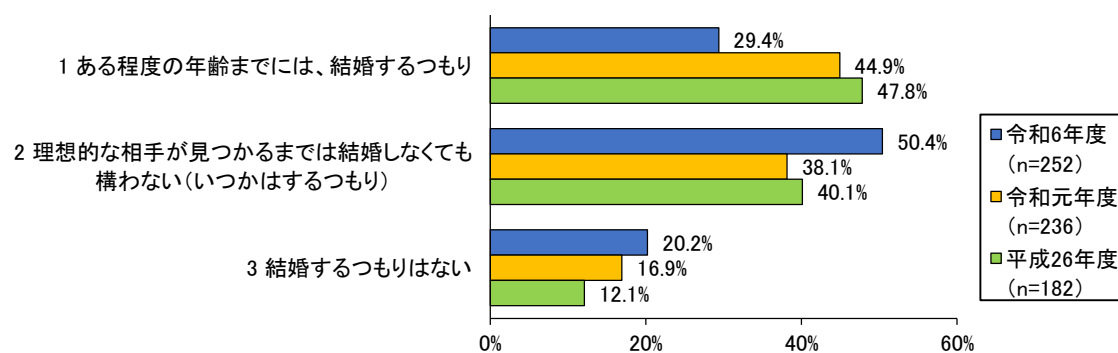
<性別>



<年代別>



<過去調査との比較>



問31 問30で選択肢「1 ある程度の年齢までには、結婚するつもり」又は「2 理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくても構わない(いつかはするつもり)」を選ばれた方にお伺いします。

ご自身の結婚について、理想と思う年齢がありますか。

次のいずれかに○をつけ、理想の年齢を記載してください。

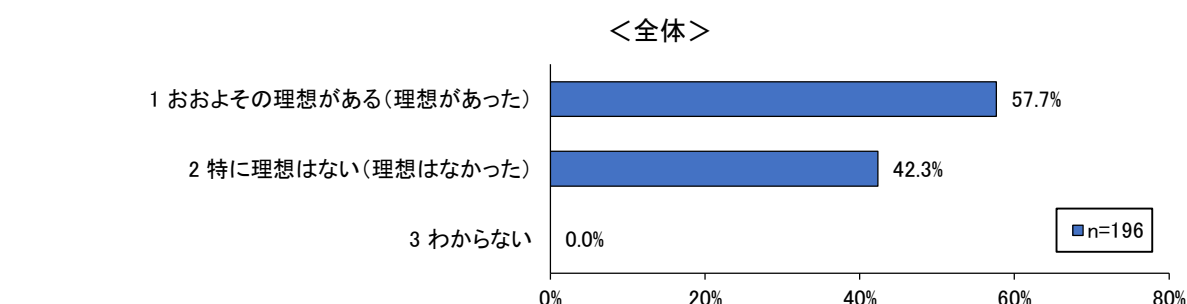
理想と思う年齢を過ぎた方は理想であった年齢を記載してください。

全体では、「おおよその理想がある(理想があった)」の割合(57.7%)が「特に理想はない(理想はなかった)」(42.3%)を15.4%上回っています。また、おおよその理想がある(理想があった)中で、理想の年齢は「30～31歳頃」の割合(32.1%)が最も高くなっています。

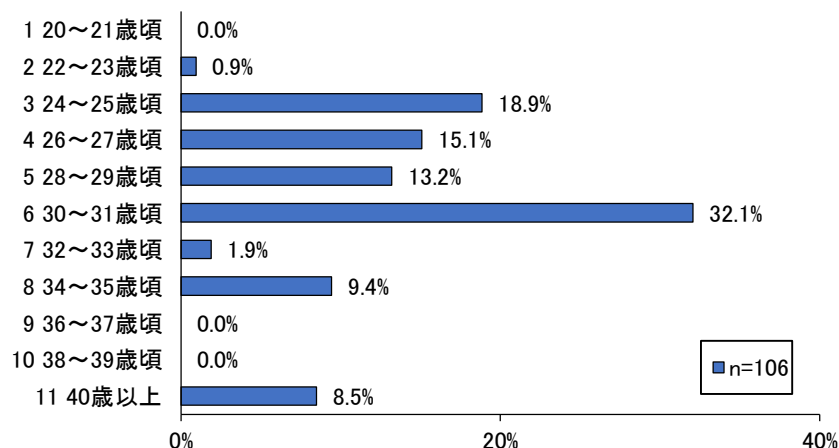
性別では、男性は「おおよその理想がある(理想があった)」の割合(51.6%)と「特に理想はない(理想はなかった)」の割合(48.4%)がほぼ同じとなっています。女性は「おおよその理想がある(理想があった)」の(62.9%)が「特に理想はない(理想はなかった)」(37.1%)を25.8%上回っています。また、おおよその理想がある(理想があった)中で、理想の年齢は男女とも「30～31歳頃」の割合(男性:43.5%、女性:23.3%)が最も高くなっています。

年代別では、20歳代は「おおよその理想がある(理想があった)」の割合(64.0%)が「特に理想はない(理想はなかった)」(32.4%)を31.6%上回っています。30歳代と40歳代は「おおよその理想がある(理想があった)」の割合(30歳代:47.5%、40歳代:44.8%)が「特に理想はない(理想はなかった)」(30歳代:52.5%、40歳代:51.7%)を下回っています。また、おおよその理想がある(理想があった)中で、理想の年齢は各年代とも「30～31歳頃」の割合が最も高くなっています。

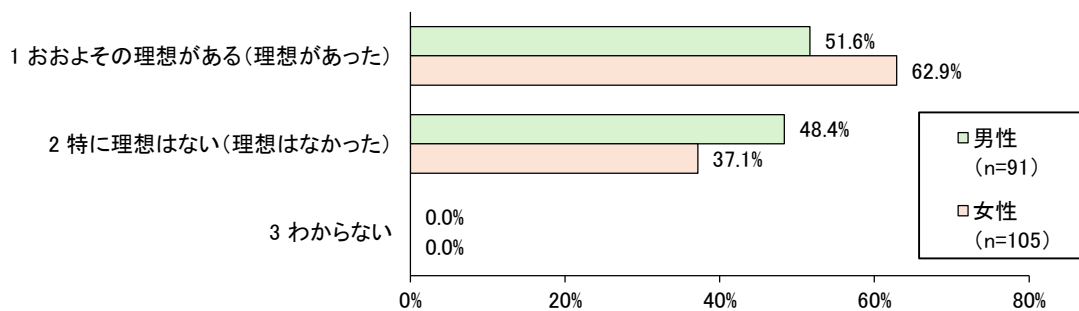
過去調査との比較では、「おおよその理想がある(理想があった)」の割合が低下する傾向で推移しています(平成26年度:76.7%→令和元年度:74.9%→令和6年度:57.7%)。一方、「特に理想はない(理想はなかった)」は高まる傾向で推移しています(平成26年度:18.9%→令和元年度:15.9%→令和6年度:42.3%)。また、おおよその理想がある(理想があった)中で、理想の年齢は「32歳以上」の割合は低下する傾向で推移しています。



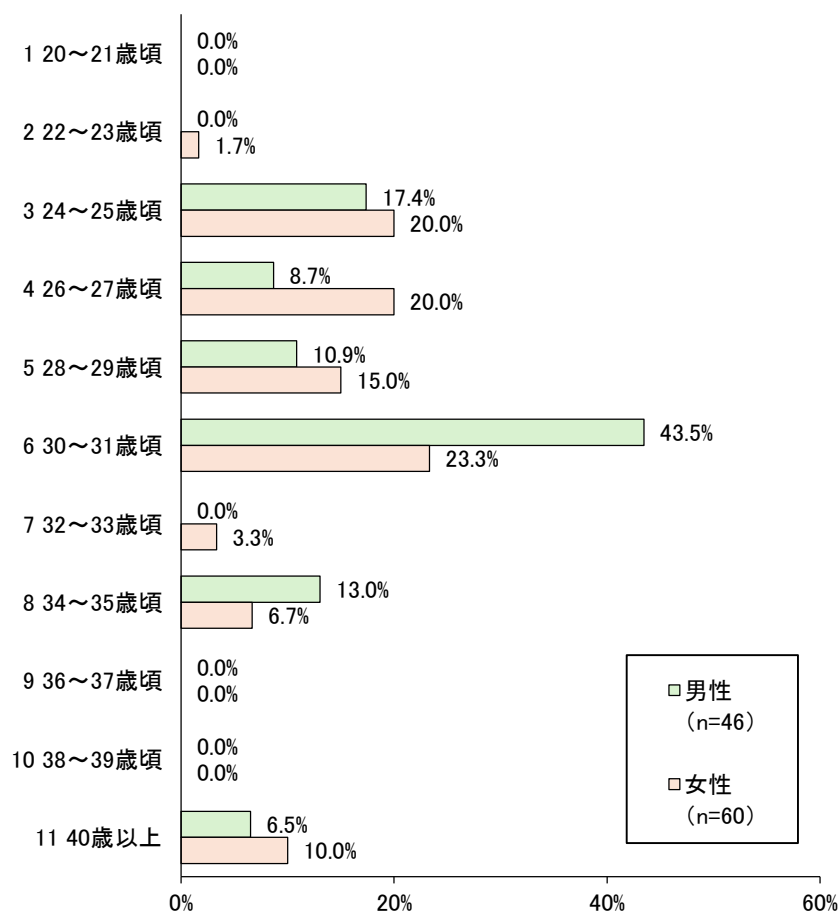
・理想の年齢



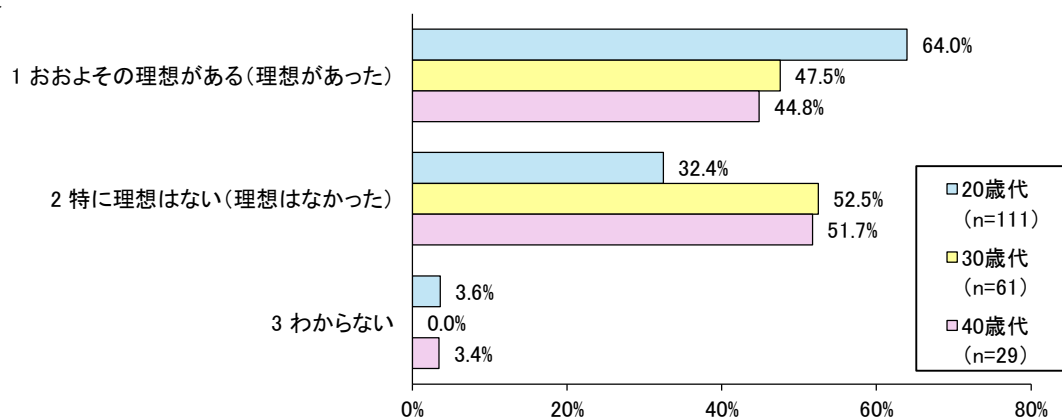
<性別>



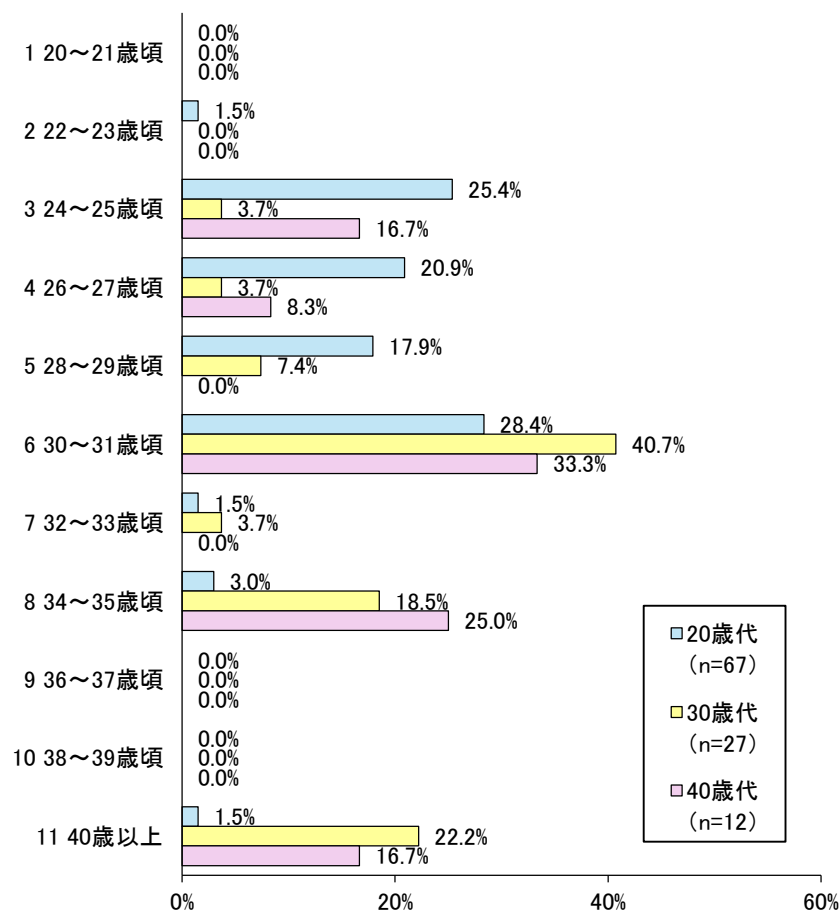
・理想の年齢



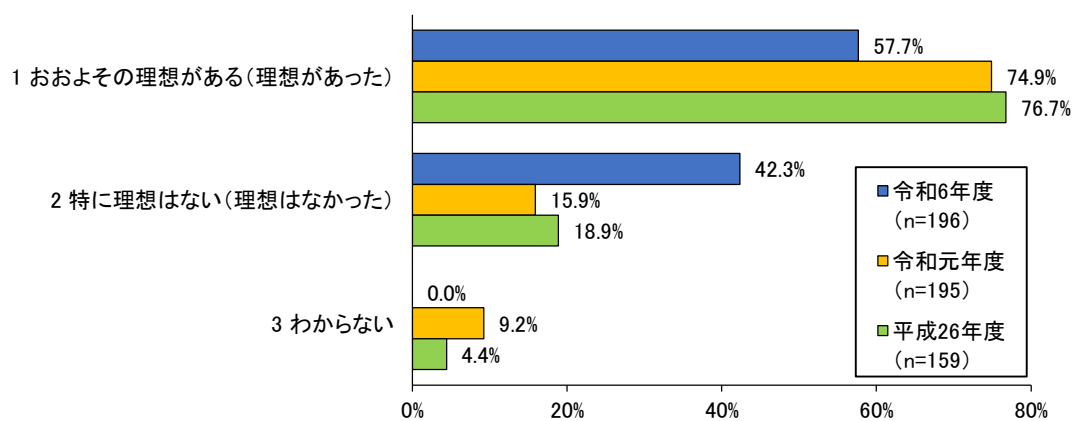
<年代別>



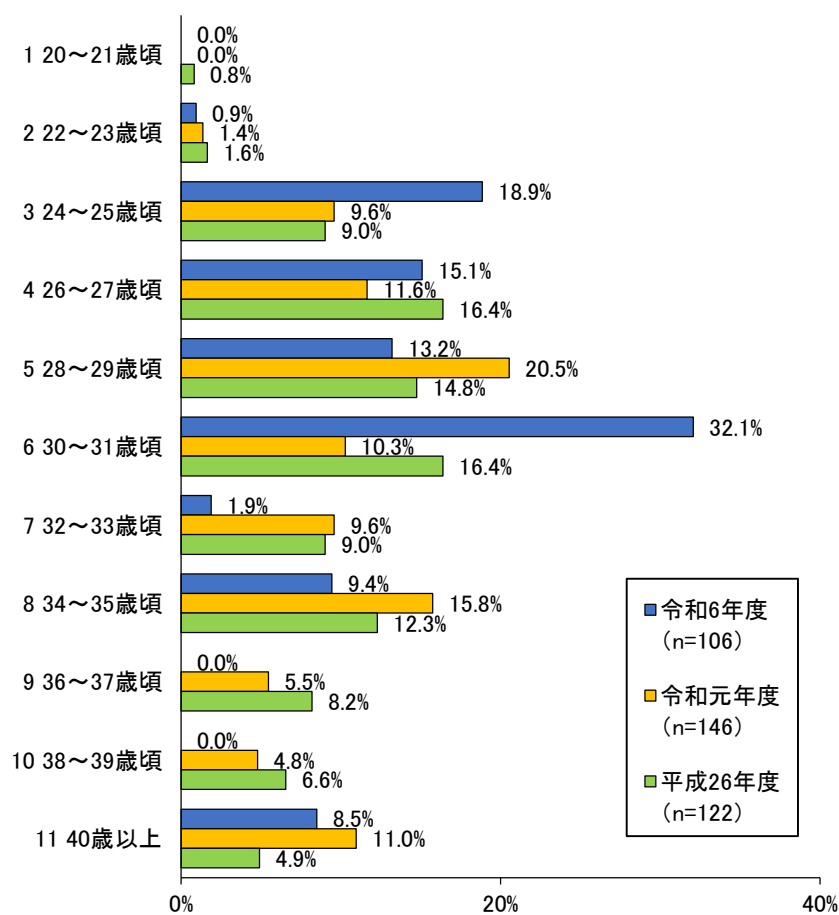
・理想の年齢



<過去調査との比較>



・理想の年齢



問32 ご自身の現時点における結婚の見通しをご回答ください。

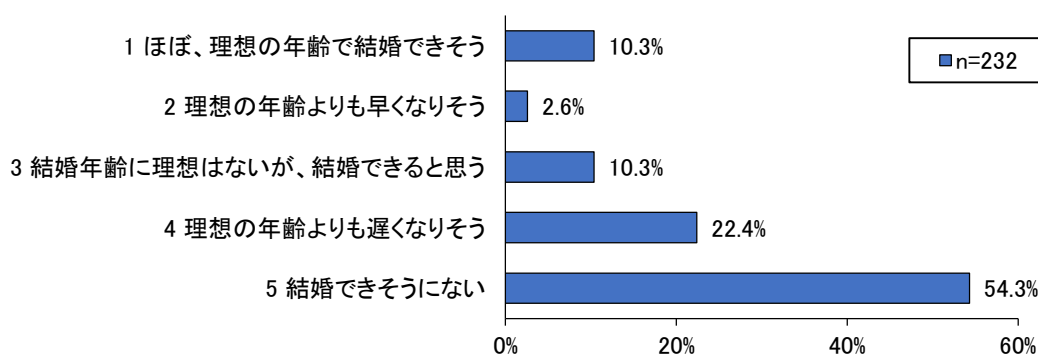
次の項目の中から1つだけ選んで○をつけてください。

全体では、『結婚できそう』（「ほぼ、理想の年齢で結婚できそう」と「理想の年齢よりも早くなりそう」と「結婚年齢に理想はないが、結婚できると思う」と「理想の年齢よりも遅くなりそう」の計：以下同じ）の割合は45.6%で、「結婚できそうにない」（54.3%）を8.7%下回っています。

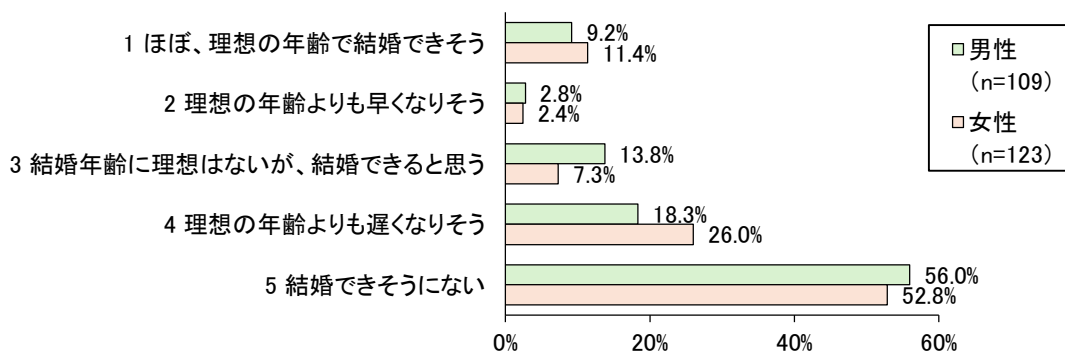
性別では、『結婚できそう』の割合は女性が男性を3.2ポイント上回っています（女性：47.2%、男性：44.0%）。

年代別では、『結婚できそう』の割合は年代が上がるると低くなっています（20歳代：59.0%、30歳代：38.2%、40歳代：23.4%）。

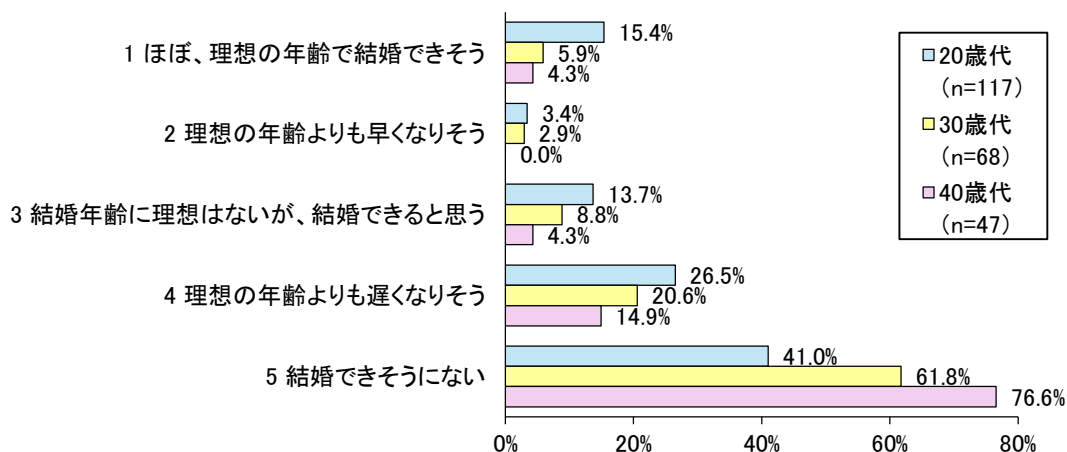
<全体>



<性別>



<年代別>



問33 問30で選択肢「3 結婚するつもりはない」又は問32で選択肢「4 理想の年齢よりも遅くなりそう」「5 結婚できそうにない」を選ばれた方にお伺いします。

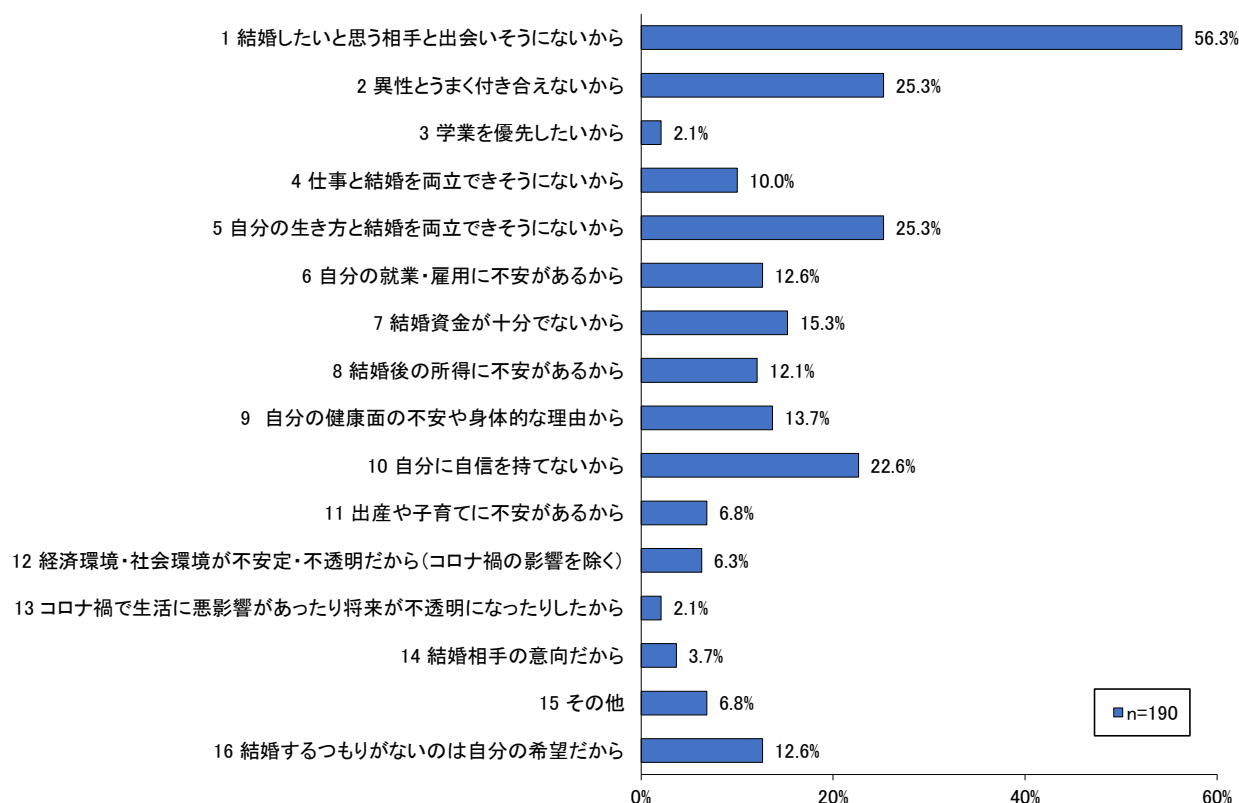
そう思った理由について次の項目の中から3つまで選んで○をつけてください。

全体では、上位の3目は「結婚したいと思う相手と出会いそうにないから」の割合(56.3%)が最も高く、次が「異性とうまく付き合えないから」と「自分の生き方と結婚を両立できそうにないから」(各25.3%)となっています。

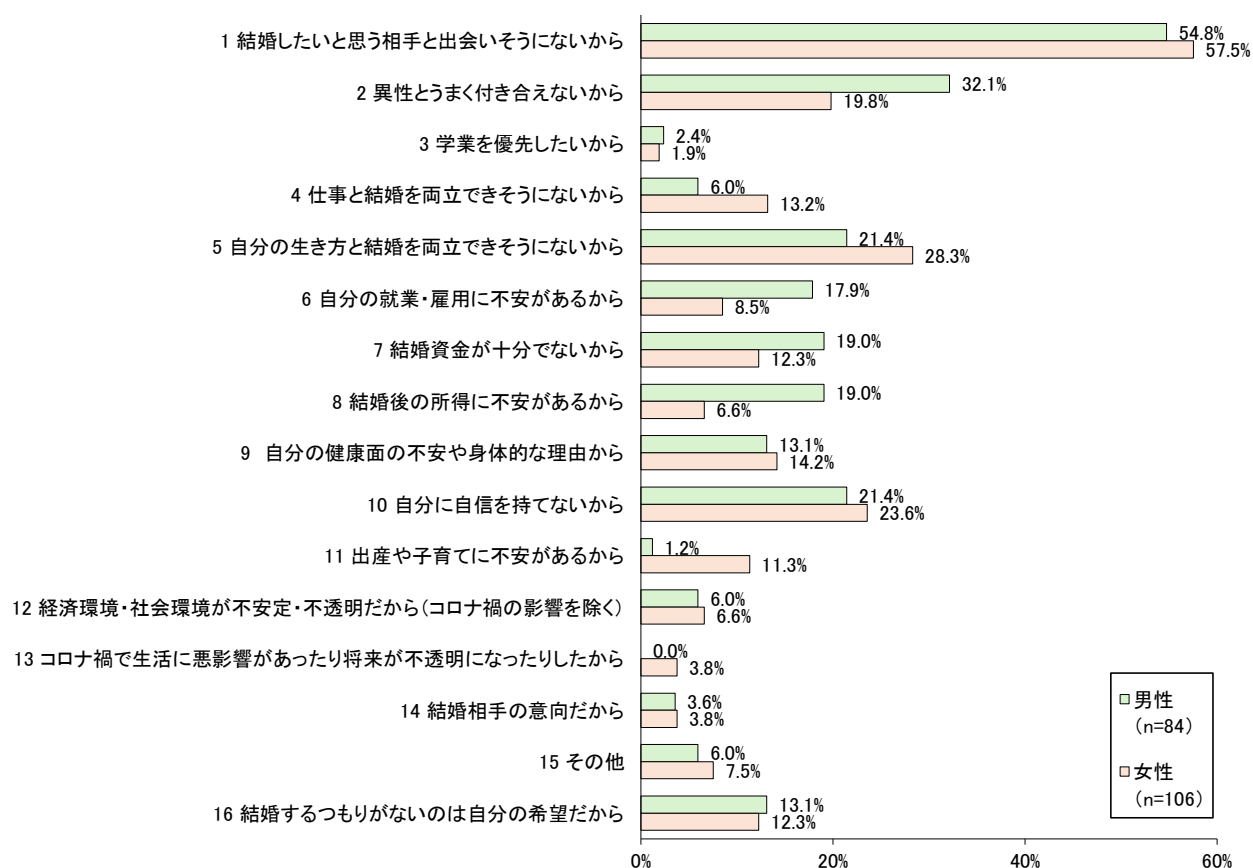
性別では、男女とも「結婚したいと思う相手と出会いそうにないから」の割合(男性:54.8%、女性:57.5%)が最も高くなっています。次に割合が高い項目は、男性が「異性とうまく付き合えないから」(男性:32.1%、女性:19.8%)で男性が女性を12.3ポイント上回っており、女性が「自分の生き方と結婚を両立できそうにないから」(男性:21.4%、女性:28.3%)で女性が男性を6.9ポイント上回っています。

年代別では、各年代とも上位の項目の順位と割合は全体とほぼ同じ結果となっています。

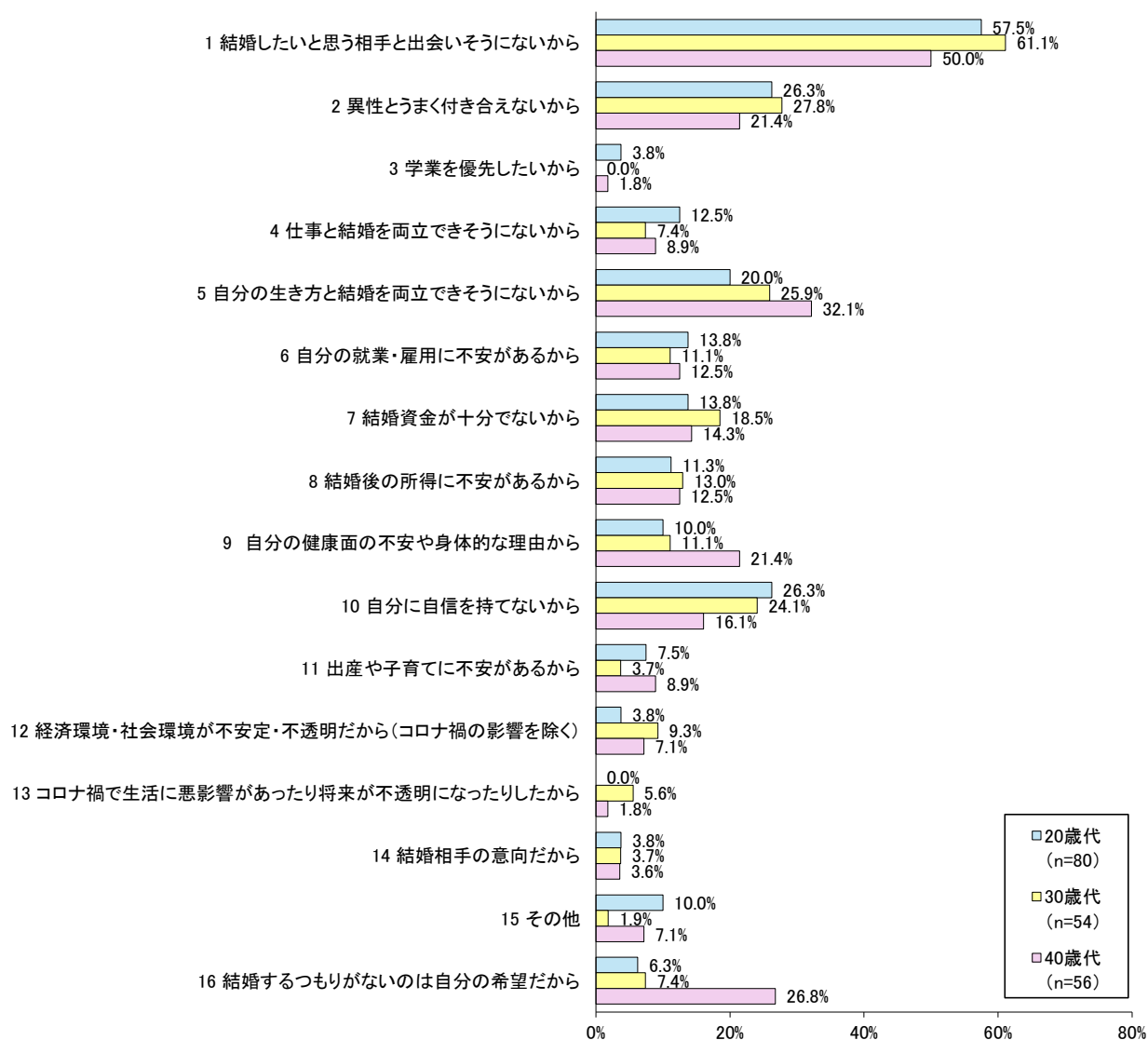
<全体>



<性別>



<年代別>



問34 現在、交際している異性の方はいますか。

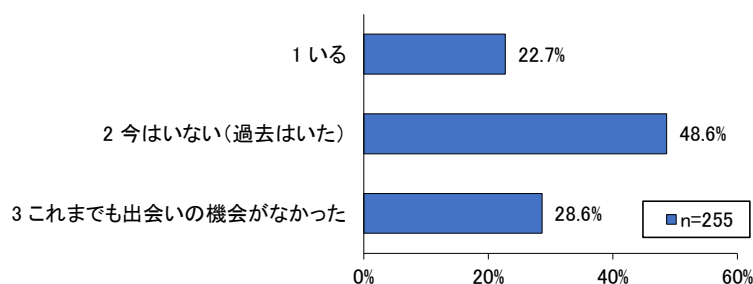
次の項目の中から1つだけ選んで○をつけてください。

全体では、「いる」の割合が22.7%で、「今はいない(過去はいた)」(48.6%)を合わせると71.3%となっています。なお、「これまでも出会いの機会がなかった」は28.6%となっています。

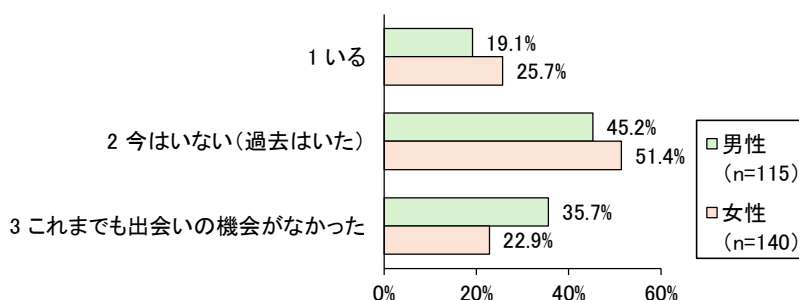
性別では、「いる」の割合が男性は19.1%、女性は25.7%となっています。なお、「これまでも出会いの機会がなかった」は男性が35.7%で女性(22.9%)を12.8ポイント上回っています。

年代別では、若い年代では「いる」の割合が高くなっています(20歳代:30.6%、30歳代:20.3%、40歳代:9.7%)。なお、「これまでも出会いの機会がなかった」は各年代ともほぼ同じ割合となっています。

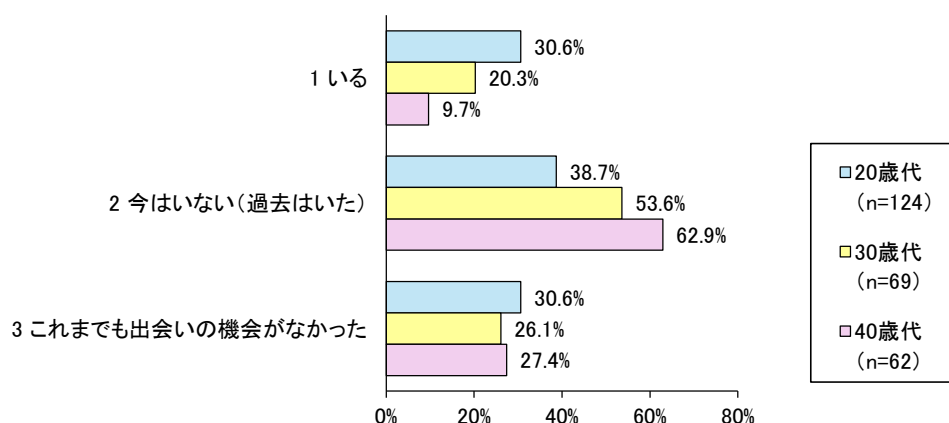
<全体>



<性別>



<年代別>



問35 問34で選択肢「2 今はいない(過去はいた)」又は「3 これまでも出会いの機会がなかった」を選ばれた方におうかがいします。

職場、学校、近所、友人関係など、あなたの周囲では、全般的に見て、交際や結婚につながるような異性との出会いはありますか。

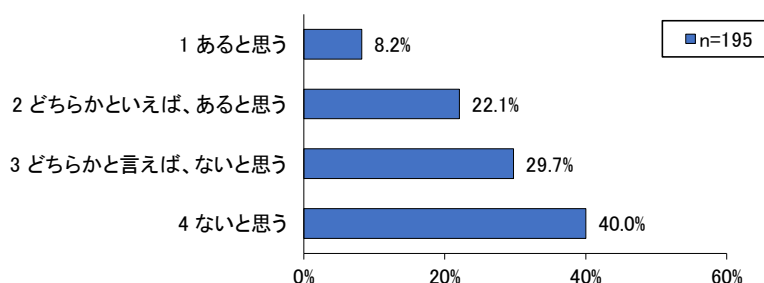
次の項目の中から1つだけ選んで○をつけてください。

全体では、『ある』(「あると思う」と「どちらかといえば、あると思う」の計:以下同じ)割合は30.3%で、『ない』(「どちらかといえば、ないと思う」と「ないと思う」の計:以下同じ)は69.7%となっています。

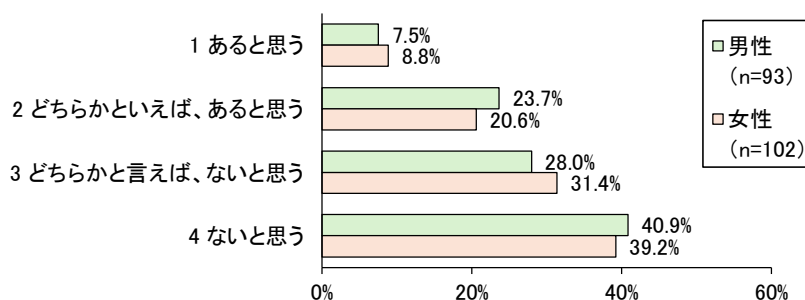
性別では、男女とも『ある』(男性:31.2%、女性:29.4%)と『ない』(男性:68.9%、女性:70.6%)の割合は全体とほぼ同じとなっています。

年代別では、『ある』の割合は年代が上がる则低くなっています(20歳代:33.7%、30歳代:31.5%、40歳代:23.6%)。

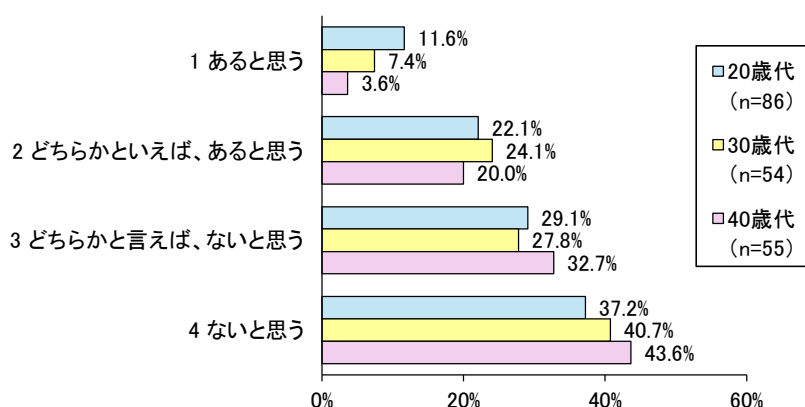
<全体>



<性別>



<年代別>



問36 問35で選択肢「3 どちらかと言えば、ないと思う」又は「4 ないと思う」を選ばれた方におうかがいします。

「ないと思う」のはどのような理由からでしょうか。

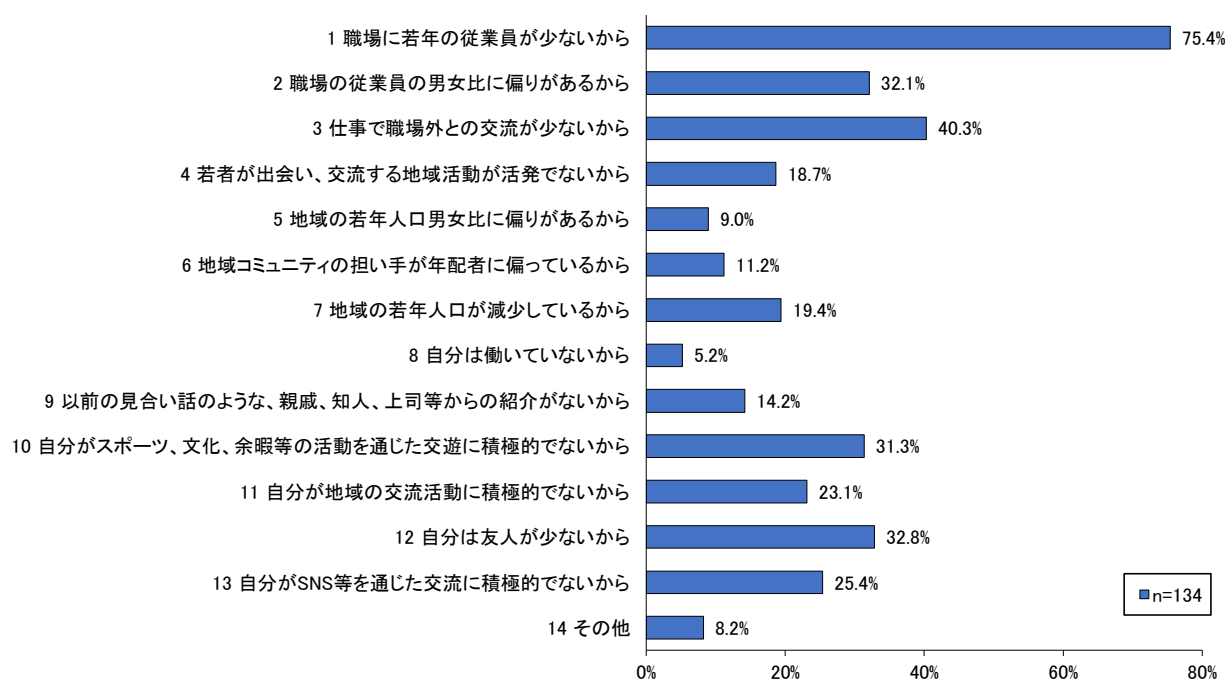
次の項目の中からあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。

全体では、「職場に若年の従業員が少ないから」の割合(75.4%)が約8割で、他の項目を大きく上回っています。

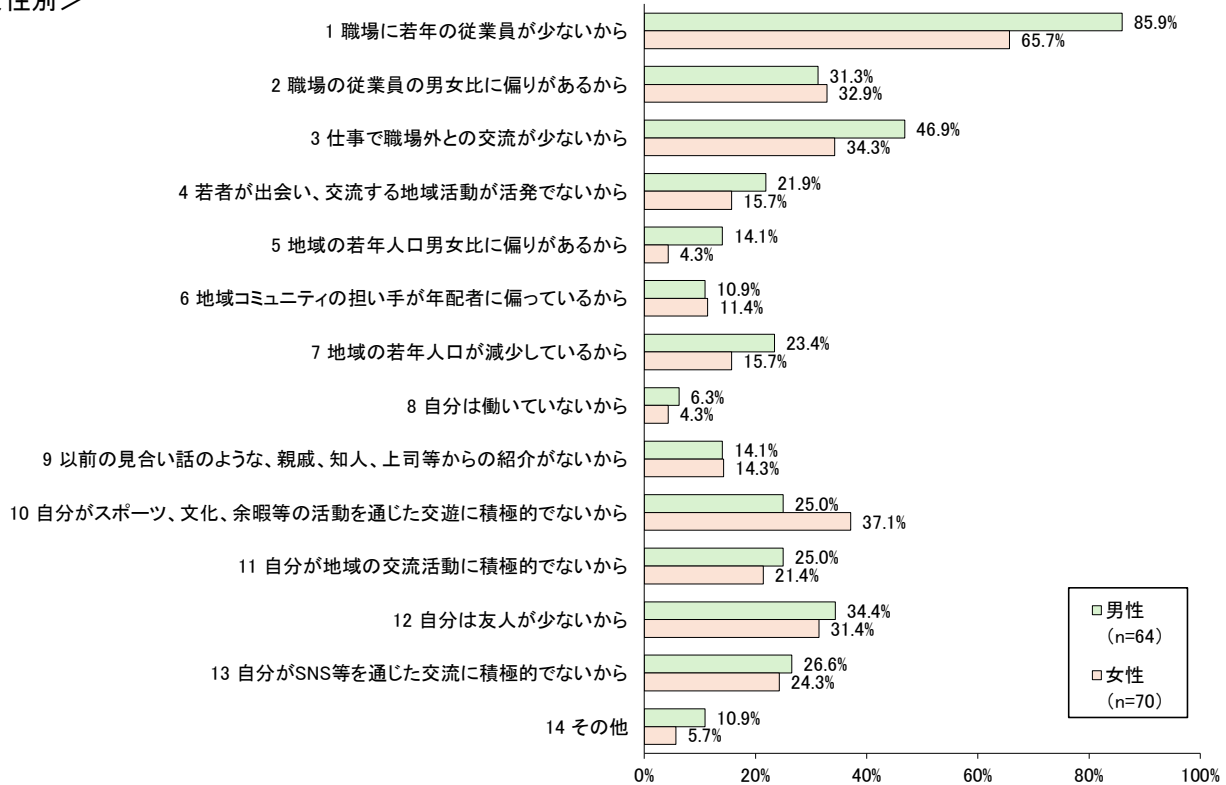
性別では、男女とも「職場に若年の従業員が少ないから」の割合(男性:85.9%、女性:65.7%)が最も高くなっています。その中で、男女の差が大きい項目(=10ポイント以上)は、男性が女性を上回っているのは「職場に若年の従業員が少ないから」(22.2ポイント差)、「仕事で職場外との交流が少ないから」(男性:46.9%、女性:34.3%…12.6ポイント差)であり、女性が男性を上回っているのは「自分がスポーツ、文化、余暇等の活動を通じた交遊に積極的でないから」(女性:37.1%、男性:25.0%…12.1ポイント差)となっています。

年代別では、上位の項目の順位は各年代とも全体とほぼ同じとなっています。その中で、「職場に若年の従業員が少ないから」の割合は年代が下がるが高まっています(20歳代:89.5%、30歳代:69.4%、40歳代:61.0%)。

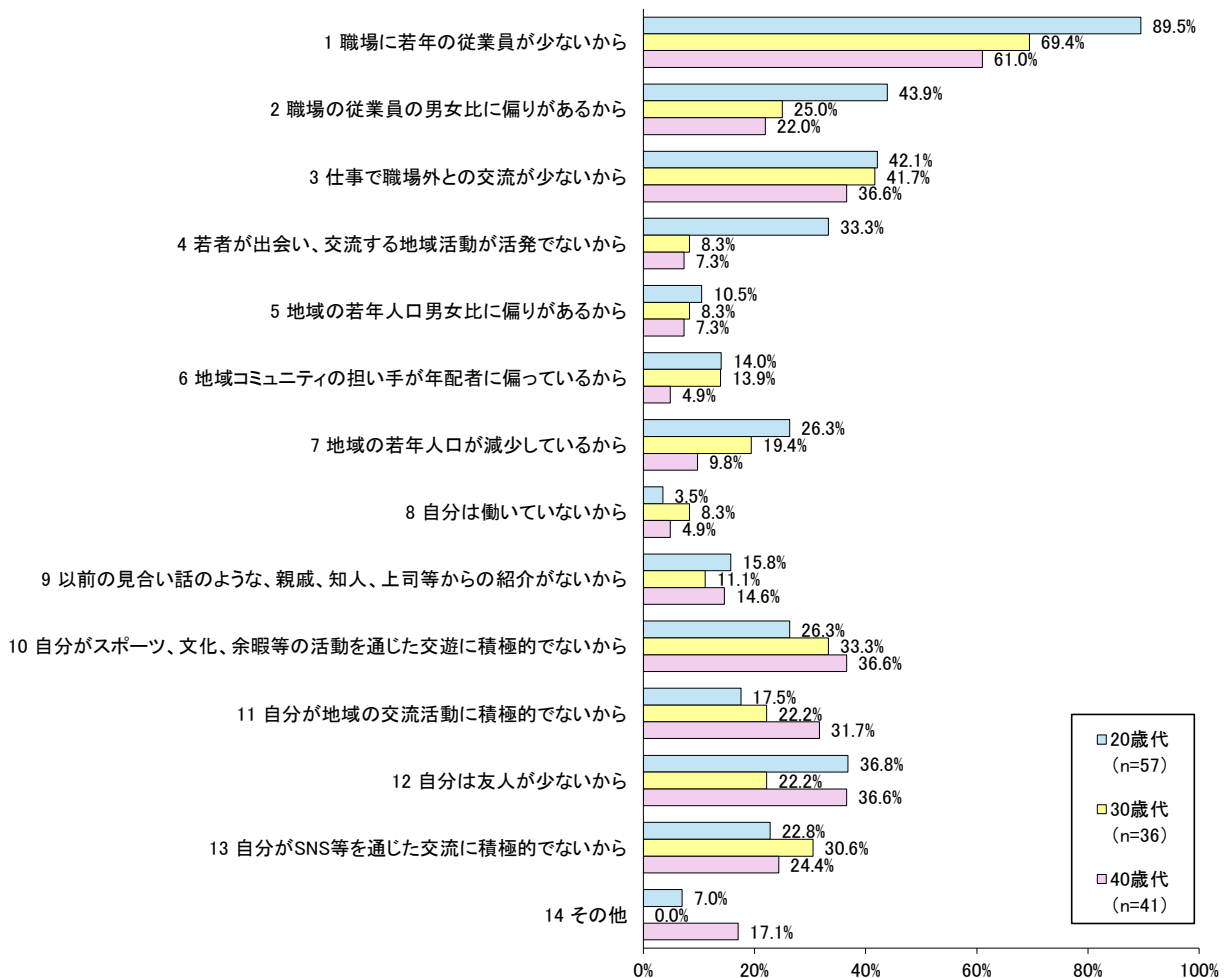
<全体>



<性別>



<年代別>



問37 あなたが独身でいる理由は何ですか。

次の項目の中から2つまで選んで○をつけてください。

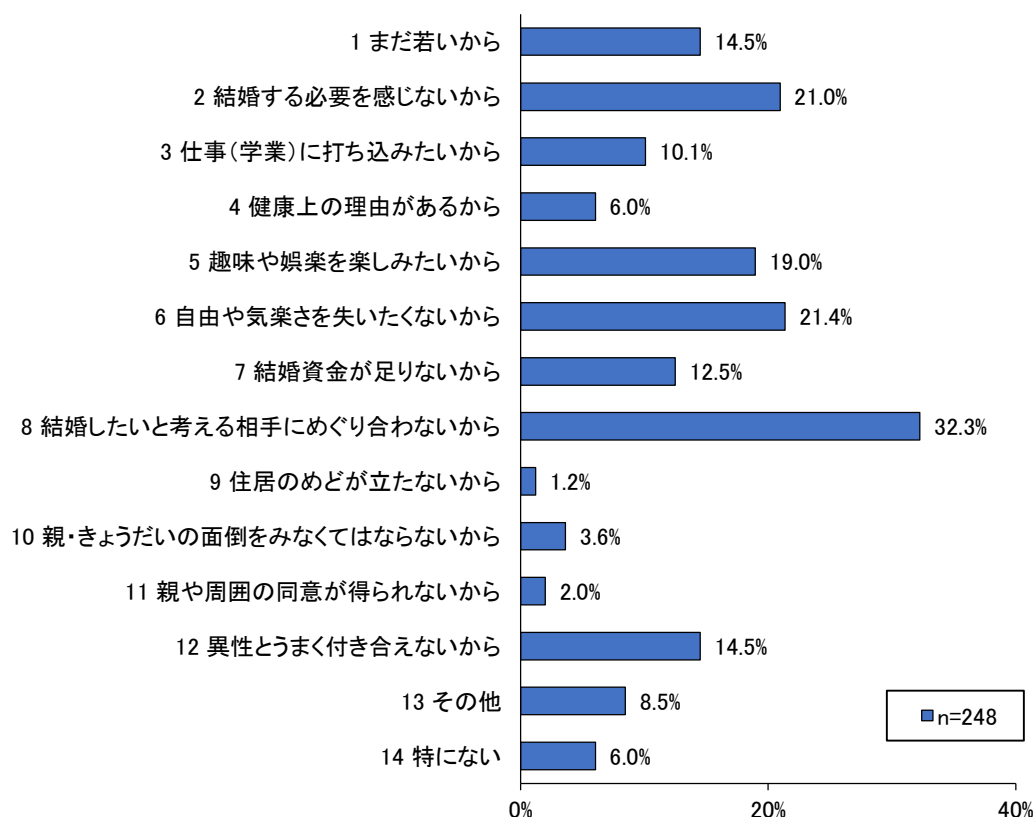
全体では、上位の2項目は「結婚したいと考える相手にめぐり合わないから」の割合(32.3%)が最も高く、次が「自由や気楽さを失いたくないから」(21.4%)となっています。

性別では、男女とも「結婚したいと考える相手にめぐり合わないから」の割合(男性:30.1%、女性:34.1%)が最も高くなっています。その中で、「結婚資金が足りないから」で男性が女性を11.2ポイント上回っています(男性:18.6%、女性7.4%)。

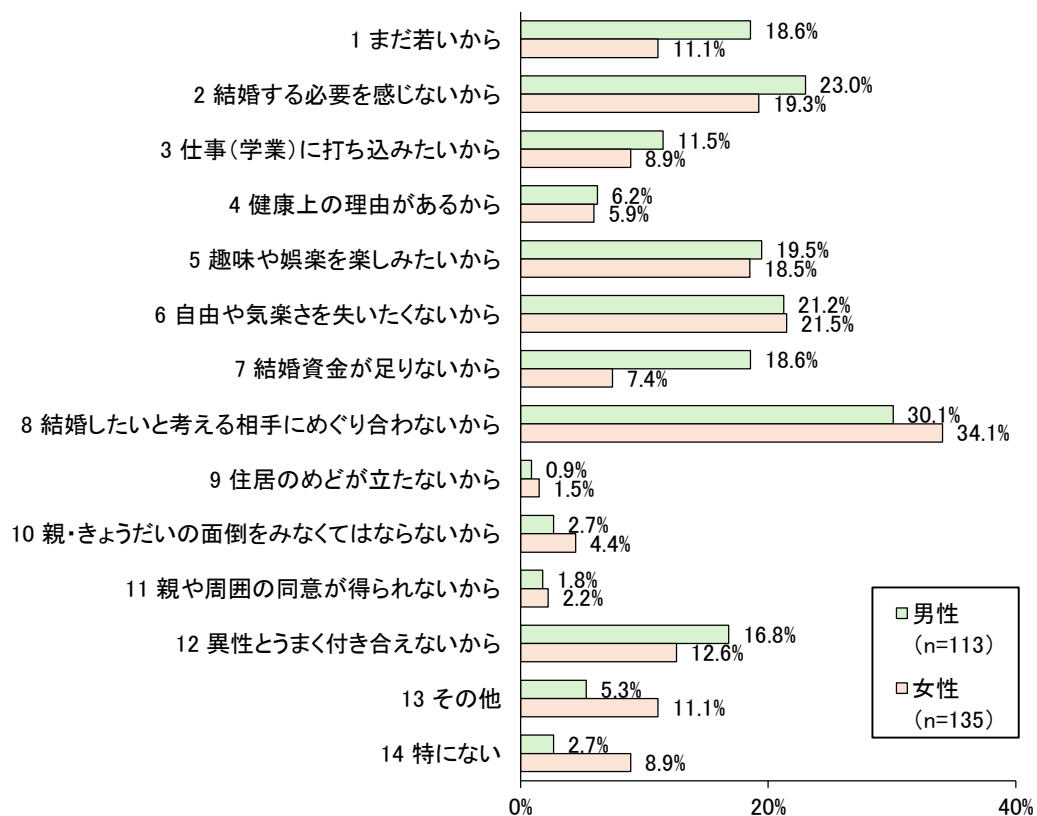
年代別では、各年代とも「結婚したいと考える相手にめぐり合わないから」の割合(20歳代:28.9%、30歳代:37.9%、40歳代:32.8%)が最も高くなっています。なお、20歳代は「まだ若いから」の割合(28.9%)も高くなっています。また、「自由や気楽さを失いたくないから」(20歳代:15.7%、30歳代:24.2%、40歳代:29.5%)と「結婚する必要を感じないから」(20歳代:14.9%、30歳代:25.8%、40歳代:27.9%)の割合は年代が上がるが高まっています。

過去調査との比較では、上位の項目の順位はほぼ同じ結果となっています。その中で、「結婚したいと考える相手にめぐり合わないから」の割合は低下する傾向(平成26年度:47.6%→令和元年度:44.5%→令和6年度:32.3%)、「自由や気楽さを失いたくないから」は高まる傾向(平成26年度:11.6%→令和元年度:14.6%→令和6年度:21.4%)で推移しています。

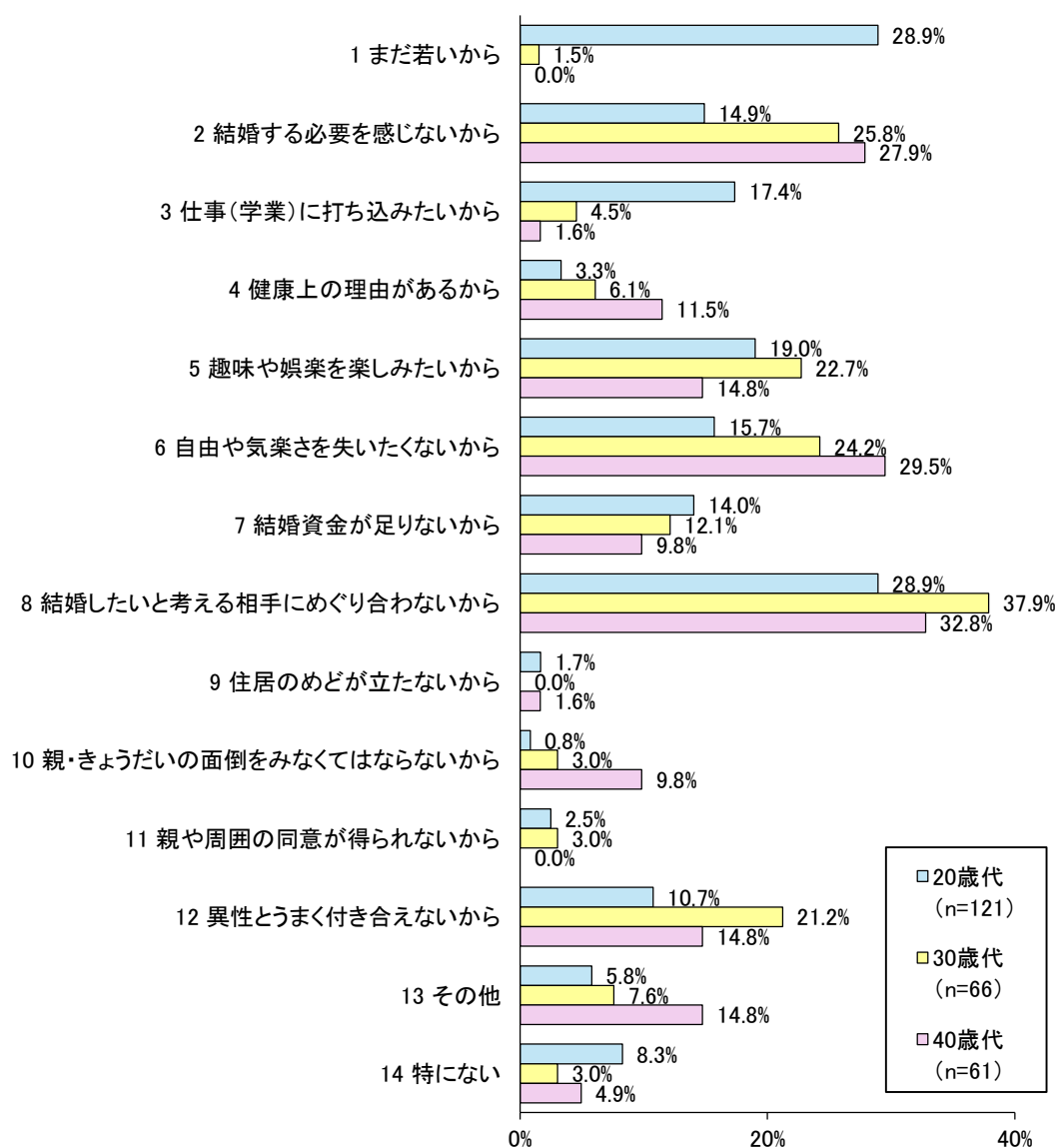
<全体>



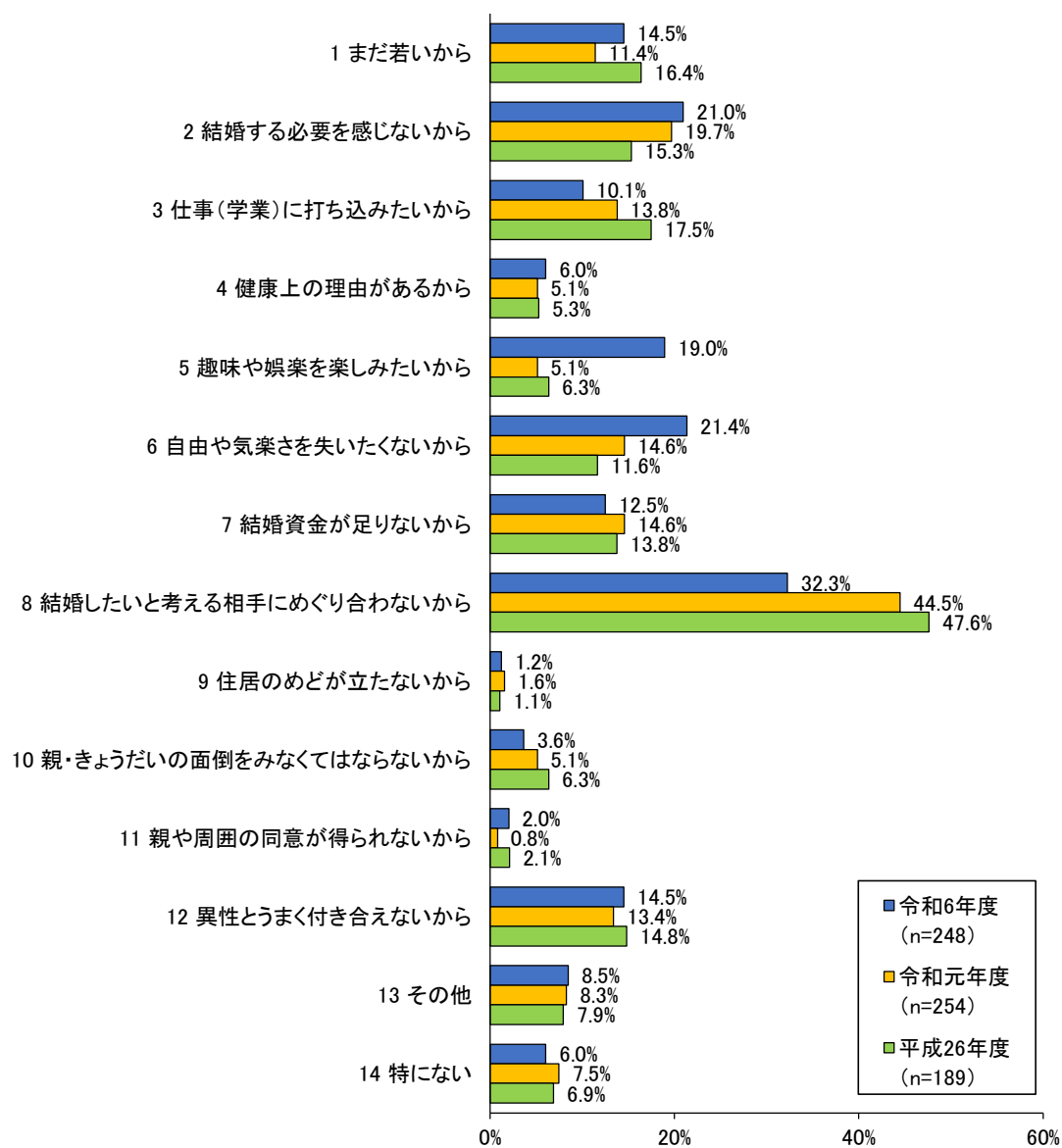
<性別>



<年代別>



<過去調査との比較>



問38 あなたは現在、独身でいることに対してどのように感じていますか。

次の項目の中から2つまで選んで○をつけてください。

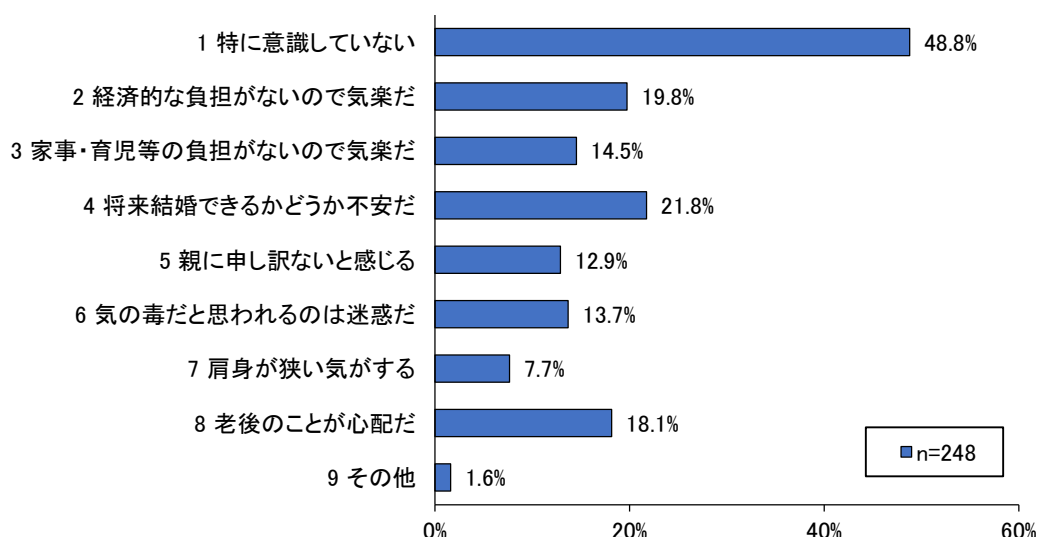
全体では、上位の2項目は「特に意識していない」の割合(48.8%)が最も高く、次が「将来結婚できるかどうか不安だ」(21.8%)となっています。

性別では、男女とも「特に意識していない」の割合(男性:53.6%、女性:44.9%)が最も高くなっています。なお、「特に意識していない」の割合は男性が女性を8.7ポイント、「老後のことが心配だ」は女性が男性を13.6ポイント(女性:24.3%、男性:10.7%)上回っています。

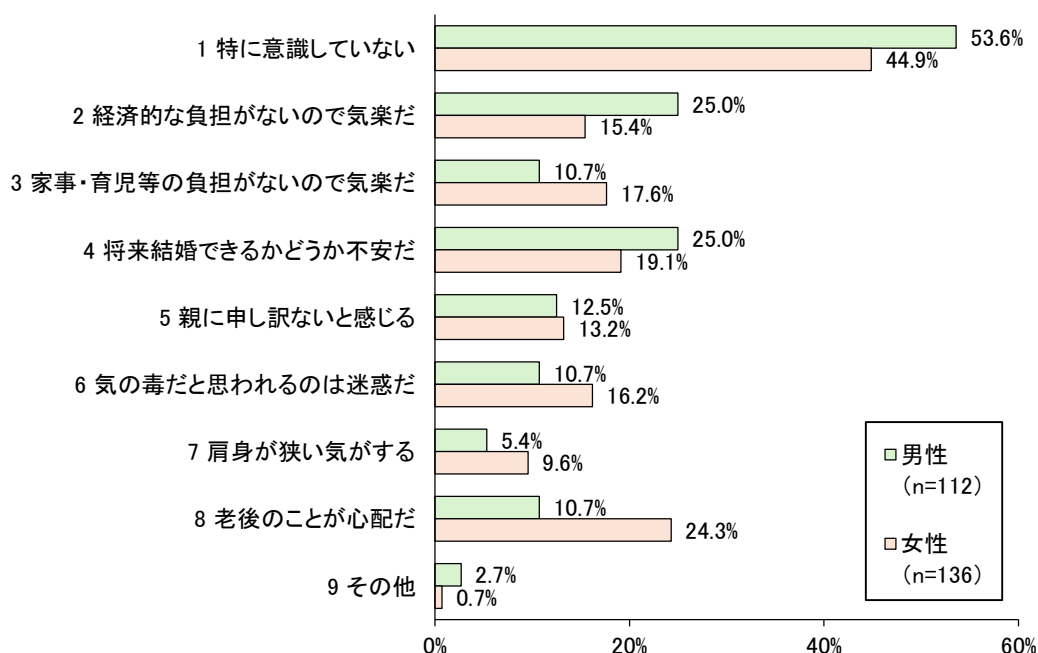
年代別では、「特に意識していない」の割合(20歳代:59.0%、30歳代:45.5%、40歳代:31.7%)は年代が下がると高まっており、「老後のことが心配だ」(20歳代:10.7%、30歳代:16.7%、40歳代:35.0%)は年代が上がると高まっています。

過去調査との比較では、上位の項目の順位はほぼ同じ結果となっています。その中で、「特に意識していない」の割合は高まる傾向(平成26年度:42.9%→令和元年度:36.6%→令和6年度:48.8%)、「将来結婚できるかどうか不安だ」は低下する傾向(平成26年度:35.4%→令和元年度:29.1%→令和6年度:21.8%)で推移しています。

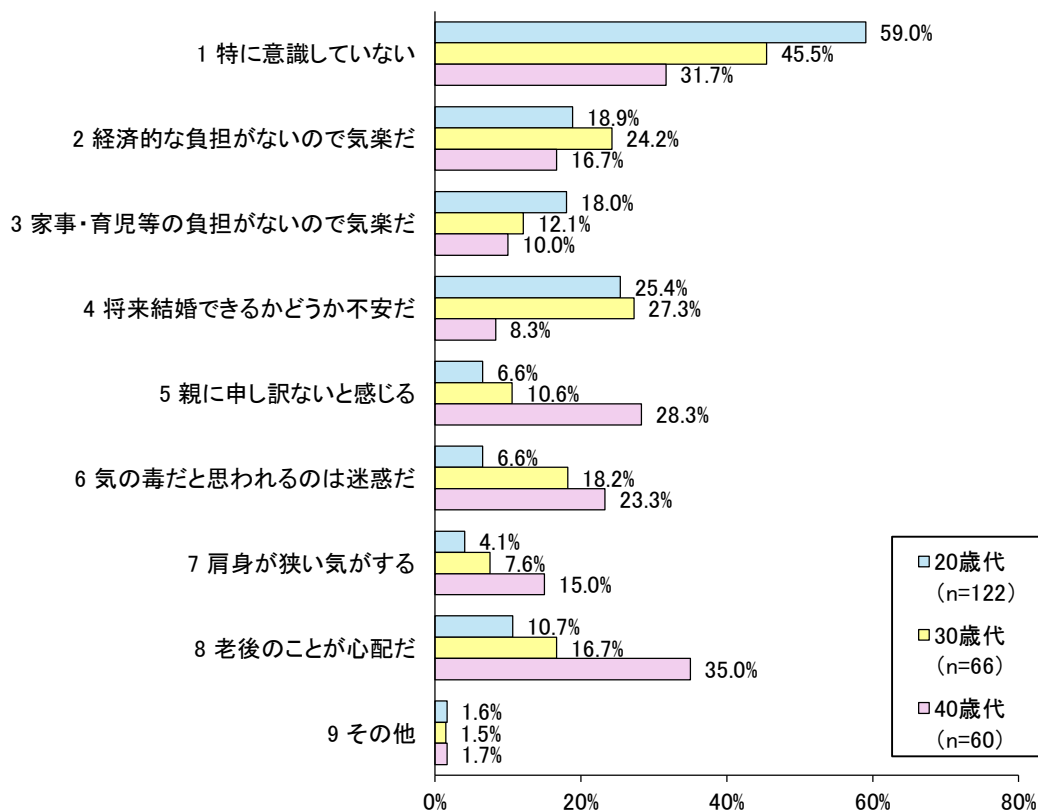
<全体>



<性別>



<年代別>



<過去調査との比較>

